

**保健師助産師看護師国家試験出題基準
平成 26 年版**

厚生労働省医政局看護課

目次

保健師助産師看護師国家試験出題基準改定部会委員名簿（平成 25 年 3 月現在）	・ ・ ・	i
保健師助産師看護師国家試験出題基準の利用法	・ ・ ・ ・ ・	ii

保健師国家試験出題基準

公衆衛生看護学概論	・ ・ ・ ・ ・	保- 1
公衆衛生看護方法論Ⅰ（個人・家族・グループ支援方法論）	・ ・ ・ ・ ・	保- 3
公衆衛生看護方法論Ⅱ（組織・集団・地域支援方法論）	・ ・ ・ ・ ・	保- 5
対象別公衆衛生看護活動論	・ ・ ・ ・ ・	保- 8
学校保健・産業保健	・ ・ ・ ・ ・	保-10
健康危機管理	・ ・ ・ ・ ・	保-12
公衆衛生看護管理論	・ ・ ・ ・ ・	保-14
疫学	・ ・ ・ ・ ・	保-15
保健統計	・ ・ ・ ・ ・	保-17
保健医療福祉行政論	・ ・ ・ ・ ・	保-18
索引	・ ・ ・ ・ ・	保-21

助産師国家試験出題基準

基礎助産学Ⅰ	・ ・ ・ ・ ・	助- 1
基礎助産学Ⅱ	・ ・ ・ ・ ・	助- 5
助産診断・技術学Ⅰ	・ ・ ・ ・ ・	助-13
助産診断・技術学Ⅱ	・ ・ ・ ・ ・	助-15
地域母子保健	・ ・ ・ ・ ・	助-26
助産管理	・ ・ ・ ・ ・	助-28
索引	・ ・ ・ ・ ・	助-31

看護師国家試験出題基準

必修問題	・ ・ ・ ・ ・	看- 1
人体の構造と機能	・ ・ ・ ・ ・	看- 9
疾病の成り立ちと回復の促進	・ ・ ・ ・ ・	看-13
健康支援と社会保障制度	・ ・ ・ ・ ・	看-18
基礎看護学	・ ・ ・ ・ ・	看-24
成人看護学	・ ・ ・ ・ ・	看-28
老年看護学	・ ・ ・ ・ ・	看-39
小児看護学	・ ・ ・ ・ ・	看-44
母性看護学	・ ・ ・ ・ ・	看-48
精神看護学	・ ・ ・ ・ ・	看-50
在宅看護論	・ ・ ・ ・ ・	看-55
看護の統合と実践	・ ・ ・ ・ ・	看-58
索引	・ ・ ・ ・ ・	看-60

保健師助産師看護師国家試験出題基準改定部会委員名簿

	氏名	所属
部会長	中山 洋子	福島県立医科大学看護学部教授
保健師	○ 佐伯 和子	北海道大学医学部保健学科教授
	荒木田 美香子	国際医療福祉大学小田原保健医療学部教授
	安藤 智子	銚子市地域包括支援センター主任保健師
	上原 里程	自治医科大学地域医療学センター公衆衛生学部門准教授
	大木 幸子	杏林大学保健学部教授
	酒井 陽子	秋田県立衛生看護学院保健科教務主任
	澁谷 いづみ	愛知県豊川保健所長
	田村 須賀子	富山大学大学院医学薬学研究部教授
	藤原 啓子	横浜市健康福祉局保健課人材育成担当課長
	助産師	○ 島田 三恵子
石川 紀子		愛育病院助産師師長
伊藤 裕司		国立成育医療センター周産期診療部新生児科医長
木下 千鶴		杏林大学医学部附属病院看護部看護師長
高田 昌代		神戸市看護大学看護学部教授
中込 さと子		山梨大学医学部看護学科教授
服部 律子		岐阜県立看護大学看護学部教授
村上 睦子		母子保健研修センター助産師学校副校長
百枝 幹雄		聖路加国際病院女性総合診療部部長
看護師 必修問題		○ 佐伯 由香
	遠藤 由美子	つくば国際大学医療保健学部教授
	山内 豊明	名古屋大学医学部保健学科教授
人体の構造と機能	○ 深井 喜代子	岡山大学大学院保健学研究科教授
	藤井 徹也	聖隷クリストファー大学看護学部教授
	松谷 伸二	北里大学看護学部教授
疾病の成り立ちと回復の促進	○ 林 直子	聖路加看護大学看護学部教授
	大生 定義	立教大学診療所所長
	林正 健二	京都橘大学健康科学部教授
健康支援と社会保障制度	○ 朝倉 京子	東北大学大学院医学系研究科教授
	滝川 陽一	江戸川区健康部保健予防課長
基礎看護学	○ 宮本 千津子	東京医療保健大学医療保健学部教授
	香春 知永	武蔵野大学看護学部教授
	八木 直子	船橋市立看護専門学校長
成人看護学	○ 外崎 明子	国立看護大学校看護学部教授
	宇都宮 明美	聖路加看護大学看護学部准教授
	清水 安子	大阪大学大学院医学系研究科教授
	葉梨 智子	東海大学医学部附属東京病院病棟医長
	林 優子	大阪医科大学看護学部学部長
老年看護学	○ 高山 成子	石川県立看護大学看護学部教授
	兼田 美代	甲南女子大学看護リハビリテーション学部講師
	坪井 桂子	神戸市看護大学看護学部准教授
小児看護学	○ 西村 真実子	石川県立看護大学看護学部教授
	野中 淳子	神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部教授
	古谷 佳由理	筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授
母性看護学	○ 島田 真理恵	上智大学総合人間科学部教授
	石井 邦子	千葉県立保健医療大学健康科学部教授
	谷津 裕子	日本赤十字看護大学看護学部教授
精神看護学	○ 萱間 真美	聖路加看護大学看護学部教授
	安藤 幸子	神戸市看護大学看護学部教授
	宮本 有紀	東京大学医学部講師
在宅看護論	○ 福井 小紀子	日本赤十字看護大学看護学部教授
	尾崎 章子	東邦大学看護学部教授
	佐藤 直子	聖路加看護大学看護実践開発研究センター認定看護師教育課程訪問看護コース教員
看護の統合と実践	○ 手島 恵	千葉大学大学院看護学研究科教授
	宇都宮 明美	聖路加看護大学看護学部准教授
	宮本 千津子	東京医療保健大学医療保健学部教授

(注) ○は幹事委員を示す。

(敬称略)

保健師助産師看護師国家試験出題基準の利用法

保健師国家試験、助産師国家試験及び看護師国家試験(以下、「保健師助産師看護師国家試験」という。)は、保健師助産師看護師法第 17 条に基づき、それぞれ保健師、助産師又は看護師として必要な知識及び技能について行われる。その内容は、保健師、助産師又は看護師が保健医療の現場に第一歩を踏み出す際に、少なくとも具有すべき基本的な知識及び技能であり、これを具体的な項目によって示したのが、保健師助産師看護師国家試験出題基準である。保健師助産師看護師試験委員は、保健師助産師看護師国家試験の妥当な内容、範囲及び適切な水準を確保するため、この基準に拠って出題する。

従って、保健師助産師看護師国家試験出題基準は、看護師等学校養成所の教育で扱われる全ての内容を網羅するものではなく、これらの教育のあり方を拘束するものでもない。

1. 目標

目標は、保健師助産師看護師国家試験における出題のねらいを示している。

2. 大・中・小項目の位置づけ

1)大項目は、中項目を束ねる見出しである。

2)中項目は、保健師助産師看護師国家試験の出題の範囲となる事項である。

3)小項目は、中項目に関する内容をわかりやすくするために示したキーワードである。これは、大・中項目に関連して出題される。

なお、出題範囲は記載された事項に限定されず、標準的な学生用教科書に記載されている程度の内容を含むものとする。

3. その他

提示する同一事象に対し、専門領域によって異なる表現がある場合には、括弧書きで提示している。試験委員の判断により、括弧内、外の語を適宜使用して出題するものとする。

括弧は以下の規定により用いている。

< >:直前の語の言い換えを示す。

例;世界保健機関<WHO>、根拠に基づいた看護<EBN>

():直前の語のさらに下位項目のうち、特に重要な項目等を例示する。

例;情報管理(個人情報保護)

保健師国家試験出題基準

保健師国家試験出題基準・目次

公衆衛生看護学概論	保- 1
公衆衛生看護方法論Ⅰ（個人・家族・グループ支援方法論）	保- 3
公衆衛生看護方法論Ⅱ（組織・集団・地域支援方法論）	保- 5
対象別公衆衛生看護活動論	保- 8
学校保健・産業保健	保-10
健康危機管理	保-12
公衆衛生看護管理論	保-14
疫学	保-15
保健統計	保-17
保健医療福祉行政論	保-18
索引	保-21

【公衆衛生看護学概論】

目標Ⅰ. 公衆衛生看護の理念・目的、対象、活動方法の特性について基本的な理解を問う。

目標Ⅱ. 地域社会の動向を把握し、人々の健康への影響と健康課題を解決するために必要な資源について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 公衆衛生看護学の成立基盤	A. 公衆衛生看護の変遷と意義	a. 諸外国の公衆衛生と公衆衛生看護の変遷
		b. 日本の公衆衛生と公衆衛生看護の変遷
		c. 公衆衛生看護と地域看護の概念
		d. 日本の保健医療福祉制度における保健師の位置付け
	B. 公衆衛生看護活動の理念	a. 公衆衛生の向上と増進
		b. 社会的公正
		c. 生存権・生活権の保障
		d. プライマリヘルスケア
		e. ヘルスプロモーション
		f. well-being
		g. エンパワメント、自己決定
		h. ノーマライゼーション
		i. 自立的な生活への支援・強化
		j. 健康を志向するまちづくり
	C. 公衆衛生看護の倫理	a. 基本的人権の尊重
b. 公的責任		
c. 権利擁護<アドボカシー>		
d. 個人情報保護と開示		
2. 公衆衛生看護学の対象と方法	A. 活動対象	a. 地域社会を構成する要素
		b. 個人・家族
		c. グループ
		d. 組織・機関
		e. コミュニティ、地域社会
		f. 個人・家族-グループ-組織-地域社会-国家の相互作用
	B. 活動の場	a. 行政
		b. 学校
		c. 職域
		d. 医療施設
		e. 福祉施設
		f. 国際

大項目	中項目	小項目
	C. 活動方法とその特性	a. 地区への責任
		b. 総合的な地区活動（個人・家族-グループ-地区の連動）
		c. 地区活動で用いる支援方法
		d. 個別・家族・グループへの支援方法
		e. 保健指導の定義
		f. 保健師が行う保健指導
		g. 健康と生活への支援
		h. 信頼関係の構築
		i. 一次予防、二次予防、三次予防
		j. ポピュレーションアプローチ、ハイリスクアプローチ
		k. アウトリーチ
		l. 住民参加・協働・パートナーシップ
		m. 調整・コーディネーション
		n. PDCAサイクルとマネジメント
		o. 施策化
		p. 健康危機管理
3. 社会環境の変化と健康課題	A. 社会情勢	a. 人口構成の少子高齢化
		b. 疾病構造の変化
		c. 科学技術の発展
		d. 経済・産業構造の変化
		e. 情報化
		f. 文化・価値観の多様化
		g. 男女共同参画社会
		h. 地域社会の流動化、関係の希薄化
		i. グローバリゼーション
		j. 社会格差
		k. 地方分権化
		l. 成果主義
	B. 環境	a. 地球温暖化と持続可能性
		b. 生活環境（公害・環境汚染）
		c. 大規模自然災害
		d. 大規模人為災害
	C. 健康に影響する生活環境と社会的要因	a. 健康の社会的決定要因
		b. 生活構造
		c. 家族形態
		d. 労働形態
		e. 健康格差
		f. リスクアセスメント
	D. 健康課題解決のための資源	a. 公助、共助、自助
		b. ソーシャルキャピタル
		c. ソーシャルネットワーク
		d. ソーシャルサポート

【公衆衛生看護方法論Ⅰ（個人・家族・グループ支援方法論）】

目標Ⅰ．地域を構成する人々の心身の健康、疾病・障害の予防、発生、回復、改善の過程のアセスメント及び健康課題の明確化について基本的な理解を問う。

目標Ⅱ．人々が主体的に問題を解決できるよう地域特性を踏まえた適切な接近技法・技術の選択及び支援方法について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目		
1. 公衆衛生看護の対象となる人々	A. 生活者としての対象理解と支援技法	a. 対象（個人）の発達段階と課題		
		b. 健康課題（顕在・潜在）の明確化と予測		
		c. 対象の把握と優先順位の決定		
		d. 対象者（個人）の多角的・継続的アセスメント（理解のための理論、アセスメント項目）		
		e. 健康レベルに応じた接近方法・技術		
	B. 家族を単位とした対象理解と支援技法	a. 家族機能の変遷		
		b. 家族の発達段階と課題		
		c. 健康課題（顕在・潜在）の明確化と予測		
		d. 対象の把握と優先順位の決定		
		e. 家族アセスメント（家族理解のための理論、アセスメント項目）		
		f. 家族支援計画、支援方法、評価		
	C. グループの理解と支援技法	a. グループの種類（サポートグループ、自主グループ、健康教育のグループ）		
b. 集団のアセスメント（集団理解のための理論、アセスメント項目）				
c. グループへの接近技法・技術				
2. 保健行動と保健指導	A. 保健行動	a. 健康課題としての生活習慣		
		b. 保健行動と行動変容		
		c. セルフケア行動		
	B. 保健指導	a. 動機付け		
		b. 価値規範		
		c. 自己効力感		
		d. 保健行動アセスメント		
		e. 行動変容で用いる理論		
		f. 地区活動への反映		
		3. 健康相談	A. 健康相談の目的と対象、方法	a. 目的、特性
				b. 対象、種類と特性
				c. 面接技術
B. 支援の実際	a. 地域の健康特性と健康相談立案			
	b. 健康相談の契機			
	c. 相談場面の場の設定・実践・評価			
	d. 事後フォローアップ			
	e. 地区活動への反映			

大項目	中項目	小項目		
4. 家庭訪問	A. 家庭訪問の目的と対象、方法	a. 目的、特性		
		b. 対象、特性		
		c. 初回・継続・拒否・緊急等の訪問技術		
	B. 支援の実際	a. 情報収集と問題把握		
		b. 対象選定と優先順位		
		c. 訪問指導計画、訪問準備・実践・評価		
		d. 訪問記録、報告		
		e. 信頼関係の形成・維持		
		f. 関係機関・職種との連携、社会資源の活用		
		g. 地区活動への反映		
5. ケアマネジメント	A. ケアマネジメントの目的と対象、方法	a. 目的、特性		
		b. 対象、特性		
		c. 構成要素		
	B. 支援の実際	a. 基本的過程（対象の発見、アセスメント、ケアプラン作成、実施、モニタリング、評価）		
		b. サービス調整、連携の実際		
		c. ケアマネジメント会議の運営		
		d. 事例管理、情報管理		
		e. 地区活動への反映		
		6. 健康診査、検診	A. 健康診査、検診の目的と対象、方法	a. 目的、特性
				b. 対象、種類と特性
c. スクリーニング基準、精度管理				
d. 健康診査場面の設営				
B. 支援の実際	a. 地域の健康特性と健康診査事業の立案			
	b. 参加対象と参加勧奨			
	c. 実施準備・実践・評価			
	d. 事後フォローアップ			
	e. 参加対象の自立支援・組織化			
	f. 未受診者の潜在ニーズの検討			
g. 関係機関・他機関との連携				
h. 地区活動への反映				

大項目	中項目	小項目	
7. 健康教育	A. 健康教育の目的と対象、方法	a. 目的、特性	
		b. 対象、種類と特徴（個別健康教育・集団健康教育）	
		c. 健康教育に用いる基礎理論	
		d. 健康学習	
	B. 支援の実際	a. 地域のニーズ把握・アセスメント、事業計画の立案	
		b. 参加対象と参加勧奨	
		c. 健康教育計画の立案、媒体の工夫	
		d. 実施準備・実践・評価	
		e. 事後フォローアップ	
		f. 参加対象への自立支援・組織化	
		g. 多職種連携・協働	
		h. 地区活動への反映	
	8. グループ支援	A. グループ支援の特徴	a. グループ支援の目的と対象
			b. グループ支援の方向性
c. グループ支援の過程・評価			
d. 地区活動への反映			
B. グループ支援の意義		a. 主体性の確立	
		b. 自己洞察の深まり	
		c. エンパワメント	
		d. コミュニティ・エンパワメント	
C. グループ支援の技術		a. グループダイナミックス	
		b. グループワーク	
		c. ファシリテーション技術	
D. グループ支援のアプローチ		a. 治療的・予防的アプローチ	
		b. 相互作用アプローチ	

【公衆衛生看護方法論Ⅱ（組織・集団・地域支援方法論）】

目標Ⅰ. 地域に顕在化・潜在化している健康課題を把握し、地域診断に基づく活動計画・実践・評価について基本的な理解を問う。

目標Ⅱ. 住民ニーズの施策化など、地域における組織的な解決方法について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 地区活動	A. 地区への責任の考え方	a. 公衆衛生看護の対象としての地区（コミュニティ）
		b. 地区の定義
		c. 地区への責任と公平性
		d. ポピュレーションアプローチ、ハイリスクアプローチ
	B. 総合的な地区活動の特徴	a. 健康なまちづくり
		b. 予防活動
		c. 住民・組織メンバーとの協働
		d. 自立への支援

大項目	中項目	小項目	
	C. 地区活動で用いる支援方法	a. 地区情報の収集・分析・管理 b. 関係機関・関係者との連携・協働 c. 保健サービスの監査、点検、改善	
2. 地域診断	A. 地域診断の概念	a. 地域診断の考え方と特徴	
		b. 地域診断に関する様々なモデル	
	B. 地域診断の過程	a. 情報収集、多角的・継続的アセスメント	
		b. 日常的な保健師活動からの顕在ニーズの把握と分析	
		c. 日常的な保健師活動からの潜在ニーズの把握と分析	
		d. 住民ニーズの把握と住民の意見聴取	
		e. 既存の統計資料の分析と解釈	
		f. 社会資源・関係機関の把握と分析	
		g. 実態調査	
		h. 地域の健康課題の予測	
3. 活動の計画・実践・評価	A. 活動計画および事業計画の策定	a. 情報分析と健康課題の提示	
		b. 解決すべき健康問題の特定、優先順位の決定	
		c. 目的、目標の明確化と合意形成	
		d. 計画の根拠の明確化	
		e. 活動内容および活動方法の選定と手順	
		f. 保健師活動の必要量と稼働量	
		g. マンパワー〈人的資源〉、予算の確保	
		h. 評価計画の策定	
		B. 計画の推進（進行管理、計画調整）	a. 関係者との連絡・調整
			b. 事業の運営、モニタリング
	c. 計画変更などの調整		
	d. 計画の周知		
	C. 計画の見直し、評価	a. 計画の達成状況の確認	
		b. 評価（プロセス評価、アウトカム評価）	
		c. 経済的評価	
		d. 次年度への反映	
	4. 計画策定・施策化と予算	A. 保健福祉対策と事業計画および評価	a. 公共政策と保健計画
			b. 都道府県および市町村の基本的な計画の位置付け
			c. 法制度に基づく保健計画の策定
			d. 新たな健康課題を解決する事業計画の策定
e. 計画策定への住民・組織メンバー・関係者の参加の促進			
f. 保健政策と医療、福祉、教育、労働、連携			
g. 評価（健康課題と達成状況の提示）			
h. 事業計画の予算への反映			

大項目	中項目	小項目
5. 地域組織活動	A. 地域組織活動の考え方	a. 組織の構造
		b. 組織化
		c. 住民参加
		d. コミュニティ・エンパワメント
	B. 地域組織の種類	a. 住民組織（地区組織、自治会組織）
		b. 行政委託型組織
		c. 当事者組織
		d. NPO、ボランティア組織
	C. 地域組織活動への支援	a. 主体性を高める支援・評価
		b. 地域住民の自助、共助および協働を推進する支援・評価
		c. 組織活動の安定や活性化を図る支援・評価
		d. 地域組織活動における保健師の役割
	D. 地域組織活動の発展・貢献	a. 地域組織間での情報共有と連携
b. 協働活動の発展と支援		
c. 民間組織との協働		
6. 地域ケアシステムづくり	A. 地域ケアシステムの構築	a. 地域ケアシステム概念
		b. 地域ケアシステムの発展過程
		c. 共通認識の形成と目標の設定
		d. 地域ケアシステムにおける個人と組織の役割、機能
	B. ネットワークの形成と地域ケアコーディネーション	a. 仲間作りと関係者のネットワーク
		b. 住民とのパートナーシップ
		c. 住民、関係者とのチームワーク、協働
		d. 関係機関、関係職種との連携
		e. 連携会議の企画運営
		f. 地域ケアシステム構築への反映

【対象別公衆衛生看護活動論】

目標Ⅰ. 発達段階、健康課題に応じた個人・家族、集団及び組織の生活と健康状態を評価について基本的な理解を問う。

目標Ⅱ. 人々が主体的に課題を解決できるよう地域の社会資源を活用した支援活動について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 母子保健活動	A. 母子保健福祉の動向	a. 母子保健の理念、歴史的変遷、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
		b. 母子保健施策と保健師活動
		c. 地域・集団の母子健康課題、優先順位
	B. 乳幼児期の発育・発達および生活の特徴と保健指導	a. 乳幼児の発育・発達
		b. 乳幼児健康診査
		c. 健康問題の早期発見とその対応
		d. 基本的生活習慣とその指導
		e. 予防接種
		f. 事故予防、リスクアセスメント
	C. 女性のライフステージの保健指導	a. 思春期
		b. 妊娠期・産褥期
		c. 育児期
		d. 成熟期
		e. 更年期
	D. 子育てのリスクをもつ親子への保健指導	a. 未熟児、低出生体重児、多胎児
		b. 心身障害児、慢性疾患児、発達障害児
		c. ひとり親家庭
		d. 児童虐待
		e. 外国人母子
f. 地域のサポートシステム、社会資源		
2. 成人保健活動	A. 成人保健の動向	a. 成人保健の理念、歴史的変遷
		b. 成人保健施策と保健師活動
		c. 地域・集団の成人期健康課題、優先順位
	B. 成人期の生活と保健指導	a. 成人各期の特徴、健康課題アセスメント、保健指導
		b. 生活習慣病予防、特定健康診査、特定保健指導
		c. 地域のサポートシステム、社会資源
3. 高齢者保健活動	A. 高齢者保健福祉の動向	a. 高齢者保健の理念、歴史的変遷
		b. 高齢者保健福祉施策と保健師活動
		c. 地域・集団の高齢者健康課題、優先順位
	B. 高齢者の生活と保健指導	a. 高齢者の特徴、健康寿命、健康課題アセスメント、保健指導
		b. 地域のサポートシステム、社会資源
	C. 在宅高齢者と家族への保健指導	a. 介護予防
		b. 要支援・要介護高齢者
		c. 認知症
		d. ターミナルケア
		e. 高齢者虐待、セルフネグレクト

大項目	中項目	小項目	
4. 精神保健活動	A. 精神保健福祉の動向	a. 精神保健の理念、歴史的変遷	
		b. 精神保健福祉施策と保健師活動	
		c. 地域・集団の精神保健、優先順位	
	B. 精神障害者の生活と保健指導	a. 精神障害者の生活の理解	
		b. 社会復帰・地域生活支援への働きかけ、自立支援	
		c. 地域のサポートシステム、社会資源	
	C. 社会病理を背景とする精神的問題	a. 薬物乱用、薬物依存	
		b. アルコール関連障害	
		c. うつ状態	
		d. 摂食障害	
		e. 自殺	
		f. 家庭内暴力、DV<ドメスティック・バイオレンス>	
g. 社会的引きこもり			
5. 障害者（児）保健活動	A. 障害者（児）保健福祉の動向	a. 障害者（児）保健の理念、歴史的変遷	
		b. 障害者（児）保健福祉施策と保健師活動	
		c. 地域・集団の障害者（児）の健康課題、優先順位	
	B. 障害者（児）の生活と保健指導	a. 障害者（児）のとらえ方、健康課題アセスメント、保健指導	
		b. 障害者（児）と家族への保健指導	
		c. 障害の予防、二次障害の予防、自立支援	
		d. 地域のサポートシステム、社会資源	
		e. 住環境、地域環境整備	
	C. 権利擁護	a. 社会参加、人権擁護	
		b. 障害者（児）虐待	
	6. 難病の保健活動	A. 難病対策の動向	a. 難病対策の理念、歴史的変遷
			b. 難病対策と保健師活動
c. 地域の難病患者の健康課題、優先順位			
B. 難病患者の生活と保健指導		a. 難病患者と家族の特徴、健康課題アセスメント、保健指導	
		b. 在宅療養難病患者と家族への保健指導	
		c. 地域のサポートシステム、社会資源	
		d. 医療依存度の高い難病患者への支援	

大項目	中項目	小項目
7. 感染症の保健活動	A. 感染症対策の動向	a. 感染症保健活動の理念, 歴史的変遷
		b. 感染症と感染症対策
	B. 感染症対策と保健指導	a. 感染症予防
		b. 予防接種
		c. 感染症発生時の対応
	C. 疾病管理	a. 一類・二類・三類・四類・五類感染症、指定感染症、新感染症、新型インフルエンザ感染症（感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律）、食中毒
		b. 結核
		c. ヒト免疫不全ウイルス<HIV>感染症、後天性免疫不全症候群<AIDS>、性感染症<STD>
		d. 新興・再興感染症
		e. ウイルス性肝炎
8. 歯科保健活動	A. 歯科保健の動向	a. 歯科保健統計
		b. 歯科保健施策
	B. 生涯にわたる各段階（発達段階）の歯科保健	a. ライフサイクルと健康レベルに応じた歯科保健サービス
		b. 障害者（児）、難病患者等の歯科保健サービス
	C. 歯科保健に関連する歯科疾患	a. う蝕
		b. 歯周疾患
		c. 口腔機能低下
		d. 誤嚥性肺炎

【学校保健・産業保健】

目標Ⅰ. 学校保健・産業保健の理念と目的、制度とシステム、健康課題、展開方法について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 学校保健	A. 学校保健の理念と目的	a. 学校保健の定義と目的
		b. 養護教諭の役割・機能
	B. 学校保健の歴史と現状	a. 学校保健の歴史と社会背景
		b. 学校における看護職、養護教諭の活動の歴史
		c. 学校保健活動の実態

大項目	中項目	小項目
	C. 学校保健安全の制度とシステム	a. 学校保健安全に関する法規
		b. 学校保健安全組織と人材
		c. 保健教育、保健管理、組織活動
		d. 健康診断と事後措置
		e. 保健室の機能、保健室運営
		f. 学校給食、食育
		g. 環境管理、学校環境衛生基準
		h. 救急体制、安全管理、危機管理
	D. 学校保健の対象と健康課題	a. 発達段階別健康課題
		b. 特別支援教育を必要とする子ども
		c. 不登校
		d. いじめ
		e. 虐待
		f. 医療のニーズが高い子ども
		g. 感染症
		h. 若年妊娠、性感染症<STD>
		i. 急性ストレス障害・外傷後ストレス障害<PTSD>
		j. 自殺
	E. 学校保健の展開	a. 学校保健情報の把握
		b. 学校保健計画・学校安全計画の企画と運営
		c. 健康相談、応急処置
		d. 学校管理下の事故の現状
		e. 地域保健・地域の関係機関、地域ボランティアとの連携
2. 産業保健	A. 産業保健の理念と目的	a. 産業保健の定義と目的
		b. 保健師の役割・機能
	B. 産業保健の歴史と現状	a. 産業保健の変遷、社会背景
		b. 産業における看護職の活動の歴史
		c. 労働災害および業務上疾病の推移と現状
	C. 産業保健の制度とシステム	a. 労働安全衛生に関する法規
		b. 労働安全衛生に関する組織と人材
		c. 労働衛生管理体制
		d. 作業環境管理・作業管理・健康管理
		e. 労働衛生教育
		f. 労働安全衛生マネジメントシステム・リスクマネジメント
		g. 一般健康診断と事後措置
h. 特殊健康診断と事後措置		
i. 快適職場の形成		

大項目	中項目	小項目
	D. 産業保健における健康課題	a. 職業性疾病の種類、予防対策
		b. 作業関連疾患の種類、予防対策
		c. 生活習慣病予防対策、特定健康診査・特定保健指導
		d. 職場のメンタルヘルスケア、ストレス対策、自殺対策
		e. ハラスメント対策
		f. 母性保護
		g. 雇用形態（非正規雇用、派遣労働）と健康管理
		h. 過重労働
		i. ワーク・ライフ・バランス
		j. 高齢労働者
		k. 障害者雇用
	l. 職場復帰支援	
	E. 産業保健の展開	a. 産業保健計画と評価
		b. 個別的・集団的・組織的展開方法
		c. 地域・職域連携活動

【健康危機管理】

目標. 健康危機管理の理念と目的、制度とシステム、健康課題及び展開方法について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 健康危機管理対策	A. 健康危機管理の定義と要因	a. 健康危機管理の定義・分類
		b. 健康危機を起こす要因（災害、感染症、食品、飲料水、化学物質、放射線、事故）
	B. リスクマネジメント	a. リスクアセスメント
		b. リスクへの対応とその評価
		c. 事業継続計画<BCP (Business Continuity Plan) >
		d. リスクコミュニケーション

大項目	中項目	小項目		
	C. 健康危機管理の要素	a. 平常時の体制準備		
		b. 情報収集、初動調査		
		c. 原因分析		
		d. 健康危機のレベルに応じた対策の検討・決定		
		e. 被害者、家族、地域住民への対応		
		f. 健康被害の拡大防止		
		g. 健康回復へ向けた支援、外傷後ストレス障害<PTSD>への対応		
		h. 対策の評価		
		i. 再発防止		
		j. 広報およびマスコミ対策		
		2. 感染症集団発生時の保健活動	A. 感染症調査	a. 初動体制
b. 積極的疫学調査				
c. 患者調査、接触者調査、環境調査				
d. 疫学解析				
B. 集団発生時の保健活動	a. 集団発生時の患者・接触者・関係者への保健指導			
	b. 感染経路別の対策			
	c. 手洗い指導			
	d. 消毒			
	e. 予防接種			
	f. 集団施設の種類に応じた対策（保育園、高齢者施設、障害者施設、医療機関）			
	3. 災害と保健活動		A. 災害の定義と災害時の保健活動の目的	a. 災害の定義・分類
				b. 災害時の保健活動の目的
c. 自然災害に対する健康危機管理				
d. 大規模人為災害に対する健康危機管理				
B. 災害への保健活動の制度とシステム		a. 災害支援の関係法規		
		b. 災害支援の制度とシステム		
C. 平常時の保健活動		a. 災害時の要支援者の実態把握		
		b. 災害対策マニュアル、災害訓練		
		c. 防災・減災教育・普及啓発		
		d. 救援・支援ネットワーク構築		
D. 災害応急対策期の保健活動		a. 発災直後の初動対策		
		b. 被害状況に関する情報収集・情報集約		
	c. 緊急的健康課題の分析			
	d. 救護班・避難所・在宅での健康ニーズの把握と対応			
	e. 避難所・地域の環境モニタリングと対策			
	f. 緊急支援活動のマネジメント			

大項目	中項目	小項目
	E. 災害復旧・復興対策期の保健活動	a. 避難所・仮設住宅・在宅生活者の健康ニーズの把握、活動計画の策定、実施、評価、見直し
		b. 二次的健康障害（外傷後ストレス障害<PTSD>、廃用症候群（生活不活発病）、孤独死）の予防と対応
		c. 職員及び支援者の心身の健康管理
		d. 支援要請の検討と支援活動のコーディネート
		e. コミュニティ再構築への支援
		f. 中長期の健康課題の特定と保健活動の進行管理
		g. 復興期における保健計画の策定・実施・評価・見直し

【公衆衛生看護管理論】

目標 I. 公衆衛生看護管理の構成要素、専門的自律と人材育成について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 公衆衛生看護管理の構成要素	A. 公衆衛生看護管理の目的と機能	a. 公衆衛生看護管理の定義
		b. 公衆衛生看護活動における管理的機能
		c. 地域における健康課題の優先順位の検討
		d. サービスの提供体制の整備、指導・監視
		e. コミュニティの健康水準の向上への提言
		f. 職員と住民の権利保障
		g. 職業倫理
	B. 情報管理	a. 情報管理に関する法制度
		b. 看護活動に関する地域情報管理
		c. 情報公開
		d. 個人情報保護
	C. 地域ケアの質の保証	a. サービスの質の評価・改善への支援
		b. 地域におけるケアの継続的・包括的展開
		c. 他職種・他機関との課題の検討
		d. 地域の特性を活かした社会資源の開発と管理
	D. 人事管理	a. 計画的人事配置
		b. 評価
	E. 予算管理	a. 保健事業と人材育成の予算編成・確保
		d. 予算の執行管理、評価
	F. 組織運営と管理	a. 組織目的、各部門の役割、指示系統の確認
		b. 他部門との連携、情報の共有、協働

大項目	中項目	小項目
2. 専門的自律と人材育成	A. 保健師教育	a. 保健師教育制度の変遷
		b. 保健師教育課程
	B. 継続教育	a. 現任教育の目的と方法
		b. 人材育成方針・計画の策定 (OJT、OFF-JT)
	C. 専門的自律	a. 保健活動の研究的評価方法の習得
		b. 事業の成果および研究的評価の蓄積
		c. 研究成果の活用

【疫学】

目標. 公衆衛生看護の基盤となる疫学の概念と方法について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目		
1. 疫学の概念	A. 疫学の定義と分類	a. 疫学の定義		
		b. 記述疫学と分析疫学		
		c. 人・場所・時間		
	B. 曝露と疾病発生	a. 危険因子		
		b. 診断基準		
		c. 疫学調査での診断の妥当性		
	C. 因果関係	a. 時間的關係		
		b. 強固性と一致性		
		c. 多要因原因説		
	D. 疫学研究における倫理	a. 疫学研究に関する倫理指針		
	2. 疾病頻度の指標	A. 指標の考え方	a. 割合、率、比	
		B. 割合	a. 有病率	
b. 累積罹患率				
c. 致命率<致死率>				
d. 相対頻度				
C. 率		a. 罹患率		
		b. 死亡率		
3. 曝露効果の指標		A. 相対危険	a. 罹患率比・死亡率比	
			b. 累積罹患率比<リスク比>	
	c. オッズ比			
	d. ハザード比			
	B. 寄与危険	a. 寄与危険		
		b. 寄与危険割合		
		c. 人口<集団>寄与危険		
		d. 人口<集団>寄与危険割合		
		4. 疫学調査法	A. 対象集団の選定	a. 母集団と対象集団
				b. 標本抽出法
c. 無作為抽出				

大項目	中項目	小項目
	B. 調査方法（研究デザイン）	a. 生態学的研究
		b. 横断研究
		c. コホート研究
		d. 症例対照研究
		e. 介入研究
	C. 誤差	a. 偶然誤差と精度
		b. 系統誤差と妥当性
	D. 偏り<バイアス>	a. 選択の偏り
		b. 情報の偏り
	E. 交絡とその制御方法	a. 交絡の概念
		b. 無作為化（割付）
		c. 制限
		d. マッチング
e. 層化（標準化）		
5. スクリーニング	A. スクリーニングの目的と要件	a. スクリーニングの目的
		b. スクリーニングの要件
	B. スクリーニングの評価	a. 敏感度と特異度
		b. 陽性反応的中度
		c. 偏り<バイアス>
6. 疾病登録	A. 疾病登録の意義	a. 疾病登録の目的
		b. がん登録
		c. 脳卒中登録
7. 主な疾患の疫学	A. 母性関連疾患の疫学	※ A～Mの共通の小項目 a. 頻度と分布 b. 危険因子
	B. 小児疾患の疫学	
	C. がんの疫学	
	D. 心血管疾患（高血圧を含む）の疫学	
	E. 脳血管疾患の疫学	
	F. 糖尿病の疫学	
	G. 難病の疫学	
	H. 精神疾患の疫学	
	I. 感染症の疫学	
	J. 事故の疫学	
	K. 学校保健の疫学	
	L. 産業保健の疫学	
	M. 環境の疫学	
8. 疫学と公衆衛生看護	A. 社会疫学	a. 健康の社会的決定要因
		b. 健康格差
	B. 政策疫学	a. 政策の方針決定
		b. リスクファクターと予防対策
	C. 臨床疫学	a. ケア効果の評価
		b. エビデンスに基づく公衆衛生看護

【保健統計】

目標. 公衆衛生看護の基盤となる統計学の基礎、情報処理技術、統計情報と活用方法について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目	
1. 統計学の基礎	A. データの種類と分布	a. カテゴリーデータ	
		b. 順序データ	
		c. 数量データ	
		d. ヒストグラム	
	B. 測定と尺度	a. 主要な健康評価尺度	
		b. 主要な心理発達尺度	
		c. 主要な活動・行動・社会尺度	
	C. 主な確率分布	a. 正規分布	
		b. 二項分布	
	D. 代表値と散布度	a. 平均（算術平均）	
		b. 幾何平均	
		c. 中央値	
		d. 最頻値<モード>	
		e. 分散と標準偏差	
		f. 四分位数とパーセンタイル値	
	E. 関連の指標	a. 相関・散布図	
		b. 回帰	
		c. クロス集計	
	F. 統計分析	a. 点推定と区間推定	
		b. 帰無仮説と統計学的有意性	
		c. 割合に関する推定と検定	
		d. 平均に関する推定と検定	
		e. 相関係数に関する推定と検定	
		f. 多変量解析	
	G. データの表現	a. 図表の作成	
		b. プレゼンテーション	
	2. 人口統計	A. 人口静態統計	a. 日本の人口
			b. 年少人口、老年人口
c. 世界の人口			
B. 人口動態統計		a. 死亡	
		b. 出生と人口再生産	
		c. 死産	
		d. 婚姻と離婚	
C. 生命表		a. 平均寿命	
		b. 健康寿命	
D. 主な健康指標		a. 合計特殊出生率	
		b. 年齢調整死亡率	
		c. 標準化死亡比<SMR>	

大項目	中項目	小項目
3. 保健統計調査	A. 基幹統計	a. 国勢調査
		b. 人口動態統計
		c. 国民生活基礎調査
		d. 患者調査
		e. 医療施設調査
		f. 学校保健統計
		g. 社会生活基本調査
	B. その他の統計調査	a. 感染症発生動向調査
		b. 食中毒統計
		c. 国民健康・栄養調査
		d. 地域保健・健康増進事業報告
		e. 身体障害児・者等実態調査
	C. 医療経済統計	a. 国民医療費
		b. 介護サービス施設・事業所調査
D. 疾病・障害の定義と分類	a. 国際疾病分類<ICD>	
	b. 国際生活機能分類<ICF>	
4. 情報処理	A. 情報処理の基礎	a. データの電子化
		b. 情報セキュリティ
		c. データベース
		d. レコードリンケージ
	B. 文献検索	a. 一次情報・二次情報
		b. 文献検索方法

【保健医療福祉行政論】

目標Ⅰ. 保健医療福祉行政・財政の理念と仕組み、地域の健康課題の解決に必要な社会資源の開発、保健医療福祉サービスの評価及び調整方法について基本的な理解を問う。

目標Ⅱ. 地方公共団体の保健医療福祉行政施策の計画策定、実行、評価のサイクルについて基本的な理解を問う。

目標Ⅲ. 公衆衛生行政の各分野における保健師の役割、地域での活動方法について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 保健医療福祉行政・財政の理念と仕組み	A. 保健医療福祉の行政	a. 保健医療福祉行政の概要
		b. 国と地方公共団体の行政の仕組み
		c. 地方自治と地方分権
		d. 情報公開と個人情報保護
		e. 行政における保健師の役割と活動
	B. 保健医療福祉の財政	a. 国と地方公共団体の財政の仕組み
		b. 予算の機能と原則
		c. 社会保障の給付と財源、国民負担
	C. 公衆衛生に関する国際的な活動	a. 国際連合と世界保健機関<WHO>の役割
		b. 理念の変遷（プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーション）
		c. 保健医療分野の国際協力
		d. 政府開発援助<ODA>

大項目	中項目	小項目
2. 社会情勢の変化と保健医療福祉行政の考え方の変遷	A. 公衆衛生政策の基盤形成	a. 社会事業としての国の政策
		b. 戦後の公衆衛生政策の基盤形成
		c. 近年の公衆衛生政策の発展
		d. 諸外国における公衆衛生政策の変遷
	B. 政策の充実と発展	a. 地域保健法の制定と地域保健対策
		b. 健康増進法と健康なまちづくり
		c. 母子保健医療福祉対策
		d. 児童虐待防止対策
		e. 発達障害者（児）対策
		f. 高齢者保健医療福祉対策
		g. 障害者保健医療福祉対策と精神保健医療福祉対策
		h. 感染症対策
		i. 医療政策の変遷
		j. がん対策
		k. 自殺対策
		l. 難病対策
		m. 歯科保健対策
		n. 災害時医療対策
		3. 保健医療福祉行政の分野と制度
b. 健康格差と社会保障		
B. 公衆衛生行政の分野	a. 一般衛生行政	
	b. 産業保健行政	
	c. 環境保健行政	
	d. 学校保健行政	
C. 地域保健の体系	a. 地域保健法と地方自治	
	b. 市町村と都道府県の役割分担と体制整備	
	c. 保健所の役割と機能強化	
	d. 政令指定都市保健所制度の推進	
	e. 市町村保健センターの役割	
	f. 地域内の関係機関の種類と役割	
	g. 地域・職域連携推進	
D. 社会福祉の制度	a. 社会福祉の制度	
	b. 地域福祉権利擁護、成年後見制度	
E. 医療提供体制	a. 医療法と医療計画、医療従事者と医療提供体制の現状	
	b. 医療安全対策	
	c. 医療体制の確保	
	d. 保険診療制度の仕組み	
	e. 訪問看護制度	
	f. 在宅医療、地域連携クリニカルパス	

大項目	中項目	小項目
	F. 介護保険制度	a. 関係法規
		b. 都道府県の役割、市町村の役割
		c. 居宅サービス
		d. 居宅介護支援事業者とケアマネジメント
		e. 地域包括支援センター
		f. 介護予防、地域支援事業
4. 保健医療福祉の計画と評価	A. 地方公共団体の保健医療福祉計画の目的と種類	a. 行政計画と基本構想
		b. 基本構想と保健医療福祉計画の関連
		c. 都道府県計画と市町村計画
	B. 地方自治体の計画決定	a. 計画決定のプロセス
		b. 審議会の役割
		c. 情報公開とアカウンタビリティ
		d. パブリックコメント
	C. 計画の推進と管理・評価	a. 政策の計画化と管理および評価の推進体制
		b. 地域診断
		c. 評価指標と計画目標値、評価指標値の設定
		d. 政策評価、経済的評価

保健師国家試験出題基準・索引

A

AIDS ・10

B

BCP ・12
Business Continuity Plan ・12

D

DV ・9

H

HIV ・10

I

ICD ・18
ICF ・18

N

NPO ・7

O

ODA ・18
OFF-JT ・15
OJT ・15

P

PDCA サイクル ・2
PTSD ・13, 14

S

SMR ・17
STD ・10, 11

W

well-being ・1
WHO ・18

あ

アウトカム評価 ・6
アウトリーチ ・2
アカウンタビリティ ・20
アドボカシー ・1, 9
アルコール関連障害 ・9
安全管理 ・11

い

育児期 ・8
いじめ ・11
一次情報・二次情報 ・18
一次予防、二次予防、三次予防 ・2
一類・二類・三類・四類・五類感染症 ・10
一緻性 ・15
一般衛生行政 ・19
一般健康診断 ・11
医療 ・6
医療安全対策 ・19

医療計画 ・19
医療経済統計 ・18
医療施設 ・1
医療施設調査 ・18
医療従事者 ・19
医療政策 ・19
医療体制 ・19
医療提供体制 ・19
医療法 ・19
因果関係 ・15
飲料水 ・12

う

ウイルス性肝炎 ・10
う蝕 ・10
うつ状態 ・9

え

疫学 ・15
疫学解析 ・13
疫学研究 ・15
疫学調査 ・13, 15
エビデンス ・16
エンパワメント ・1, 5

お

応急処置 ・11
横断研究 ・16
オッズ比 ・15

か

回帰 ・17
外国人母子 ・8
介護サービス施設調査 ・18
介護保険制度 ・20

介護予防・8, 20
外傷後ストレス障害・11, 13, 14
快適職場・11
介入研究・16
科学技術・2
化学物質・12
確率分布・17
過重労働・12
仮設住宅・14
家族・1, 3
家族アセスメント・3
家族機能・3
家族形態・2
家族支援計画・3
家族の発達段階・3
偏り・16
価値観の多様化・2
価値規範・3
学校・1
学校環境衛生基準・11
学校給食・11
学校保健・10, 11, 16
学校保健安全・11
学校保健活動・11
学校保健行政・19
学校保健統計・18
活動計画・6, 14
活動尺度・17
活動対象・1
活動の場・1
家庭内暴力・9
家庭訪問・4
カテゴリーデータ・17
がん・16
環境・2, 16
環境汚染・2
環境管理・11
環境調査・13
環境保健行政・19
関係機関・6
関係の希薄化・2
関係法規・20
患者調査・13, 18
感染経路・13
感染症・10, 11, 12, 16
感染症対策・10, 19
感染症調査・13

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律・10
感染症発生動向調査・18
感染症予防・10
がん対策・19
がん登録・16
関連・17

き

幾何平均・17
機関・1
基幹統計・18
危機管理・11
危険因子・15, 16
記述疫学・15
基本構想・20
基本的的人権・1
基本的生活習慣・8
帰無仮説・17
虐待・11
救済・支援ネットワーク構築・13
救急体制・11
救護班・13
急性ストレス障害・11
教育・6
教育課程・15
教育制度・15
強固性・15
共助・2, 7
行政・1
行政委託型組織・7
行政計画・20
共通認識・7
協働・2
業務上疾病・11
寄与危険・15
寄与危険割合・15
居宅介護支援事業者・20
居宅サービス・20
緊急支援活動・13
緊急的健康課題・13

く

偶然誤差・16
区間推定・17
グループ・1, 3
グループ支援・5
グループダイナミックス・5
グループワーク・5
グローバリゼーション・2
クロス集計・17

け

ケア効果・16
ケアプラン作成・4
ケアマネジメント・4, 20
ケアマネジメント会議・4
計画決定のプロセス・20
計画策定・6
計画調整・6
計画目標値・20
経済・産業構造・2
経済的評価・6, 20
継続教育・15
継続的・包括的展開・14
継続的アセスメント・3, 6
系統誤差・16
結核・10
原因分析・13
研究成果・15
研究的評価・15
研究的評価方法・15
健康格差・2, 16, 19
健康学習・5
健康課題・3, 6, 12
健康管理・11, 12
健康危機・13
健康危機管理・2, 12, 13
健康教育・5
健康寿命・8, 17
健康診査・4
健康診査事業・4
健康診査場面・4
健康診断・11
健康増進法・19

健康相談 ・3, 11
健康相談立案 ・3
健康特性 ・3, 4
健康ニーズ ・13, 14
健康の社会的決定要因 ・2, 16
健康被害 ・13
健康評価尺度 ・17
健康問題 ・6, 8
健康問題アセスメント ・8, 9
減災教育 ・13
顕在ニーズ ・6
検診 ・4
検定 ・17
現任教育 ・15
権利保障 ・14
権利擁護 ・1, 9

ク

合意形成 ・6
公害 ・2
公共政策 ・6
口腔機能低下 ・10
合計特殊出生率 ・17
公衆衛生 ・1
公衆衛生看護 ・1, 5
公衆衛生看護管理 ・14
公衆衛生政策 ・19
公助 ・2
公的責任 ・1
後天性免疫不全症候群 ・10
行動尺度 ・17
行動変容 ・3
交絡 ・16
高齢者 ・8
高齢者虐待 ・8
高齢者健康問題 ・8
高齢者保健 ・8
高齢者保健医療福祉対策 ・19
高齢者保健福祉 ・8
高齢者保健福祉施策 ・8
高齢労働者 ・12
誤嚥性肺炎 ・10
コーディネーション ・2
コーディネート ・14
国際協力 ・18

国際疾病分類 ・18
国際生活機能分類 ・18
国際連合 ・18
国勢調査 ・18
国民医療費 ・18
国民健康・栄養調査 ・18
国民生活基礎調査 ・18
国民負担 ・18
誤差 ・16
個人 ・1
個人情報 ・1
個人情報保護 ・14, 18
孤独死 ・14
個別健康教育 ・5
個別的展開方法 ・12
コホート研究 ・16
コミュニティ ・1, 5, 14
コミュニティ・エンパワメント ・5, 7
コミュニティ再構築 ・14
雇用形態 ・12
婚姻 ・17
根拠 ・6

さ

サービスの質 ・14
災害 ・12, 13
災害応急対策期 ・13
災害訓練 ・13
災害時医療対策 ・19
災害対策マニュアル ・13
在宅 ・13
在宅医療 ・19
在宅高齢者 ・8
在宅生活者 ・14
在宅療養難病患者 ・9
再発防止 ・13
最頻値 ・17
作業環境管理 ・11
作業管理 ・11
作業関連疾患 ・12
施策化 ・2
サポートグループ ・3
参加勧奨 ・4
参加対象 ・4
産業保健 ・11, 12, 16
産業保健行政 ・19
算術平均 ・17
産褥期 ・8
散布度 ・17

し

支援要請 ・14
歯科疾患 ・10
歯科保健 ・10
歯科保健対策 ・19
時間的關係 ・15
事業計画 ・6
事業継続計画 ・12
事業所調査 ・18
事故 ・12, 16
自己決定 ・1
自己効力感 ・3
事後措置 ・11
自己洞察 ・5
事後フォローアップ ・3, 4, 5
事故予防 ・8
自殺 ・9, 11
自殺対策 ・12, 19
死産 ・17
歯周疾患 ・10
自主グループ ・3
思春期 ・8
自助 ・2, 7
自然災害 ・13
持続可能性 ・2
市町村 ・19, 20
市町村保健センター ・19
実態調査 ・6
疾病管理 ・10
疾病構造 ・2
疾病登録 ・16
疾病発生 ・15
指定感染症 ・10
児童虐待 ・8
児童虐待防止対策 ・19
指標 ・15
四分位数 ・17
死亡 ・17
死亡率 ・15
死亡率比 ・15

社会疫学 ·16
社会格差 ·2
社会参加 ·9
社会事業 ·19
社会資源 ·4, 6, 8, 9, 14
社会尺度 ·17
社会情勢 ·2
社会生活基本調査 ·18
社会的公正 ·1
社会的引きこもり ·9
社会的要因 ·2
社会病理 ·9
社会福祉 ·19
社会復帰 ·9
社会保障 ·18, 19
尺度 ·17
若年妊娠 ·11
住環境 ·9
集団 ·3
集団健康教育 ·5
集団施設 ·13
集団的展開方法 ·12
集団発生 ·13
集団理解のための理論 ·3
住民・組織メンバー ·5
住民参加 ·2, 7
住民組織 ·7
住民ニーズ ·6
主体性 ·5, 7
出生 ·17
順序データ ·17
障害者 (児) ·9
障害者 (児) 虐待 ·9
障害者 (児) 保健 ·9
障害者 (児) 保健福祉施策 ·9
障害者雇用 ·12
障害者保健医療福祉対策 ·19
障害の予防 ·9
少子高齢化 ·2
消毒 ·13
小児疾患 ·16
情報化 ·2
情報管理 ·4, 14
情報公開 ·14, 18, 20
情報収集 ·4, 6, 13
情報処理 ·18
情報セキュリティ ·18

症例対照研究 ·16
職域 ·1
職域連携活動 ·12
職域連携推進 ·19
食育 ·11
職業性疾病 ·12
職業倫理 ·14
食中毒 ·10
食中毒統計 ·18
職場復帰支援 ·12
食品 ·12
初動対策 ·13
初動体制 ·13
初動調査 ·13
自立 ·5
自立支援 ·4, 9
事例管理 ·4
新型インフルエンザ感染症 ·10
新感染症 ·10
審議会 ·20
心血管疾患 ·16
人権擁護 ·9
人口 ·17
人口<集団>寄与危険 ·15
人口<集団>寄与危険割合 ·15
新興・再興感染症 ·10
進行管理 ·6
人口再生産 ·17
人口静態統計 ·17
人口動態統計 ·17, 18
人材育成 ·15
人事管理 ·14
心身障害児 ·8
診断基準 ·15
人的資源 ·6
信頼関係 ·4
信頼関係の構築 ·2
心理発達尺度 ·17

す

推定 ·17
数量データ ·17
スクリーニング ·16
スクリーニング基準 ·4
ストレス対策 ·12

図表 ·17

せ

生活環境 ·2
生活権 ·1
生活構造 ·2
生活者 ·3
生活習慣 ·3
生活習慣病予防 ·8
生活習慣病予防対策 ·12
生活不活発病 ·14
性感染症 ·10, 11
正規分布 ·17
制限 ·16
政策疫学 ·16
政策の方針決定 ·16
政策評価 ·20
成熟期 ·8
成人期 ·8
成人期健康問題 ·8
精神疾患 ·16
精神障害者 ·9
精神保健 ·9
成人保健 ·8
精神保健医療福祉対策 ·19
成人保健施策 ·8
精神保健福祉 ·9
精神保健福祉施策 ·9
生存権 ·1
生態学的研究 ·16
精度 ·16
精度管理 ·4
成年後見制度 ·19
政府開発援助 ·18
生命表 ·17
政令指定都市保健所制度 ·19
世界保健機関 ·18
施策化 ·2
接近方法・技術 ·3
接触者調査 ·13
摂食障害 ·9
セルフケア行動 ·3
セルフネグレクト ·8
潜在ニーズ ·4, 6
専門的自律 ·15

そ

層化 ・16
相関・散布図 ・17
相関係数 ・17
相互作用 ・1
相互作用アプローチ ・5
相対危険 ・15
相対頻度 ・15
ソーシャルキャピタル ・2
ソーシャルサポート ・2
ソーシャルネットワーク ・2
測定 ・17
組織 ・1
組織運営 ・14
組織化 ・4, 7
組織活動 ・11
組織的展開方法 ・12

た

ターミナルケア ・8
大規模自然災害 ・2
大規模人為災害 ・2, 13
対象集団 ・15
対象選定 ・4
代表値 ・17
多角的アセスメント ・3, 6
多胎児 ・8
達成状況 ・6
妥当性 ・16
多変量解析 ・17
多要因原因説 ・15
男女共同参画社会 ・2

ち

地域環境整備 ・9
地域看護 ・1
地域ケア ・14
地域ケアコーディネーション ・7
地域ケアシステム ・7
地域支援事業 ・20
地域社会 ・1

地域社会の流動化 ・2
地域情報管理 ・14
地域診断 ・6, 20
地域生活支援 ・9
地域組織 ・7
地域組織活動 ・7
地域のサポートシステム ・8, 9
地域のニーズ把握 ・5
地域福祉権利擁護 ・19
地域包括支援センター ・20
地域保健法 ・19
地域ボランティア ・11
地域連携活動 ・12
地域連携クリニカルパス ・19
地域連携推進 ・19
チームワーク ・7
地球温暖化 ・2
地区 ・5
地区活動 ・2, 3, 4, 5, 6
地区組織活動 ・7
致死率 ・15
地方公共団体 ・20
地方自治 ・18, 19
地方自治体 ・20
地方分権 ・18
地方分権化 ・2
致命率 ・15
中央値 ・17
調整 ・2
治療的、予防的アプローチ ・5

て

手洗い指導 ・13
低出生体重児 ・8
データ ・17
データの電子化 ・18
データベース ・18
手引書作成 ・13
点推定 ・17

と

動機付け ・3
統計学的有意性 ・17

統計資料 ・6
統計調査 ・18
統計分析 ・17
当事者組織 ・7
糖尿病 ・16
特異度 ・16
特殊健康診断 ・11
特定健康診査 ・8, 12
特定保健指導 ・8, 12
特別支援教育 ・11
都道府県 ・19, 20
ドメスティック・バイオレンス ・9

な

難病 ・9, 16
難病対策 ・9, 19

に

二項分布 ・17
二次障害の予防 ・9
二次的健康障害 ・14
乳幼児 ・8
乳幼児期 ・8
乳幼児健康診査 ・8
妊娠期 ・8
認知症 ・8

ね

ネットワーク ・7
年少人口 ・17
年齢調整死亡率 ・17

の

脳血管疾患 ・16
脳卒中登録 ・16
ノーマライゼーション ・1

は

パーセンタイル値 ・17
パートナーシップ ・2, 7
バイアス ・16
廃用症候群 ・14
ハイリスクアプローチ ・2, 5
曝露 ・15
派遣労働 ・12
ハザード比 ・15
発災直後 ・13
発達障害児 ・8
発達障害者（児）対策 ・19
発達段階 ・3, 10
発達段階別健康課題 ・11
パブリックコメント ・20
ハラスメント対策 ・12

ひ

比 ・15
ヒストグラム ・17
非正規雇用 ・12
ヒト免疫不全ウイルス感染症 ・10
ひとり親家庭 ・8
避難所 ・13, 14
評価計画 ・6
評価指標 ・20
評価指標値 ・20
標準化 ・16
標準化死亡比 ・17
標準偏差 ・17
標本抽出法 ・15
敏感度 ・16
頻度 ・16

ふ

ファシリテーション技術 ・5
普及啓発 ・13
福祉 ・6
福祉施設 ・1
復興期 ・14
不登校 ・11

プライマリヘルスケア ・1, 18
プレゼンテーション ・17
プロセス評価 ・6
文化の多様化 ・2
文献検索方法 ・18
分散 ・17
分析疫学 ・15
分布 ・16

へ

平均 ・17
平均寿命 ・17
平常時 ・13
ヘルスプロモーション ・1, 18

ほ

防災教育 ・13
放射線 ・12
法制度 ・6
訪問看護制度 ・19
訪問記録 ・4
訪問指導計画 ・4
訪問準備・実践・評価 ・4
保健医療福祉行政 ・18, 19
保健医療福祉計画 ・20
保健医療福祉制度 ・1
保健医療福祉の財政 ・18
保健医療分野 ・18
保健管理 ・11
保健教育 ・11
保健計画 ・6
保健行動 ・3
保健行動アセスメント ・3
保健行動関連 ・3
保健サービス ・6
保健師 ・1, 6, 7, 8, 9, 11, 15
保健室 ・11
保健指導 ・2, 3, 8, 9, 10
保健所 ・19
保険診療制度 ・19
保健政策 ・6
母子保健医療福祉対策 ・19
母子保健施策 ・8

母集団 ・15
母性関連疾患 ・16
母性保護 ・12
ポピュレーションアプローチ ・2, 5
ボランティア組織 ・7

ま

まちづくり ・1, 5, 19
マッチング ・16
マネジメント ・2
慢性疾患児 ・8
マンパワー ・6

み

未熟児 ・8
未受診者 ・4

む

無作為化 ・16
無作為抽出 ・15

め

面接技術 ・3
メンタルヘルスケア ・12

も

モード ・17
模擬訓練 ・13
モニタリング ・4, 6
問題把握 ・4

や

薬物依存 ・9
薬物乱用 ・9

ゆ

優先順位 ・3, 4, 6, 8, 9, 14
有病率 ・15

よ

養護教諭 ・10
要支援・要介護高齢者 ・8
陽性反応的中度 ・16
予算管理 ・14
予算の執行管理 ・14
予防活動 ・5
予防接種 ・8, 10, 13
予防対策 ・16

ら

ライフステージ ・8

り

罹患率 ・15

罹患率比 ・15
離婚 ・17
リスクアセスメント ・2, 8, 12
リスクコミュニケーション ・12
リスク比 ・15
リスクファクター ・16
リスクマネジメント ・11, 12
率 ・15
理念 ・8
リプロダクティブ・ヘルス/ライツ ・8
臨床疫学 ・16
倫理 ・1, 15

る

累積罹患率 ・15
累積罹患率比 ・15

れ

歴史的変遷 ・8, 9, 10
レコードリンケージ ・18
連携 ・6
連携会議 ・7

ろ

労働 ・6
労働安全衛生 ・11
労働安全衛生マネジメントシステム ・
11
労働衛生管理体制 ・11
労働衛生教育 ・11
労働形態 ・2
労働災害 ・11
老年人口 ・17

わ

ワーク・ライフ・バランス ・12
割合 ・15
割付 ・16

助産師国家試験出題基準

助産師国家試験出題基準・目次

基礎助産学Ⅰ	助- 1
基礎助産学Ⅱ	助- 5
助産診断・技術学Ⅰ	助-13
助産診断・技術学Ⅱ	助-15
地域母子保健	助-26
助産管理	助-28
索引	助-31

【基礎助産学Ⅰ】

目標Ⅰ. 助産の基礎的な概念、対象の特性及び助産活動について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 助産の概念	A. 助産・助産師の定義	a. 保健師助産師看護師法
		b. 世界保健機関<WHO>
		c. 国際助産師連盟<ICM>
	B. 助産師の役割と責務	a. 助産の意義
		b. 世界保健機関<WHO>
		c. 国際助産師連盟<ICM>
		d. 日本助産師会、日本看護協会
		e. 助産師の職業倫理
	C. 助産援助の展開	a. 診断に基づいた援助
b. 正常な経過への援助		
c. 問題解決への援助		
2. 性・生殖と人権と倫理	A. 女性の性、生殖の基本的な概念	a. リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
	B. 基本的人権とインフォームド・コンセント	a. 対象の権利の尊重
		b. インフォームド・コンセント
		c. 多様な文化への理解
	C. 性と生殖における倫理、女性の意思決定と擁護	a. 助産師業務と生命倫理
		b. 母体保護
		c. 出生前診断
		d. 不妊治療
		e. 予後不良児
3. 助産・助産師の変遷	A. 助産の変遷	a. 日本の助産の変遷
		b. 諸外国の助産の変遷
	B. 助産師の変遷	a. 日本の助産師の変遷
		b. 諸外国の助産師の変遷
4. 助産師教育	A. 助産師教育の変遷・歴史	a. 助産師教育の歴史
		b. 諸外国の助産師教育の歴史
	B. 助産師教育の現状	a. 日本の助産師教育
		b. 諸外国の助産師教育

目標Ⅱ. 基礎的な女性のライフサイクルを通じた性と生殖の健康課題、性と生殖に関連する疾患及び異常について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
5. 女性のライフサイクル各期における健康課題	A. 女性のライフサイクル各期における身体変化の特徴と健康課題	a. 思春期女性の第二次性徴と健康課題
		b. 成熟期女性の性周期と生殖機能と健康課題
		c. 更年期女性の卵巣機能低下と健康課題
		d. 老年期女性の加齢と健康課題
	B. 女性のライフサイクル各期における心理社会的課題	a. 思春期女性の心理社会的課題
		b. 成熟期女性の心理社会的課題
		c. 更年期女性の心理社会的課題
		d. 老年期女性の心理社会的課題
	C. 家族のライフサイクル	a. 家族の機能と役割
		b. 家族の発達課題
	D. 母性・父性と親性の発達	a. 母性の発達
		b. 父性の発達
		c. 親性・育児性の発達
	E. 性役割とジェンダー	a. 生物学的性差とジェンダー
		b. ジェンダーアイデンティティ
c. 性役割		
6. 性と性行動	A. 性	a. 性とセクシュアリティ
		b. 発達段階とセクシュアリティ
		c. 多様な性
	B. 性行動	a. 性行動の生理と心理
		b. 性反応
		c. 性機能の分類・障害・治療
7. 母子の健康に影響を及ぼす因子	A. 栄養	a. 栄養状態の評価法
		b. 栄養所要量
		c. 食生活習慣、食生活指針
		d. 有害物質の摂取
		e. 成人病胎児期発症説
	B. 物理・化学的環境	a. 放射線
		b. 電磁波
		c. 大気汚染
		d. 環境汚染物質と環境ホルモン
	C. 嗜好・薬物	a. 喫煙
		b. 飲酒
		c. 薬物乱用
8. 性と生殖の構造・機能・発生	A. 人体の発生	a. 染色体と遺伝子
		b. 遺伝の法則
		c. 精子形成・卵子形成の過程
		d. 減数分裂（第1・第2減数分裂）
		e. 初期胚の発生分化
		f. 着床
		g. 性分化

大項目	中項目	小項目	
	B. 男性生殖器の構造・機能・発生	a. 男性生殖器の構造	
		b. 男性生殖器の機能	
		c. 男性生殖器の発生	
	C. 女性生殖器の構造・機能・発生	a. 女性生殖器の構造	
		b. 女性生殖器の機能	
		c. 女性生殖器の発生	
	D. 骨盤底の構造と機能	a. 骨盤底および外陰の軟産道の筋構造	
		b. 骨盤底および外陰の血管構造（腔壁に分布する動脈）	
		c. 骨盤底および外陰の神経構造	
		d. 骨盤底の靭帯の構造	
	E. 性周期と調節機序	a. 中枢神経系と性機能調節	
		b. 卵巣機能、卵胞発育とその機能	
		c. 子宮内膜の増殖・分化とその機能	
		d. 月経	
		e. 子宮頸部の性周期に伴う変化	
f. 性周期が心身に及ぼす影響			
9. 性と生殖に関連する薬物	A. 思春期、成熟期、更年期と薬物	a. 経口避妊薬	
		b. 排卵誘発剤	
		c. 性ステロイドホルモン薬	
	B. 妊娠・分娩・産褥・授乳期と薬物	a. 子宮収縮薬	
		b. 子宮収縮抑制薬	
		c. 薬物の催奇形性	
		d. 薬物の胎盤通過性	
		e. 薬物の母乳移行	
		f. 乳汁分泌に影響する薬物	
		g. 救命処置のための薬物	
	10. 先天異常	A. 常染色体異常	a. Down<ダウン>症候群
			b. 18 トリソミー
			c. 13 トリソミー
		B. 性染色体異常	a. Klinefelter<クラインフェルター>症候群
b. Turner<ターナー>症候群			
C. 遺伝子疾患		a. 常染色体優性遺伝	
		b. 常染色体劣性遺伝	
		c. X連鎖劣性遺伝	
D. 胎内感染症		a. 風疹	
		b. サイトメガロウイルス感染症	
		c. トキソプラズマ感染症	
		d. 梅毒	
		e. 単純ヘルペスウイルス	
		f. ヒトパルボウイルスB19	

大項目	中項目	小項目
	E. 薬剤その他による影響	a. サリドマイド b. 有機水銀 c. ビタミンA過剰摂取 d. ワルファリン e. アルコール f. 覚醒剤
11. ライフサイクル各期に起こる主な疾患	A. 小児期の疾患	a. 先天性代謝異常
		b. 性分化異常
		c. 外性器の外傷
		d. 早発思春期
	B. 思春期の疾患	a. 月経異常
		b. 性器奇形
		c. 摂食障害
		d. 精神・心身医学的疾患
	C. 成熟期の疾患	a. 月経異常
		b. 生殖器の腫瘍
		c. 子宮内膜症
		d. 乳房疾患
	D. 更年期の疾患	a. 月経異常
		b. 更年期障害
		c. 脂質異常症（高脂血症）、糖尿病
		d. 虚血性心疾患
		e. メタボリックシンドローム
		f. 更年期うつ
	E. 老年期の疾患	a. 萎縮性膀胱炎
		b. 排尿障害、尿失禁、過活動性膀胱
c. 骨盤臓器脱		
d. 感覚器疾患		
e. 骨粗鬆症		
f. 性交障害		
12. 生殖器の感染症	A. 性感染症<STI>	a. 性器ヘルペス
		b. 尖圭コンジローマ
		c. 後天性免疫不全症候群<AIDS>
		d. クラミジア感染症
		e. 淋菌感染症
		f. スピロヘータ感染症
		g. ヒトパピローマウイルス<HPV>
	B. その他の感染症	a. 尿道炎
		b. 子宮頸管炎
		c. 膣周囲炎
		d. 細菌性膣炎
		e. カンジダ症
		f. トリコモナス膣炎
		g. 疥癬

大項目	中項目	小項目
13. 不妊症	A. 女性側原因	a. 排卵障害
		b. 卵管の障害
		c. 子宮の障害
		d. 性交障害
		e. 卵子のエイジング
		f. その他の因子
	B. 男性側原因	a. 精子形成障害
		b. 精管通過障害
		c. 性交障害
	C. 生殖補助医療	a. 人工授精
		b. 体外受精
		c. 顕微授精
		d. 配偶子・胚凍結

【基礎助産学Ⅱ】

目標Ⅰ. 助産の基礎となる正常な妊娠・分娩・産褥経過と新生児、乳幼児の健康水準の診断について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 妊娠の成立・維持	A. 妊娠の成立	a. 卵胞発育と排卵
		b. 造精機能と射精
		c. 受精の機序
		d. 着床の機序
	B. 妊娠の維持	a. 妊娠の維持とホルモン
		b. 妊娠の維持機構と免疫
2. 胎児	A. 胎児の発育	a. 妊卵<胚>・胎芽・胎児
		b. 胎児の形態と発育
	B. 臓器の成熟と器官形成 (器官分化期または 臨界期)	a. 感覚器系
		b. 呼吸器系
		c. 循環器系
		d. 消化器系
		e. 血液、造血器系
		f. 泌尿器・生殖器系
		g. 神経・運動器系
		h. 内分泌・代謝系
		i. 免疫系
3. 胎児付属物	A. 卵膜	a. 卵膜の構造
		b. 卵膜の機能
	B. 羊水	a. 羊水の生成過程
		b. 羊水の機能
	C. 臍帯	a. 臍帯の構造
		b. 臍帯の機能

大項目	中項目	小項目		
	D. 胎盤	a. 胎盤の形態と機能 b. 胎児－胎盤系循環 c. 物質の胎盤通過性		
4. 妊娠による母体の変化	A. 生殖器の変化	a. 子宮		
		b. 膣		
		c. 子宮付属器		
		d. 外陰部		
		e. 乳房		
		f. 正常妊婦の腔内環境		
	B. 全身の変化	a. 内分泌		
		b. 呼吸		
		c. 循環		
		d. 消化		
		e. 栄養、代謝		
		f. 排泄		
		g. 皮膚、粘膜		
C. 免疫能の特性	h. 神経系			
	i. 感覚器系			
	a. 胎児の免疫学的機能 b. 母体－胎児間の免疫			
5. 妊娠中の栄養	A. 母体栄養と胎児の発育	a. 母体低栄養と胎児の発育		
		b. 栄養過剰摂取と胎児の発育		
		c. 非妊時の体格（やせ、肥満）と胎児の発育		
		d. 妊娠中の栄養所要量		
		e. ビタミン、鉄、葉酸、カルシウム		
		f. 喫煙		
		g. 飲酒		
		h. 嗜好品		
		B. 母体栄養と妊娠合併症	a. 妊娠糖尿病・糖尿病合併妊娠	
	b. 妊娠高血圧症候群			
	6. 妊娠期の心理・社会的変化		A. 心理社会的特徴	a. 妊婦の心理
				b. パートナー・家族との関係性
				c. 母性意識の発達
		d. 母親役割獲得		
7. 分娩の基礎	A. 分娩の定義	a. 分娩開始の定義		
		b. 分娩第1期から第4期の定義		
		c. 妊娠期間による分娩の法的・産科学的定義		
	B. 分娩の種類	a. 分娩様式		
		b. 誘発分娩		
		c. 無痛分娩		
	C. 分娩の三要素	a. 胎児と胎児付属物		
		b. 産道		
		c. 娩出力		

大項目	中項目	小項目
8. 正常分娩	A. 正常な分娩経過	a. 分娩の前兆
		b. 分娩開始
		c. 分娩経過と分娩所要時間
	B. 分娩の機序	a. 陣痛発来の機序
		b. 陣痛のメカニズム
		c. 軟産道開大の機序
		d. 破水
		e. 胎児の産道通過
		f. 胎盤の剥離と娩出
		g. 止血の機序
9. 分娩が母体および胎児に与える影響	A. 母体への影響	a. 循環
		b. 呼吸
		c. 体温
		d. 血液
		e. 排泄
		f. 消化
		g. 内分泌
		B. 胎児への影響
	b. 胎児血酸塩基平衡と血糖値	
	c. 児頭の心形機能	
	d. 産瘤、頭血腫、帽状腱膜下血腫	
	e. 気道圧迫	
	f. 胎児機能不全徴候	
	10. 分娩期の心理社会的変化	A. 心理社会的特徴
b. パートナー・家族との関係性		
c. パートナー・家族の心理		
11. 産褥の経過	A. 復古の機序と経過	a. 性器の復古
		b. 全身の復古
	B. 乳汁分泌機序と経過	a. 乳房の形態・機能の変化
		b. 乳汁の産生と分泌
		c. 薬物の乳汁移行
12. 産褥期の心理社会的変化	A. 心理社会的特徴	a. 褥婦の心理
		b. 母親・父親役割の発達
		c. 産褥早期の親子関係
		d. 親と子の絆
		e. 家族関係

大項目	中項目	小項目
13. 新生児の身体・生理的特徴	A. 身体的特徴	a. 身体的発育
		b. 成熟徴候
	B. 生理的特徴	a. 呼吸
		b. 循環
		c. 体温
		d. 血液
		e. 消化・吸収
		f. 排泄
		g. 代謝・内分泌
		h. 神経系
		i. 免疫
		j. 栄養
		k. 皮膚
14. 新生児の行動学的特徴	A. 行動上の特徴	a. 睡眠
		b. 哺乳
		c. 視力
		d. 聴力
		e. 味覚
		f. 行動評価
15. 乳幼児の正常経過	A. 乳児期	a. 身体的特徴
		b. 生理的特徴
		c. 精神発達
		d. 食と栄養
		e. 予防接種
	B. 幼児期	a. 身体的特徴
		b. 生理的特徴
		c. 精神発達
		d. 食と栄養
		e. 予防接種
		f. 社会的特徴

目標Ⅱ. 正常からの逸脱を識別するために必要となる基礎的な妊娠・分娩・産褥・新生児・乳幼児の異常について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
16. 妊娠期の異常	A. 妊娠疾患	a. 妊娠悪阻
		b. 妊娠高血圧症候群
		c. 妊娠糖尿病
	B. 妊娠持続期間異常	a. 流産、切迫流産
		b. 頸管無力症
		c. 早産
		d. 過期妊娠
	C. 着床異常	a. 異所性妊娠
		b. 前置胎盤
		c. 癒着胎盤

大項目	中項目	小項目	
	D. 胎児性異常妊娠	a. 子宮内胎児死亡	
		b. 胎児発育不全<FGR>	
		c. 血液型不適合妊娠	
		d. 多胎妊娠	
	E. 胎児付属物性異常妊娠	a. 前期破水	
		b. 絨毛膜羊膜炎	
		c. 羊水量の異常	
		d. 常位胎盤早期剥離	
		e. 絨毛性疾患	
	F. 偶発疾患合併妊娠	a. 心疾患合併妊娠	
		b. 呼吸器疾患合併妊娠	
		c. 腎疾患合併妊娠	
		d. 甲状腺疾患合併妊娠	
		e. 糖尿病合併妊娠	
		f. 子宮奇形、子宮筋腫合併妊娠	
		g. 卵巣嚢腫合併妊娠	
		h. アレルギー性疾患合併妊娠	
		i. 精神疾患合併妊娠	
		j. 悪性腫瘍合併妊娠	
		G. 母子感染	a. サイトメガロウイルス
	b. ヒトパルボウイルスB19		
	c. B型肝炎ウイルス		
	d. C型肝炎ウイルス		
	e. ヒト免疫不全ウイルス<HIV>		
	f. 成人T細胞白血病ウイルス		
	g. 単純ヘルペスウイルス		
	h. 水痘ウイルス		
	i. クラミジア		
	j. トキソプラズマ		
	k. 梅毒トレポネーマ		
	l. B群溶連菌		
	m. カンジダ		
	n. ヒトパピローマウイルス<HPV>		
	17. 分娩期の異常	A. 娩出力の異常	a. 過強陣痛
			b. 微弱陣痛
		B. 産道の異常	a. 軟産道強靱
b. 狭骨盤			
C. 胎児の異常		a. 胎位の異常	
		b. 回旋・進入の異常	
		c. 胎児機能不全	
		d. 多胎	
		e. 奇形	
		f. 巨大児	

大項目	中項目	小項目
	D. 胎児付属物の異常	a. 前期破水
		b. 絨毛膜羊膜炎
		c. 臍帯巻絡
		d. 臍帯下垂・脱出
		e. 常位胎盤早期剥離
		f. 前置胎盤
	E. 分娩経過の異常	a. 児頭骨盤不均衡<CPD>
		b. 遷延分娩
		c. 肩甲難産
		d. 子癇発作
		e. 子宮内反症
	F. 軟産道損傷	a. 腔・会陰裂傷
		b. 腔壁裂傷
		c. 頸管裂傷
		d. 子宮破裂
	G. 出血量の異常	a. 弛緩出血
		b. 分娩時出血多量
		c. 第3期出血多量
		d. 第4期出血多量
	H. 産科ショック	a. 出血性ショック
b. 羊水塞栓		
c. 播種性血管内血液凝固<DIC>、産科DIC		
d. 敗血症性ショック		
e. トキシックショック症候群		
18. 産褥期の異常	A. 性器の異常	a. 子宮復古不全
		b. 胎盤ポリープ
		c. 晩期産褥出血
	B. 産褥期感染症	a. 産褥熱
		b. 尿路感染症
	C. 血栓・塞栓症	a. 産褥血栓性静脈炎
		b. 深部静脈血栓・肺塞栓症
	D. 乳頭・乳房・乳腺異常	a. 乳頭亀裂・発赤
		b. 乳汁分泌不全
		c. 乳房うっ積
		d. うつ乳（乳汁うっ滞）
		e. 乳腺炎
	E. 産褥期精神障害	a. マタニティブルーズ
		b. 産後うつ病
		c. その他の産褥精神障害
	F. 産褥後遺症	a. 妊娠高血圧症候群後遺症
		b. 産褥の心疾患
		c. 糖尿病

大項目	中項目	小項目
19. 新生児の異常	A. 新生児の異常徴候	a. 呼吸障害
		b. チアノーゼ
		c. 嘔吐
		d. 腹部膨満
		e. 吐血、下血
		f. けいれん
		g. 麻痺
		h. 発熱
		i. 黄疸
		j. 低体温
		k. 頭血腫
		l. 帽状腱膜下出血
		m. 鎖骨骨折
		n. 腕神経叢麻痺
		o. 外性器の異常
	p. 心雑音	
	q. なんとなく元気がない<not doing well>	
	B. 新生児の疾患	a. 新生児仮死
		b. 新生児低血糖症
		c. 一過性多呼吸<TTN>
		d. 胎便吸引症候群
		e. 気胸、縦隔気腫
		f. 高ビリルビン血症
		g. 新生児メレナ
		h. イレウス
		i. 新生児皮膚疾患
		j. 新生児眼疾患
		k. 外表奇形
		l. 分娩外傷
		m. 感染症
n. 脳性麻痺		
20. 低出生体重児・早産児		A. 低出生体重児および早産児の定義
	b. 在胎週数による分類	
	c. 在胎週数と出生体重による分類	
	B. 低出生体重児の特徴	a. 外観
		b. 呼吸
		c. 循環
		d. 体温
		e. ビリルビン代謝
		f. 水分代謝および腎機能
		g. 血液
		h. 免疫
		i. 消化、吸収、代謝

大項目	中項目	小項目	
	C. 低出生体重児に起こりやすい合併症	a. 呼吸窮迫症候群<RDS>	
		b. 無呼吸発作	
		c. 未熟児動脈管開存症	
		d. 未熟児網膜症	
		e. 脳室内出血	
		f. 脳室周囲白質軟化症	
		g. 核黄疸	
		h. 壊死性腸炎	
		i. 胎便関連性腸閉塞	
		j. 敗血症、髄膜炎	
		k. 未熟児貧血	
		l. 未熟児骨減少症<未熟児くる病>	
		m. 低血糖	
		n. 低カルシウム血症	
		o. 低体温	
	D. 予後	a. 成長・発達	
		b. 後遺症	
		c. 死亡率	
	21. 乳幼児に起こりやすい疾患	A. 感染症	a. 麻疹
			b. 水痘
c. 突発性発疹			
d. 手足口病			
e. ヘルパンギーナ			
f. 百日咳			
g. RSウイルス感染症（細気管支炎）			
h. 溶血性連鎖球菌感染症			
i. カンジダ症			
j. 伝染性膿痂疹			
k. ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群<SSSS>			
l. 乳幼児下痢症（ロタウイルス、ノロウイルス）			
B. 発育障害		a. 乳幼児の異常に起因する疾患	
		b. 哺乳量による異常	
		c. 養育環境による異常	
C. 乳幼児突然死症候群<SIDS>	a. リスク因子		
	b. 予防法と指導		
22. 母体、胎児の健康診査に必要な検査についての基礎知識	A. 尿検査	a. 尿蛋白	
		b. 尿糖	
		c. 尿ケトン体	
	B. 血液検査	a. 血液検査一般	
		b. 血液型と不規則抗体	
		c. 感染症	
		d. 血糖、糖負荷試験	
		e. 間接Coombs<クームス>検査	

大項目	中項目	小項目
	C. 超音波検査	a. 機器の使用法
		b. 超音波胎児計測
		c. 超音波血流計測
	D. 胎児心拍数陣痛モニタリングによる検査	a. 機器の使用法
		b. 陣痛の判読
		c. 胎児心拍の判読
		d. 妊娠期の評価<NST>
		e. 分娩期の評価
	E. 包括的な胎児の健康状態の評価	a. バイオフィジカルプロファイルスコア
	F. 検体検査に必要な知識	a. 検体の採取方法
		b. 検体の取り扱い方法

【助産診断・技術学Ⅰ】

目標. 女性のライフサイクル各期における性と生殖にかかわる健康問題を解決するために必要となる相談・教育・援助技術について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目		
1. 相談・教育・援助活動の概念	A. 相談・教育・援助の基本	a. 対象理解		
		b. 問題解決プロセス		
		c. セルフケア		
		d. エンパワメント		
		e. 仲間づくり		
		f. 仲間支援・ピアサポート		
		g. 女性を中心にしたケア<Woman-centered care>		
	B. 健康教育の基本	a. 健康教育のプロセス		
		b. 教育計画の基本		
		c. 健康教育の展開		
2. 保健指導の技術個人	A. 個別相談の基本	a. 個別相談の特徴		
		b. 個別相談の段階		
		c. 教育的なかかわり		
		d. 相談的なかかわり		
		e. 教材・媒体の活用		
	B. 個別相談の技法	a. 家庭訪問の展開		
		b. 電話相談の展開		
		3. 保健指導の技術集団	A. 集団指導の基本	a. 集団指導の特徴
				b. 集団指導の段階
				c. 教育的なかかわり
d. 相談的なかかわり				
e. 助言的なかかわり				
f. 教材・媒体の活用				

大項目	中項目	小項目
	B. 集団指導の技法	a. 集団指導の展開
		b. 応用される討議法
	C. 学級活動の実際	a. 母親学級
		b. 両親学級
		c. 育児学級
		d. 婚前学級
		e. 性教育
4. 女性のライフサイクル各期における性と生殖に関する健康問題と援助	A. 思春期女性への援助	a. セックスアイデンティティ、ジェンダーアイデンティティの形成
		b. 性と生殖に関する健康教育
		c. 子宮頸癌の予防と支援
		d. 性行動に関する意思決定
		e. 性暴力、DV<ドメスティック・バイオレンス>被害の予防と支援
		f. 性暴力、DV<ドメスティック・バイオレンス>被害者の対応
	B. 成熟期女性への援助	a. 性と生殖に関する健康教育
		b. 性、不妊へのカウンセリング
		c. 人工妊娠中絶へのカウンセリング
		d. 流産・死産時のケア
		e. 就労女性の健康支援
		f. 性暴力、DV<ドメスティック・バイオレンス>被害の予防と支援
		g. 性暴力、DV<ドメスティック・バイオレンス>被害者の対応
		h. 乳がん検診
		i. 子宮がん検診
	C. 更年期女性への援助	a. 健康増進への生活指導
		b. 自己コントロール能力の強化
		c. 不定愁訴への相談指導
		d. 閉経への指導
		e. ホルモン補充療法の指導
		f. 閉経後の性生活の指導
	D. 老年期女性への援助	a. 身体的変化に伴う生活指導
		b. 性生活の指導
	5. 家族計画	A. 家族計画に関する基礎的知識
b. 家族計画の必要性		
c. 家族計画の動向		
d. 受胎調節の推移		
e. 家族計画指導の問題点		
B. 家族計画指導の実施に必要な法的知識		a. 母子保健法
		b. 母体保護法
		c. 薬事法

大項目	中項目	小項目
	C. 各種受胎調節法	a. 基礎体温法
		b. コンドーム
		c. 経口避妊薬・緊急避妊薬
		d. 子宮内避妊具<IUD>
		e. 膣錠、ゼリー
		f. 不妊手術
		g. ペッサリー
	D. 避妊法の指導に必要な基礎知識	a. 生活状況のアセスメント
		b. 定期的な検診
		c. パートナーを含む指導
		d. 産後の回復過程と避妊法の選択肢

【助産診断・技術学Ⅱ】

目標. 妊娠・分娩・産褥各期及び新生児・乳幼児期の正常経過と逸脱の判断及び援助について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 基礎助産技術	A. 診察技術	a. 問診
		b. 視診
		c. 触診（乳房、腹部、Leopold<レオポル触診ド>触診法、Seitz<ザイツ>法、頤部法、後会陰触診法）
		d. 聴診
		e. 内診・双合診
		f. 計測診（身体計測、骨盤計測、腹囲、子宮底長）
		g. 超音波による方法（超音波断層法、Doppler<ドプラ>法）
		h. 胎児心拍数陣痛モニター
	B. 援助技術	a. 生活行動援助技術
		b. 診療の介補技術
	C. 緊急時の対応と応急処置	a. 緊急時使用物品と薬剤
		b. 止血法
		c. 会陰裂傷縫合術
		d. 蘇生法
		e. 出血性ショック時の処置
		f. 非出血性ショック時の処置
		g. 自動体外式除細動器<AED>
		h. 異常出血に対する処置（妊娠前半期、妊娠後半期、分娩時、播種性血管内血液凝固<DIC>、産科DIC）
		i. 新生児の蘇生
		j. 産婦の心理的援助

大項目	中項目	小項目					
	D. 搬送時の対応	a. 母体搬送の適応と対応 b. 新生児搬送の適応と対応 c. 医療チームメンバーとの協働 d. 他の医療機関との連携					
2. 妊娠期の診断	A. 妊娠の診断	a. 問診 b. 妊娠徴候となる身体的変化 c. 基礎体温法 d. 内診 e. 免疫学的妊娠反応 f. 超音波による方法 g. 分娩予定日の算出と修正					
		B. 妊娠経過の診断	a. 全身所見 b. 体格評価<BMI>、体重増加 c. 血圧測定 d. 血液検査 e. 尿検査 f. マイナートラブル				
			C. 胎児の発育・健康状態の診断	a. 子宮底長・腹囲 b. 胎位・胎向・胎勢 c. 胎児心拍動、胎児心拍数陣痛モニタリング d. 胎盤付着部位 e. 胎児胎盤機能検査 f. 羊水量			
				D. 妊婦の健康生活の診断	a. 日常生活行動の変化		
				E. 妊婦の心理社会的側面の診断	a. 妊娠の受容 b. 情緒の変化 c. 不安や問題への対処行動 d. ボディイメージ<身体像>の変化 e. 母性意識・母親役割意識 f. 家族の妊娠への適応と家族関係、支援状況 g. 父性意識、父親役割意識 h. ソーシャルサポート		
					3. 正常経過にある妊婦への援助	A. 日常生活適応へのケア	a. 妊娠期の栄養と食生活 b. 口腔衛生 c. 排泄、排泄習慣 d. 睡眠、休息、生活リズム e. 活動、運動 f. 身体の清潔 g. マイナートラブルへの対処 h. 衣服 i. 嗜好品 j. 性生活

大項目	中項目	小項目
	B. 親になる準備へのケア	a. 出産・育児準備
		b. 親役割の獲得への支援
		c. 新しい家族関係形成への支援
		d. 母乳育児に向けた準備
	C. 心理社会的ケア	a. 定期健康診査受診への支援
		b. 社会資源の活用
c. 就労に伴う支援		
4. 正常な妊娠経過からの逸脱およびハイリスク状態にある妊婦のアセスメントと援助	A. 身体的ハイリスク因子のアセスメント	a. 全身状態
		b. 妊娠・分娩歴、産科病歴
		c. 既往歴、家族歴
		d. 合併症
	B. 心理社会的ハイリスク因子のアセスメント	a. 妊娠の受容
		b. 過去の出産体験
		c. 家族関係
		d. 婚姻
		e. 経済的状况
	C. 異常妊娠・ハイリスク妊婦へのケア	a. 妊娠悪阻
		b. 切迫流産・早産
		c. 前期破水
		d. 妊娠高血圧症候群
		e. 妊娠貧血
		f. 妊娠糖尿病
		g. 前置胎盤
		h. 常位胎盤早期剥離
		i. 多胎妊娠
		j. 骨盤位
		k. 子宮内胎児死亡
		l. 若年妊娠
		m. 高齢妊娠
	n. 帝王切開既往妊婦	
	D. 心理的問題をもつ妊婦へのケア	a. 妊娠の受け入れ困難
		b. 出産に対する不安
		c. 胎児との愛着形成困難
		d. 被虐待経験者
E. 助産師による妊婦のリスク診断	a. 助産所での分娩対象者（院内助産）	
	b. 産科医と相談の上、協働管理すべき対象者	
	c. 産婦人科医が管理すべき対象者	
5. 分娩期の診断	A. 分娩開始の予知の診断	a. 子宮頸管成熟度
		b. 子宮収縮
		c. 自覚症状
	B. 分娩開始の診断	a. 陣痛発来
		b. 子宮頸管の変化

大項目	中項目	小項目
	C. 破水の診断	a. 自覚症状
		b. 検査法
		c. 腔鏡診、内診所見
		d. 羊水の性状
	D. 分娩経過の診断	a. 陣痛・腹圧
		b. 骨盤の大きさ
		c. 子宮頸管
		d. 腔・会陰の伸展性
		e. 胎児の大きさ
		f. 胎位、胎向、胎勢、回旋
		g. 胎児の下降度
		h. Freidman<フリードマン>の頸管開大曲線
		i. 児娩出時刻
		j. 分娩所要時間（第1期・第2期・第3期）
		k. 胎盤剥離徴候
		l. 児娩出後の出血
		m. 胎盤・卵膜の娩出状況
		n. 軟産道の裂傷
	o. 出血量	
	E. 胎児の健康状態の診断	a. 胎児推定体重の算出
		b. 胎児の発育評価
		c. 胎児心拍陣痛図
		d. 羊水の量・性状
		e. 血液ガス分析
	F. 産婦の健康生活の診断	a. 全身状態
		b. 健康生活の変化
	G. 産婦の心理社会的側面の診断	a. 産婦の情動
		b. 産痛への対処行動
		c. 家族の支援
		d. 家族の分娩への適応
	H. 出生直後の新生児の診断	a. Apgar<アプガー>スコア
		b. Silverman<シルバーマン>スコア
c. 外表奇形、特異な顔貌		
6. 正常経過にある産婦への援助	A. 援助の基本	a. 産婦の意思・主体性の尊重
		b. 産婦と家族中心のケア
		c. 心身の苦痛の緩和
		d. 正常逸脱の予防
	B. 分娩第1期のケア	a. 基本的欲求の充足
		b. 出産環境への配慮
		c. 家族とのコミュニケーション
		d. 産痛緩和
		e. 分娩進行の促進
		f. 家族への支援

大項目	中項目	小項目	
	C. 分娩第2期・分娩第3期のケア	a. 基本的欲求の充足	
		b. 呼吸法・リラクゼーションの誘導	
		c. 必要時の努責誘導	
		d. 出血量に応じた体位の調整	
	D. 分娩後2時間までのケア	a. 出血・子宮復古状態の観察	
		b. 基本的欲求の充足	
		c. 母児の早期接触	
		d. 母児と父・家族との対面	
		e. 産婦・家族の分娩体験の想起	
	7. 正常分娩の介助	A. 分娩介助の原理	a. 分娩時の姿勢と分娩進行
b. 分娩体位			
c. 呼吸法			
d. 努責の功罪と必要性			
B. 分娩介助時の技術		a. 導尿	
		b. 肛門圧迫・保護	
		c. 会陰保護	
		d. 児頭娩出	
		e. 肩甲娩出	
		f. 軀幹娩出	
		g. 臍帯切断、臍処置	
		h. 胎盤娩出	
C. 胎盤の検査		a. 観察項目、観察方法	
		b. 胎内環境の評価	
D. 出生後の新生児のケア		a. 呼吸の確立	
		b. 全身の観察	
		c. 身体計測	
		d. 成熟度の判定	
		e. 保温	
		f. 点眼	
8. 正常な分娩経過からの逸脱およびハイリスク状態にある産婦のアセスメントと援助		A. 身体的ハイリスク因子のアセスメント	a. 全身状態
			b. 妊娠・分娩歴、産科病歴
			c. 娩出力
			d. 産道
			e. 胎児と胎児付属物
			f. 胎児と骨盤の関係
		B. 心理的ハイリスク因子のアセスメント	a. 妊娠の受容
			b. 過去の出産体験
	c. 出産に関する知識不足		
	C. 援助の基本	a. 正常経過からの逸脱のリスクの評価	
		b. 正常経過からの逸脱の予防	
		c. 緊急事態の予測と予期的対応	
		d. 正常経過からの逸脱の早期発見	

大項目	中項目	小項目
	D. 正常分娩急変時の対応 (分娩中・産褥期発症)	a. 緊急に搬送すべき母体の症状
		b. 搬送までの対応
	E. 分娩中・産褥期に搬送すべき症状を呈する母体の疾患	a. 分娩後出血
		b. 異常出血
		c. 子宮・胎盤の異常
		d. 血栓症の疑い
		e. 胎児心拍異常
		f. 羊水混濁
		g. 分娩遷延
		h. 分娩中の母体発熱
		i. 産褥早期の発熱の原因となる疾患
9. 異常分娩	A. 異常分娩時の産婦へのケア	a. 娩出力の異常(分娩誘発・促進時の管理)
		b. 産道の異常
		c. 胎位・胎勢の異常
		d. 進入・回旋の異常
		e. 前期破水
		f. 遷延分娩
		g. 肩甲難産
		h. 胎児機能不全
		i. 胎児付属物の異常
		j. 弛緩出血
		k. 子宮破裂・子宮内反・頸管裂傷、膣・会陰裂傷
		l. 多胎分娩
		m. 奇形児分娩
		n. 子癇
		o. 羊水塞栓
		p. 播種性血管内血液凝固<DIC>、産科DIC
	B. 産科手術および産科的医療処置	a. 産科手術の適応と要約
		b. 産科手術の準備
		c. 術後の管理
		d. 会陰切開術
		e. 会陰縫合術
		f. 産科麻酔(硬膜外麻酔)
		g. 腹式帝王切開術
		h. 分娩誘発・促進法
		i. Kristeller<クリステレル>胎児圧出法
		j. 骨盤位牽出術
		k. 吸引遂娩術
		l. 鉗子遂娩術
		m. 胎盤圧出法、用手剥離
		n. 子宮摘出術

大項目	中項目	小項目
10. 産褥期の診断	A. 産褥経過の診断	a. 全身状態
		b. 子宮と付属器の復古状態
		c. 膣、外陰、肛門
		d. 血液検査
		e. 尿検査
		f. 不快症状
	B. 褥婦の健康生活の診断	a. 栄養と食事
		b. 睡眠・休息
		c. 活動・運動
		d. 排泄
		e. 清潔行動
		f. 日常生活への適応
		g. 家族計画
	C. 心理社会的側面の診断	a. 出産体験の受容
		b. 親役割の獲得
		c. 家族の役割獲得と家族関係
		d. 居住地域の育児環境
		e. 褥婦の心理に影響及ぼす要因
	D. 育児能力の診断	a. 児の受容
		b. 親と子の愛着形成
		c. 育児技術の習得
		d. 育児不安と対処行動
		e. 母親役割・父親役割の取得
E. 母乳育児に関する診断	a. 乳房	
	b. 乳汁分泌	
	c. 児の吸啜	
	d. 授乳技術とセルフケア能力	
11. 正常経過にある褥婦と家族への援助	A. 日常生活への適応および退行性変化促進へのケア	a. 産褥期の栄養と食生活
		b. 排泄状況、排泄行動
		c. 睡眠・休息
		d. 活動・運動
		e. 清潔行動
		f. 日常生活の行動拡大
		g. 子宮底輪状マッサージ法
		h. 産褥体操
		i. 性生活指導
		j. 職場復帰への支援
	B. 母乳育児へのケア	a. 母乳栄養に関する母親の意識
		b. 母乳分泌促進法・抑制法
		c. 乳房トラブルの予防と対処法
		d. 乳房自己管理法
		e. 哺乳量の評価
		f. 母乳育児と社会資源

大項目	中項目	小項目
	C. 心理社会的側面へのケア	a. 生活の調整
		b. 家族関係の調整
		c. 出生にかかわる届出の指導
		d. 社会資源の活用
	D. 育児行動取得へのケア	a. 母親・父親役割獲得への援助
		b. 育児技術の指導
		c. 育児環境の調整
12. 正常な産褥経過からの逸脱およびハイリスク状態にある褥婦のアセスメントと援助	A. 身体的ハイリスク因子のアセスメント	a. 全身状態、バイタルサイン
		b. 妊娠・分娩歴、産科病歴
		c. 分娩経過、分娩様式
		d. 生殖器の状態
		e. 母体の合併症
		f. 日常生活の状況
	B. 心理社会的ハイリスク因子のアセスメント	a. 年齢
		b. 経済状態
		c. 婚姻形態
		d. 家族関係
		e. 文化的背景
	C. 不快症状の緩和へのケア	a. 後陣痛の緩和
		b. 会陰部疼痛の緩和
		c. 脱肛・痔核への対処法
		d. 排尿障害への対処法
	D. 産褥期の異常と合併症の予防	a. 産褥早期出血
		b. 産褥晚期出血
		c. 子宮復古不全
		d. 産褥熱
		e. 恥骨結合離開
		f. 静脈瘤および血栓性静脈炎
		g. 深部静脈血栓症・肺塞栓症
		h. 感染症
		i. 妊娠高血圧症候群後遺症
		j. 乳頭損傷
		k. 乳腺炎
		E. 心理的リスクをもつ褥婦のケア
	b. 産後うつ病	
	c. その他の産褥精神病	
	F. 特殊な状況にある褥婦へのケア	a. 帝王切開術後の褥婦
		b. 多胎出産
		c. 文化的背景の異なる褥婦
		d. 不妊治療後の出産
		e. 低出生体重児の出産
		f. 流産、早産、死産
		g. 障害をもつ児
		h. 予後不良児

大項目	中項目	小項目
13. 合併症を持つ妊産褥婦のアセスメントとケア	A. 周産期の合併症	a. 心疾患
		b. 腎疾患
		c. 甲状腺疾患
		d. 糖尿病
		e. 子宮奇形、子宮筋腫
		f. 感染症
		g. 精神疾患
		h. アレルギー性疾患
		14. 新生児の診断
b. バイタルサインの測定		
c. 黄疸の観察法		
d. 聴覚検査		
e. 先天性代謝異常検査		
B. 出生後24時間以内の経過診断	a. 胎内環境と新生児への影響の評価	
	b. 成熟度の判定<Dubowitz法>	
	c. 胎外環境への適応状態	
	d. 睡眠・覚醒レベル	
C. 24時間以降の早期新生児期の経過診断	a. 胎外環境への適応状態	
	b. 分娩侵襲からの回復状況	
	c. 栄養摂取	
	d. 消化と排泄	
	e. 生理的体重減少	
	f. 黄疸	
	g. 原始反射	
	h. 臍帯出血、臍帯の脱落	
15. 正常新生児への援助	A. 出生後24時間以内のケア	
		b. 保温
		c. 母子接触
		d. 哺乳と排泄
		e. 感染予防
		f. 安全確保
		g. 与薬 (k2シロップ)
		B. 24時間以降早期新生児期のケア
		b. 保温と環境温度の調整
		c. 保清
		d. 感染予防
	C. 母子・親子関係を促進するケア	a. 母児同室中のケア
		b. 母子愛着形成促進のためのケア

大項目	中項目	小項目
16. 正常な新生児経過からの逸脱およびハイリスク状態にある新生児のアセスメントとケア	A. ハイリスク因子のアセスメント	a. 妊娠・分娩経過
		b. 母体の合併症と薬剤
		c. 胎児の発育状態
		d. 出生直後の状態
		e. 呼吸障害
		f. 循環状態
		g. 嘔吐、腹部膨満
		h. 緊張、けいれん
		i. 黄疸
		j. 感染
		k. 外表奇形
		l. 臍出血
		m. 分娩外傷
		n. 出血傾向
	B. 援助の基本	a. 正常逸脱のリスクの予測
		b. 正常逸脱の予防
		c. 正常逸脱の早期発見
		d. 出生直後の援助（新生児蘇生法）
		e. 母子関係確立への援助
		f. 授乳への援助
		g. 退院後の生活に向けた調整と援助
	C. 低出生体重児のケア	a. 体温管理と体温調節のケア
		b. 呼吸管理
		c. 皮膚のケア
		d. 水分・電解質・血糖管理
		e. 栄養管理と授乳
		f. 感染予防
		g. 家族支援
	D. 治療を受ける新生児のケア	a. 呼吸障害のケア
		b. 光線療法に伴うケア
		c. 経管栄養法のケア
		d. 輸液管理とケア
		e. 手術を受ける児と家族のケア
		f. ディベロップメンタルケア
	E. 家族へのケア	a. 他機関、他職種との連携
		b. 社会資源の活用
		c. 親への心理的援助
		d. 児への愛着形成
	F. 新生児の急変時の対応	a. 緊急に搬送すべき新生児の症状
		b. 搬送までの対応
	G. 新生児期に搬送すべき症状を呈する新生児の疾患	a. 新生児仮死
		b. 呼吸障害
		c. 無呼吸発作
		d. チアノーゼ
		e. 痙攣
		f. 黄疸
		g. 嘔吐
		h. 腹部膨満
		i. 発熱
		j. 低体温
		k. 低血糖
		l. 出血
		m. 外表大奇形
		n. 浮腫
		o. 下痢
		p. 心雑音の原因となる疾患

大項目	中項目	小項目
17. 乳幼児の健康診査	A. 乳幼児の健康診査に必要な技術	a. 一般理学的診察
		b. 発達診断学的診察
		c. 視覚検査
	B. 新生児期（1か月）、乳児期、幼児期の発育・発達評価・保健指導の要点	a. 発育
		b. 精神
		c. 運動
		d. 栄養
		e. 生活習慣・行動
		f. 予防接種
		g. 健康診査で発見されやすい異常
h. 育児相談		
18. 正常経過にある乳幼児への援助	A. 発達を促進するケア	a. 栄養
		b. 遊び
		c. 生活習慣・生活リズムの確立
		d. 情緒の発達
	B. 社会性を促進するケア	a. 家庭環境との関連
		b. 生活のマナー、エチケット
		c. 自立を促す支援
		d. 乳幼児期の人間関係形成
	C. 起こりやすい事故の予防と対策	a. 窒息
		b. 溺水
		c. 誤飲
		d. 交通事故
		e. 転落
	D. 起こりやすい疾病の予防的ケア	a. 予防接種
		b. 歯・口腔の衛生
	E. 家族へのケア	a. 育児不安
		b. 母子相互関係の成立
c. 親子・家族関係の促進		
19. ハイリスク乳幼児への援助	A. 援助の基本	a. 乳幼児の成長・発達促進
		b. 家族の子どもの受容
		c. 家族への精神的援助
		d. 社会資源の活用
		e. 他機関・他職種との連携
	B. 精神・運動発達遅滞がある児へのケア	a. 発達の促進
		b. 治療への援助
	C. 先天奇形・先天異常がある児へのケア	a. 発達の促進
		b. 外科的治療への援助
	D. 低体重で出生した乳幼児へのケア	a. 発達・発育評価

大項目	中項目	小項目
	E. 特殊な状況にある乳幼児へのケア	a. ひとり親家庭
		b. 在日外国人家庭
		c. 在宅医療
		d. 虐待を受けている・受けると推測される乳幼児

【地域母子保健】

目標. 地域の母子保健の推進、社会資源の活用及び関係機関との連携について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 地域母子保健の基本	A. 母子保健の概念と意義	a. 日本の母子保健の変遷
		b. 地域母子保健活動の意義
		c. 地域の概念
		d. 地域の特性と母子保健
	B. 地域母子保健活動	a. 妊婦訪問
		b. 新生児訪問
		c. 褥婦訪問
		d. 地域子育て支援活動
		e. 地域における相談活動
	C. 地域における女性のライフサイクルへの支援	a. 幼児期・学童期
		b. 思春期
		c. 成熟期
		d. 更年期
2. 母子保健の現状と動向	A. 統計資料の分析	a. 出生数、出生率
		b. 合計特殊出生率
		c. 妊産婦死亡
		d. 自然流産、人工流産、死産
		e. 周産期死亡
		f. 新生児死亡
		g. 乳児死亡、幼児死亡
		h. 人工妊娠中絶
	B. 母子保健に関わる諸問題の把握	a. 人口構造の変化
		b. 人口の移動と過密・過疎
		c. 疾病構造の変化
		d. 育児環境の変化
		e. 医療環境の変化
		f. 国際化と国際協力
3. 母子保健行政	A. 保健行政の仕組みと母子保健	a. 母子保健行政の進展
		b. 母子保健関係法規
		c. 国・都道府県・市町村の役割
		d. 母子保健行政の財源

大項目	中項目	小項目	
	B. 母子保健計画・事業への参画（実態把握から評価まで）	a. 関係機関・関係職種との連携	
		b. 各職種の役割と連絡調整	
		c. 地域母子保健ニーズの把握	
		d. 地域母子保健ニーズの施策化	
		e. 母子保健事業計画の策定	
		f. 地域での合意形成	
		g. 事業計画の評価・修正、変更案の作成	
		h. 事業への参画の実際	
	C. 主な母子保健制度と関連法規	a. 健康診査	
		b. 保健指導	
		c. 予防接種	
		d. 歯科検診	
		e. 特定不妊治療費助成事業	
		f. 障害者総合支援法<旧障害者自立支援法>	
		g. 母子及び寡婦福祉法	
		h. 妊娠高血圧症候群等療養援護	
		i. 児童虐待の防止等に関する法律	
		j. 雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律	
		k. 育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律	
		l. 売春防止法	
	D. 主な母子保健施策	a. 健やか親子21	
		b. 次世代育成支援対策	
		c. 少子化対策	
		d. 妊産婦のための食生活指針	
		e. 授乳・離乳の支援	
		f. ヒトT細胞白血病ウイルス-1型<HTLV-1>の母子感染予防	
		g. 子どもの事故	
	4. 地域母子保健活動の実際	A. 母子保健活動の展開の特徴	a. 助産所
			b. 診療所・病院
			c. 市町村、母子保健センター
d. 保健所			
B. 母子保健活動の連携		a. 行政との連携	
		b. 民間組織との連携	
C. 地域組織活動		a. 組織活動の活用と活性化	
		b. 自助グループ<セルフヘルプグループ>、育成支援	

【助産管理】

目標：助産業務の管理、助産所の運営及び助産師業務の評価・調整について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 助産業務管理の基本	A. 助産業務の概念	a. 周産期医療システム
		b. 助産業務の定義
		c. 法的定義
		d. 社会的定義
		e. 助産業務の目的・機能
		f. 助産師の業務範囲
		g. 周産期医療におけるチーム医療、職種間の連携・協働
	B. 助産管理の概念	a. 管理の定義
		b. 助産管理の定義
		c. 助産業務管理の特性
		d. 組織における助産師の役割と助産管理体制
		e. 快適な出産環境
	C. 助産業務管理の過程	a. 管理目標の策定
		b. 業務の分析
		c. 業務計画の策定
		d. 業務の評価
	D. 助産と医療経済	a. 医療保険制度
		b. 診療報酬
		c. 分娩費用

大項目	中項目	小項目	
2. 助産師及び助産業務に関連する法規と責任	A. 関係法規	a. 医療法	
		b. 保健師助産師看護師法	
		c. 医師法	
		d. 母子保健法（養育医療）	
		e. 母体保護法	
		f. 児童福祉法	
		g. 地域保健法	
		h. 戸籍法	
		i. 刑法（秘密漏示の禁止、墮胎の禁止、虚偽私文書作成の禁止）	
		j. 民法	
		k. 労働関係法律・就業規則	
		l. 個人情報保護法	
		m. 生活保護法	
		n. 薬事法（処方せん医薬品等取り扱い）	
		o. 障害者総合支援法＜旧障害者自立支援法＞（育成医療）	
		p. 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律＜DV防止法＞	
		q. 性同一性障害の性別の取扱いの特例に関する法律	
		r. 児童虐待の防止等に関する法律	
		s. 少子化社会対策基本法	
		t. 次世代育成支援対策推進法	
		u. 災害救助法	
		v. 男女共同参画社会基本法	
		B. 助産師の法的義務・届出	a. 応召
			b. 出生証明書の交付
	c. 死産証書および死胎検案書の交付		
	d. 助産録の記載		
	e. 届出		
f. 秘密の保持（守秘義務）			
3. 病院・診療所の管理・運営	A. 助産業務管理の方法	a. 人事・物品・経済・情報・時間の管理	
		b. 人材の育成	
		c. 看護体制と勤務体制	
		d. 文書・記録の管理と開示	
		e. 診療情報提供	
		f. 他部門・他機関との連携、協調	
		g. 地域との連携、ネットワーク	
		h. 業務の質の管理	
		B. 産科棟の管理	a. 看護体制
	b. 継続的な援助システム		
	c. 母乳育児		
	d. 院内助産・院内助産所		
	e. オープンシステム		

大項目	中項目	小項目
	C. 外来の助産管理	a. 助産外来・助産師外来 b. 乳房ケア外来 c. 家族計画外来 d. 女性外来
4. 助産所の管理・運営	A. 助産所の関係法規	a. 助産所の定義
		b. 助産所の管理者
		c. 助産所の管理者の義務
		d. 助産所の構造と設備
		e. 助産所の広告
	B. 助産所の管理・運営	a. 助産所管理の基本
		b. 嘱託医との連携
		c. 救急時の搬送と搬送基準
		d. 環境・設備・備品
		e. 地域医療、行政との連携・協働
		f. 地域連携とオープンシステム
	C. 助産所経営	a. 経営診断
		b. 母子における社会保険制度
c. 医療貸付制度		
D. 出張助産	a. 自宅分娩における助産師の役割	
	b. 自宅分娩の必要物品	
	c. 自宅分娩時の留意事項	
5. 助産業務と医療事故（安全）	A. 周産期における医療事故	a. 産科領域における医療事故
		b. 医療事故の原因
		c. 救急体制
		d. 法的責務
		e. 医療事故防止
		f. 医事紛争・訴訟防止
	B. 助産業務における安全対策	a. リスクマネジメント
		b. 感染予防・管理
		c. 傷害等の対応と損害賠償保険
		d. 産科医療補償制度
	C. 災害対策・活動	a. 防災・防火訓練・防災設備
		b. 初期対応
		c. 災害時支援
		d. 被災妊産婦・母子・女性の特徴と援助
		e. 災害時における助産の役割と活動内容

助産師試験出題基準・索引

1

- 13 トリソミー ・3
- 18 トリソミー ・3

2

- 24 時間以降早期新生児期のケア ・23

A

- AED ・15
- AIDS ・4
- Apgar スコア ・18

B

- BMI ・16
- B型肝炎ウイルス ・9
- B群溶連菌 ・9

C

- Coombs 検査 ・12
- CPD ・10
- C型肝炎ウイルス ・9

D

- DIC ・10, 15, 20
- Doppler 法 ・15
- Down 症候群 ・3
- Dubowitz 法 ・23
- DV ・14
- DV 防止法 ・29

F

- FGR ・9
- Freidman の頸管開大曲線 ・18

H

- HIV ・9
- HPV ・4, 9
- HTLV-1 ・27

I

- ICM ・1
- IUD ・15

K

- k 2シロップ ・23
- Klinefelter 症候群 ・3
- Kristeller 胎児圧出法 ・20

L

- Leopold 触診法 ・15

N

- not doing well ・11
- NST ・13

R

- RDS ・12
- RS ウイルス感染症 ・12

S

- Seitz 法 ・15
- SIDS ・12
- Silverman スコア ・18
- SSSS ・12

- STI ・4

T

- TTN ・11
- Turner 症候群 ・3

W

- WHO ・1
- Woman-centered care ・13

X

- X連鎖劣性遺伝 ・3

あ

- 愛着形成 ・21, 24
- 愛着形成困難 ・17
- 悪性腫瘍合併妊娠 ・9
- 遊び ・25
- アプガースコア ・18
- アルコール ・4
- アレルギー性疾患 ・23
- アレルギー性疾患合併妊娠 ・9
- 安全確保 ・23

い

- 育児学級 ・14
- 育児環境 ・22, 26

育児技術 ・22
育児技術の習得 ・21
育児休業、介護休業等育児又は家族介護
を行う労働者の福祉に関する法律 ・
27
育児行動取得 ・22
育児性 ・2
育児相談 ・25
育児能力 ・21
育児不安 ・21, 25
育成医療 ・29
維持機構 ・5
意思決定 ・1
医事紛争 ・30
医師法 ・29
萎縮性膣炎 ・4
異常出血 ・15
異常妊娠 ・17
異常分娩 ・20
異所性妊娠 ・8
一過性多呼吸 ・11
一般理学的診察 ・25
遺伝子 ・2
遺伝子疾患 ・3
遺伝の法則 ・2
衣服 ・16
医療貸付制度 ・30
医療環境 ・26
医療事故 ・30
医療事故防止 ・30
医療チームメンバー ・16
医療法 ・29
医療保険制度 ・28
イレウス ・11
飲酒 ・2, 6
院内助産 ・17, 29
院内助産所 ・29
インフォームド・コンセント ・1

う

うっ乳 ・10
運動 ・16, 21, 25
運動器系 ・5

え

栄養 ・2, 6, 8, 21, 23, 25
栄養過剰摂取 ・6
栄養管理 ・24
栄養所要量 ・6
会陰 ・18
会陰切開術 ・20
会陰部疼痛の緩和 ・22
会陰縫合術 ・20
会陰保護 ・19
会陰裂傷縫合術 ・15
壊死性腸炎 ・12
エチケット ・25
援助技術 ・15
エンパワメント ・13

お

応召 ・29
黄疸 ・11, 23, 24
嘔吐 ・11, 24
オープンシステム ・29, 30
頤部触診 ・15
親性 ・2
親と子の絆 ・7
親役割の獲得 ・17, 21

か

外陰 ・3, 21
外陰部 ・6
外観 ・11
外性器 ・4
外性器の異常 ・11
回旋 ・18
疥癬 ・4
回旋の異常 ・9, 20
快適な出産環境 ・28
外表奇形 ・11, 18, 24
過活動性膀胱 ・4
過期妊娠 ・8
過強陣痛 ・9
核黄疸 ・12
覚醒剤 ・4
覚醒レベル ・23
学童期 ・26

家族関係 ・7, 17, 22
家族計画 ・14, 21
家族計画外来 ・30
家族支援 ・24
家族歴 ・17
学級活動 ・14
活動 ・16, 21
合併症 ・17
家庭環境 ・25
家庭訪問 ・13
カルシウム ・6
感覚器系 ・5, 6
感覚器疾患 ・4
環境汚染物質 ・2
環境温度 ・23
環境ホルモン ・2
関係機関 ・27
関係職種 ・27
看護体制 ・29
カンジダ ・9
カンジダ症 ・4, 12
鉗子分娩 ・6
鉗子遂娩術 ・20
間接クームス検査 ・12
感染 ・24
感染症 ・4, 11, 12, 22, 23
感染予防 ・23, 24
感染予防・管理 ・30
管理目標 ・28

き

既往歴 ・17
器官形成 ・5
気胸 ・11
奇形 ・9
奇形児分娩 ・20
基礎体温法 ・15, 16
喫煙 ・2, 6
気道圧迫 ・7
基本的人権 ・1
基本的欲求の充足 ・18, 19
虐待 ・26
吸引遂娩術 ・20
吸引分娩 ・6
救急体制 ・30
吸収 ・11
休息 ・16, 21
救命処置 ・3

教育的なかかわり ・13
狭骨盤 ・9
行政 ・27
虚偽私文書作成の禁止 ・29
虚血性心疾患 ・4
巨大児 ・9
緊急時 ・15
緊急避妊薬 ・15
緊張 ・24
勤務体制 ・29

く

偶発疾患合併妊娠 ・9
軀幹娩出 ・19
クラインフェルター症候群 ・3
クラミジア ・9
クラミジア感染症 ・4
クリステレル胎児圧出法 ・20

け

経営診断 ・30
経管栄養法 ・24
頸管無力症 ・8
頸管裂傷 ・10, 20
経口避妊薬 ・3, 15
経済状態 ・22
経済的状況 ・17
計測診 ・15
刑法 ・29
けいれん ・11, 24
外科的治療 ・25
下血 ・11
血圧測定 ・16
血液 ・7, 8, 11
血液・造血器系 ・5
血液ガス分析 ・18
血液型 ・12
血液型不適合妊娠 ・9
血液検査 ・12, 16, 21
月経 ・3
月経異常 ・4
血栓・塞栓症 ・10
血栓性静脈炎 ・22
血糖 ・12
血糖管理 ・24

血糖値 ・7
健康課題 ・2
健康教育 ・13
健康診査 ・23, 27
健康診査で発見されやすい異常 ・25
肩甲難産 ・10, 20
肩甲娩出 ・19
原始反射 ・23
減数分裂 ・2
検体 ・13
検体検査 ・13
顕微授精 ・5
権利の尊重 ・1

こ

誤飲 ・25
合意形成 ・27
後遺症 ・12
口腔衛生 ・16
合計特殊出生率 ・26
高脂血症 ・4
甲状腺疾患 ・23
甲状腺疾患合併妊娠 ・9
光線療法 ・24
交通事故 ・25
後天性免疫不全症候群 ・4
行動評価 ・8
更年期 ・2, 3, 4, 14, 26
更年期うつ ・4
更年期障害 ・4
高ビリルビン血症 ・11
肛門 ・21
肛門圧迫・保護 ・19
高嶺妊娠 ・17
呼吸 ・6, 7, 11
呼吸管理 ・24
呼吸器系 ・5
呼吸器疾患合併妊娠 ・9
呼吸窮迫症候群 ・12
呼吸系 ・8
呼吸障害 ・11, 24
呼吸の確立 ・19
呼吸法 ・19
国際化 ・26
国際協力 ・26
国際助産師連盟 ・1
個人情報保護法 ・29
後陣痛の緩和 ・22

戸籍法 ・29
骨粗鬆症 ・4
骨盤 ・18
骨盤位 ・17
骨盤位牽出術 ・20
骨盤位分娩 ・6
骨盤臓器脱 ・4
骨盤底 ・3
子どもの事故 ・27
個別相談 ・13
雇用の分野における男女の均等な機会
及び待遇の確保等に関する法律 ・27
婚姻 ・17
婚姻形態 ・22
婚前学級 ・14
コンドーム ・15

さ

災害 ・30
災害救助法 ・29
災害時支援 ・30
細気管支炎 ・12
催奇形性 ・3
細菌性膣炎 ・4
臍出血 ・24
臍処置 ・19
臍帯 ・5
臍帯下垂・脱出 ・10
臍帯巻絡 ・10
在胎週数と出生体重による分類 ・11
在胎週数による分類 ・11
臍帯出血 ・23
臍帯切断 ・19
臍帯の脱落 ・23
在宅医療 ・26
ザイツ法 ・15
サイトメガロウイルス ・9
サイトメガロウイルス感染症 ・3
在日外国人家庭 ・26
鎖骨骨折 ・11
サリドマイド ・4
産科 DIC ・10, 15, 20
産科医療補償制度 ・30
産科手術 ・20
産科ショック ・10
産科的医療処置 ・20
産科棟 ・29
産科病歴 ・17, 22

- 産科麻酔・20
産後うつ病・10, 22
産後の回復過程・15
産褥・3
産褥期・21, 22
産褥期感染症・10
産褥期精神障害・10
産褥経過・21
産褥血栓性静脈炎・10
産褥後遺症・11
産褥精神障害・10
産褥早期・7
産褥早期出血・22
産褥体操・21
産褥熱・10, 22
産褥の心疾患・11
産褥晩期出血・22
産痛緩和・18
産痛への対処行動・18
産道・6
産道の異常・9, 20
産婦人科医・17
産婦の情動・18
産婦の心理・7
産瘤・7
-
- し
- ジェンダー・2
ジェンダーアイデンティティ・2, 14
痔核・22
視覚検査・25
自覚症状・17, 18
歯科健診・27
子癩・20
弛緩出血・10, 20
子癩発作・10
子宮・6
子宮がん検診・14
子宮奇形・9, 23
子宮筋腫・23
子宮筋腫合併妊娠・9
子宮頸管・17, 18
子宮頸癌・14
子宮頸管炎・4
子宮頸管成熟度・17
子宮頸部・3
子宮収縮・17
子宮収縮薬・3
子宮収縮抑制薬・3
子宮底長・腹囲・16
子宮底輪状マッサージ法・21
子宮摘出術・20
子宮と付属器の復古状態・21
子宮内胎児死亡・9, 17
子宮内反・20
子宮内反症・10
子宮内避妊具・15
子宮内膜・3
子宮内膜症・4
子宮の障害・5
子宮破裂・10, 20
子宮付属器・6
子宮復古不全・10, 22
事業計画・27
止血の機序・7
止血法・15
嗜好・2
嗜好品・6, 16
自己コントロール能力・14
死産・14, 22, 26
死産証書・29
脂質異常症・4
思春期・2, 3, 4, 14, 26
自助グループ・27
視診・15
次世代育成支援対策・27
次世代育成支援対策推進法・29
死胎検案書・29
自宅分娩・30
市町村・26
市町村保健センター・27
疾病構造・26
児童虐待の防止等に関する法律・27, 29
児頭骨盤不均衡・10
自動体外式除細動器・15
児頭の応形機能・7
児童福祉法・29
児頭娩出・19
児の吸啜・21
児の受容・21
児娩出後の出血・18
児娩出時刻・18
死亡率・12
社会資源の活用・17, 22
社会的定義・28
社会的特徴・8
社会保険制度・30
若年妊娠・17
縦隔気腫・11
就業規則・29
周産期・23
周産期医療システム・28
周産期医療におけるチーム医療・28
周産期死亡・26
集団指導・13, 14
絨毛性疾患・9
絨毛膜羊膜炎・9, 10
就労・17
就労女性・14
受精・5
受精調節・14
受精調節法・15
出血・子宮復古状態の観察・19
出血傾向・24
出血性ショック・10, 15
出血量・18
出血量の異常・10
術後の管理・20
出産・育児準備・17
出産環境・18
出産体験・17
出産体験の受容・21
出産に対する不安・17
出生直後の援助・24
出生後24時間以内のケア・23
出生後の新生児のケア・19
出生証明書・29
出生数・26
出生前診断・1
出生体重による分類・11
出生にかかわる届出・22
出生率・26
出張助産・30
授乳・23, 24, 27
授乳期・3
授乳技術・21
守秘義務・29
循環・7, 8, 11
循環器系・5, 6
循環状態・24
常位胎盤早期剥離・9, 10, 17
消化・6, 7, 11, 23
消化・吸収・8
障害者自立支援法・27, 29
障害者総合支援法・27, 29
障害をもつ児・22
消化器系・5

少子化社会対策基本法・29
少子化対策・27
常染色体異常・3
常染色体優性遺伝・3
常染色体劣性遺伝・3
情緒の発達・25
情緒の変化・16
小児期・4
静脈瘤・22
初期対応・30
初期胚の発生分化・2
食・8
食事・21
触診・15
食生活指針・2, 27
食生活習慣・2
嘱託医・30
職場復帰への支援・21
褥婦・21
褥婦訪問・26
助言的なかかわり・13
助産・1
助産外来・30
助産管理・28
助産業務・28
助産業務管理・28
助産師・1
助産師外来・30
助産師の法的義務・届出・29
助産所・17, 27, 30
助産録・29
女性外来・30
女性生殖器・3
女性を中心にしたケア・13
自立を促す支援・25
視力・8
シルバーマンスコア・18
腎機能・11
神経系・5, 6, 8
人口構造・26
人工授精・5
人工妊娠中絶・14, 26
人材の育成・29
心雑音・11
診察技術・15
心疾患・23
腎疾患・23
心疾患合併妊娠・9
腎疾患合併妊娠・9
新生児・23

新生児仮死・11
新生児眼疾患・11
新生児期・25
新生児死亡・26
新生児蘇生法・24
新生児低血糖症・11
新生児の疾患・11
新生児の蘇生・15
新生児搬送・16
新生児皮膚疾患・11
新生児訪問・26
新生児メレナ・11
靱帯・3
身体計測・19, 23
身体像・16
身体的特徴・8
身体的ハイリスク因子・17, 19, 22
身体的発育・8
身体の清潔・16
人体の発生・2
陣痛・18
陣痛の判読・13
陣痛のメカニズム・7
陣痛発来・7, 17
進入の異常・9, 20
深部静脈血栓症・10, 22
心理社会的課題・2
心理社会的ケア・17
心理社会的特徴・6, 7
心理社会的ハイリスク・22
心理社会的ハイリスク因子・17
診療所・27
診療情報提供・29
診療報酬・28

す

水痘・12
水痘ウイルス・9
水分・24
水分代謝・11
髄膜炎・12
睡眠・8, 16, 21
睡眠レベル・23
頭血腫・7, 11
健やか親子21・27
スピロヘータ感染症・4

せ

性・1, 2, 14
生活行動援助技術・15
生活習慣・行動・25
生活習慣・生活リズムの確立・25
生活のマナー・25
生活保護法・29
生活リズム・16
性感感染症・4
精管通過障害・5
性器奇形・4
性器の異常・10
性器の復古・7
性器ヘルペス・4
性教育・14
清潔行動・21
性交障害・4, 5
精子形成障害・5
性周期・2, 3
成熟期・2, 3, 4, 26
成熟徴候・8
成熟度の判定・19, 23
正常逸脱・18, 24
正常妊婦の膈内環境・6
正常分娩・6, 19
生殖・1, 14
生殖器・4
生殖器系・5
生殖機能・2
生殖器の状態・22
生殖器の変化・6
生殖補助医療・5
精神・25
精神・運動発達遅滞・25
精神・心身医学的疾患・4
成人T細胞白血病ウイルス・9
精神疾患・23
精神疾患合併妊娠・9
精神発達・8
成人病胎児期発症説・2
性ステロイドホルモン薬・3
性生活・16
性生活指導・21
性染色体異常・3
成長・発達・12
性同一性障害の性別の取扱いの特例に
関する法律・29
生物学的性差・2

性分化異常 ・4
性暴力 ・14
生命倫理 ・1
性役割 ・2
生理的体重減少 ・23
生理的特徴 ・8
世界保健機関 ・1
セクシュアリティ ・2
セックスアイデンティティ ・14
摂食障害 ・4
切迫流産 ・8
切迫流産・早産 ・17
ゼリー ・15
セルフケア ・13
セルフケア能力 ・21
セルフヘルプグループ ・27
遷延分娩 ・10, 20
前期破水 ・9, 10, 17, 20
尖圭コンジローマ ・4
染色体 ・2
全身状態 ・18
全身所見 ・16
全身の復古 ・7
前置胎盤 ・8, 10, 17
先天異常 ・3, 25
先天奇形 ・25
先天性代謝異常 ・4
先天性代謝異常検査 ・23

そ

双合診 ・15
早産 ・8, 22
早産児 ・11
造精機能 ・5
相談的なかかわり ・13
早発思春期 ・4
ソーシャルサポート ・16
組織活動 ・27
訴訟防止 ・30
蘇生法 ・15
損害賠償保険 ・30

た

ターナー症候群 ・3
第二性徴 ・2

第3期出血多量 ・10
第4期出血多量 ・10
胎位 ・16, 18
胎位の異常 ・9, 20
体温 ・7, 8, 11
体温管理 ・24
体温調節 ・24
胎芽 ・5
胎外環境 ・23
体外受精 ・5
体格評価 ・16
大気汚染 ・2
胎向 ・16, 18
胎児 ・5, 6, 7, 9
胎児機能不全 ・9, 20
胎児機能不全徴候 ・7
胎児血酸塩基平衡 ・7
胎児心拍陣痛図 ・18
胎児心拍数陣痛モニター ・15
胎児心拍数陣痛モニタリング ・13, 16
胎児心拍動 ・16
胎児心拍の調節機序 ・7
胎児心拍の判読 ・13
胎児推定体重 ・18
胎児性異常妊娠 ・9
胎児胎盤機能検査 ・16
胎児一胎盤系循環 ・6
胎児の大きさ ・18
胎児の下降度 ・18
胎児の発育 ・6
胎児の発育評価 ・18
胎児発育不全 ・9
胎児付属物 ・6
胎児付属物の異常 ・10, 20
胎児付属物性異常妊娠 ・9
代謝 ・6, 8, 11
体重増加 ・16
対象理解 ・13
対処行動 ・21
胎勢 ・16, 18
胎内環境 ・19, 23
胎内感染症 ・3
胎盤 ・6, 7, 18, 19
胎盤圧出法 ・20
胎盤通過性 ・3, 6
胎盤剥離徴候 ・18
胎盤付着部位 ・16
胎盤娩出 ・19
胎盤ポリープ ・10
胎便関連性腸閉塞 ・12

胎便吸引症候群 ・11
ダウン症候群 ・3
多胎 ・9
多胎出産 ・22
多胎妊娠 ・9, 17
随胎の禁止 ・29
多胎分娩 ・20
脱肛 ・22
多様な性 ・2
多様な文化 ・1
単純ヘルペスウイルス ・3, 9
男女共同参画社会基本法 ・29
男性生殖器 ・3

ち

チアノーゼ ・11
地域 ・26
地域子育て支援活動 ・26
地域組織活動 ・27
地域との連携 ・29
地域保健法 ・29
地域母子保健活動 ・26
地域母子保健ニーズ ・27
地域連携 ・30
恥骨結合離開 ・22
父親役割 ・21
父親役割意識 ・16
父親役割獲得 ・22
父親役割の発達 ・7
膣 ・6, 18, 21
膣・会陰裂傷 ・10, 20
膣鏡診 ・18
膣周囲炎 ・4
膣錠 ・15
窒息 ・25
膣壁裂傷 ・10
着床 ・2, 5
着床異常 ・8
超音波 ・15, 16
超音波血流計測 ・13
超音波検査 ・13
超音波胎児計測 ・13
超音波断層法 ・15
聴覚検査 ・23
聴診 ・15
聴力 ・8

て

手足口病・12
帝王切開・22
帝王切開既往妊婦・17
帝王切開分娩・6
低カルシウム血症・12
定期健康診査・17
定期的な検診・15
低血糖・12
低出生体重児・11, 12, 22, 24
低体温・11, 12
ディベロップメンタルケア・24
溺水・25
鉄・6
電解質・24
点眼・19
電磁波・2
伝染性膿痂疹・12
転落・25
電話相談・13

と

統計資料・26
導尿・19
糖尿病・4, 11, 23
糖尿病合併妊娠・9
糖負荷試験・12
トキシックショック症候群・10
トキソプラズマ・9
トキソプラズマ感染症・3
特異な顔貌・18
特定不妊治療費助成事業・27
吐血・11
努責・19
努責誘導・19
突発性発疹・12
都道府県・26
届出・29
ドプラ法・15
ドメスティックバイオレンス・14
トリコモナス膣炎・4

な

内診・15, 16

内分泌・代謝系・5, 8
内分泌・6, 7, 8
仲間支援・13
仲間づくり・13
軟産道・3
軟産道開大の機序・7
軟産道強韌・9
軟産道損傷・10
軟産道の裂傷・18
なんとなく元気がない・11

に

日常生活行動・16
日常生活の行動拡大・21
日本看護協会・1
日本助産師会・1
乳がん検診・14
乳児期・8, 25
乳児死亡・26
乳汁移行・7
乳汁うっ滞・10
乳汁分泌・3, 21
乳汁分泌機序・7
乳汁分泌不全・10
乳腺炎・10, 22
乳頭・乳房・乳腺異常・10
乳頭亀裂・発赤・10
乳頭損傷・22
乳房・6, 21
乳房うっ積・10
乳房ケア外来・30
乳房自己管理法・21
乳房疾患・4
乳房トラブルの予防と対処法・21
乳幼児・12, 25
乳幼児期の人間関係形成・25
乳幼児下痢症・12
乳幼児突然死症候群・12
尿ケトン体・12
尿検査・12, 16, 21
尿失禁・4
尿蛋白・12
尿糖・12
尿道炎・4
尿路感染症・10
妊産婦死亡・26
妊娠・3, 5, 16
妊娠・分娩歴・17, 22

妊娠悪阻・8, 17
妊娠合併症・6
妊娠期・16
妊娠期の評価・13
妊娠経過・16
妊娠高血圧症候群・6, 8, 17
妊娠高血圧症候群後遺症・11, 22
妊娠高血圧症候群等療養援護・27
妊娠持続期間異常・8
妊娠疾患・8
妊娠徴候・16
妊娠糖尿病・8, 17
妊娠の受け入れ困難・17
妊娠の受容・16, 17, 19
妊娠貧血・17
妊婦・16
妊婦の心理・6
妊婦訪問・26
妊卵・5

ね

ネットワーク・29
粘膜・6

の

脳室周囲白質軟化症・12
脳室内出血・12
脳性麻痺・11
ノロウイルス・12

は

歯・口腔の衛生・25
パートナー・6, 7, 15
胚・5
バイオフィジカルプロファイルスコア
・13
配偶子・5
配偶者からの暴力の防止及び被害者の
保護に関する法律・29
敗血症・12
敗血症性ショック・10
売春防止法・27
排泄・6, 7, 8, 16, 21, 23

排泄行動・21
排泄習慣・16
排泄状況・21
肺塞栓症・10, 22
バイタルサインの測定・23
胚凍結・5
梅毒・3
梅毒トレポネーマ・9
排尿障害・4, 22
排卵・5
排卵障害・5
排卵誘発剤・3
ハイリスク因子・24
ハイリスク妊婦・17
播種性血管内血液凝固・10, 15, 20
破水・7, 18
発育・25
発育・発達評価・25
発育障害・12
発達・発達評価・25
発達課題・2
発達診断学的診察・25
発達段階・2
発熱・11
母親学級・14
母親役割・21
母親役割意識・16
母親役割獲得・6, 22
母親役割の発達・7
胎勢の異常・20
晩期産褥出血・10
搬送時の対応・16
搬送までの対応・20, 24

ひ

ピアサポート・13
被虐待経験者・17
被災妊産婦・30
微弱陣痛・9
非出血性ショック・15
ビタミン・6
ビタミンA過剰摂取・4
ヒトT細胞白血病ウイルス-1型・27
ヒトパピローマウイルス・4, 9
ヒトパルボウイルス B19・3, 9
ヒト免疫不全ウイルス・9
ひとり親家庭・26
泌尿器・5

非妊時の体格・6
避妊法・15
避妊法の選択肢・15
皮膚・6, 8
皮膚のケア・24
秘密の保持・29
秘密漏示の禁止・29
百日咳・12
病院・27
ビリルビン代謝・11

ふ

不安や問題への対処行動・16
風疹・3
不快症状・21, 22
不規則抗体・12
腹圧・18
腹式帝王切開術・20
腹部膨満・11, 24
父性・2
父性意識・16
復古の機序・7
物理・化学的環境・2
不定愁訴・14
ブドウ球菌性熱傷様皮膚症候群・12
不妊・14
不妊手術・15
不妊症・5
不妊治療・1, 22
フリードマンの頸管開大曲線・18
文化的背景・22
分娩・3, 6, 7
分娩開始・6, 7, 17
分娩外傷・11, 24
分娩介助時の技術・19
分娩介助の原理・19
分娩期・7
分娩期の評価・13
分娩経過・7, 18, 22
分娩経過の異常・10
分娩後2時間までのケア・19
分娩時出血多量・10
分娩所要時間・7, 18
分娩進行の促進・18
分娩侵襲・23
分娩体位・19
分娩の三要素・6
分娩の前兆・7

分娩費用・28
分娩誘発・促進法・20
分娩様式・22
分娩予定日・16

へ

閉経・14
ベッサリー・15
ヘルパンギーナ・12
娩出力・6, 9
娩出力の異常・20

ほ

防災・防火訓練・30
防災設備・30
放射線・2
帽状腱膜下血腫・7
帽状腱膜下出血・11
法的責務・30
法的定義・28
保温・19, 23
保健師助産師看護師法・1, 29
保健指導・27
保健所・27
母子愛着形成促進・23
母子及び寡婦福祉法・27
母子関係確立・24
母子感染・9
母子接触・23
母子相互関係の成立・25
母児同室・23
母子保健・26
母子保健活動・27
母子保健関係法規・26
母子保健行政・26
母子保健事業計画・27
母子保健センター・27
母子保健法・14, 29
保清・23
母性・2
母性意識・6, 16
母体・7
母体栄養・6
母体-胎児間の免疫・6
母体の合併症・22

母体搬送 ・16
母体保護 ・1
母体保護法 ・14, 29
ボディ・イメージの変化 ・16
哺乳 ・8, 23
母乳育児 ・17, 21, 29
母乳移行 ・3
母乳栄養 ・21
母乳分泌促進法・抑制法 ・21
哺乳量 ・12
哺乳量の評価 ・21
ホルモン ・5
ホルモン補充療法 ・14

ま

マイナートラブル ・16
麻疹 ・12
マタニティブルーズ ・10, 22
麻痺 ・11

み

味覚 ・8
未熟児くる病 ・12
未熟児動脈管開存症 ・12
未熟児貧血 ・12
未熟児骨減少症 ・12
未熟児網膜症 ・12
民間組織 ・27
民法 ・29

む

無呼吸発作 ・12
無痛分娩 ・6

め

メタボリックシンドローム ・4
免疫 ・5, 8, 11
免疫学的機能 ・6

免疫学的妊娠反応 ・16
免疫系 ・5
免疫能 ・6

も

問診 ・15, 16
問題解決 ・1
問題解決プロセス ・13

や

薬事法 ・14, 29
薬物 ・2, 3
薬物乱用 ・2

ゆ

有害物質 ・2
有機水銀 ・4
誘発分娩 ・6
輸液管理 ・24
癒着胎盤 ・8

よ

養育医療 ・29
養育環境 ・12
溶血性連鎖球菌感染症 ・12
擁護 ・1
葉酸 ・6
幼児期 ・25, 26
幼児死亡 ・26
用手剥離 ・20
羊水 ・5, 18
羊水塞栓 ・10, 20
羊水の性状 ・18
羊水の量 ・18
羊水量 ・16
羊水量の異常 ・9
予後 ・12
予後不良児 ・1, 22

予防接種 ・8, 25, 27
与薬 ・23

ら

ライフサイクル ・2, 26
卵管の障害 ・5
卵子のエイジング ・5
卵巣機能 ・3
卵巣嚢腫合併妊娠 ・9
卵胞発育 ・3, 5
卵膜 ・5, 18

り

リスク因子 ・12
リスクマネジメント ・30
離乳 ・27
リプロダクティブ・ヘルス/ライツ ・1
流産 ・8, 14, 22, 26
両親学級 ・14
リラクゼーション ・19
淋菌感染症 ・4

れ

レオパルト触診法 ・15

ろ

労働関係法律 ・29
老年期 ・2, 4, 14
ロタウイルス ・12

わ

ワルファリン ・4
腕神経叢麻痺 ・11

看護師国家試験出題基準

看護師国家試験出題基準・目次

必修問題	看- 1
人体の構造と機能	看- 9
疾病の成り立ちと回復の促進	看-13
健康支援と社会保障制度	看-18
基礎看護学	看-24
成人看護学	看-28
老年看護学	看-39
小児看護学	看-44
母性看護学	看-48
精神看護学	看-50
在宅看護論	看-55
看護の統合と実践	看-58
索引	看-60

【必修問題】

目標Ⅰ. 看護の社会的側面及び倫理的側面について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 健康に関する指標	A. 人口静態・人口動態	a. 総人口
		b. 年齢別人口
		c. 労働人口
		d. 将来推計人口
		e. 世帯数
		f. 婚姻・家族形態
		g. 出生の動向
		h. 死亡の動向
		i. 死因の概要
	B. 健康状態と受療状況	a. 平均余命
		b. 有訴者の状況
		c. 有病率・罹患率
		d. 受療行動・受療率
		e. 入院期間
f. 外来受診状況		
2. 健康と生活	A. 生活行動・習慣	a. 食事・栄養
		b. 睡眠
		c. 運動
		d. 代謝障害
		e. 喫煙
		f. ストレス
		g. メンタルヘルス
		h. ライフスタイル
		i. 性行動
	B. 労働	a. 職業と疾病
		b. 労働環境
		c. 雇用形態
		d. 母性保護と両立支援
	C. 生活環境	a. 水・空気・土壌
		b. 食品衛生
		c. 住環境・社会環境

大項目	中項目	小項目	
3. 保健医療制度の基本	A. 医療保険制度	a. 医療保険の種類	
		b. 国民皆保険	
		c. 国民医療費	
		d. 高齢者医療制度	
		e. 給付の内容	
	B. 介護保険制度	a. 保険者	
		b. 被保険者	
		c. 給付の内容	
		d. 要介護認定	
4. 看護の倫理	A. 基本的人権の擁護	a. 個人の尊厳	
		b. 患者の権利	
		c. 自己決定権と患者の意思	
		d. インフォームド・コンセント	
		e. ノーマライゼーション	
		f. 情報管理（個人情報保護）	
	B. 看護倫理	a. 看護職の役割	
		b. 看護の倫理綱領	
	5. 関係法規	A. 保健師助産師看護師法	a. 保健師助産師看護師の業務
			b. 看護師に禁止されている業務
c. 秘密の保持（守秘義務）			
B. 看護師等の人材確保の促進に関する法律		a. 基本方針	
		b. 養成制度	
		c. 就業状況	

目標Ⅱ. 看護の対象者及び看護活動の場について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
6. 人間の特性	A. 人間と欲求	a. 基本的欲求
		b. 社会的欲求
	B. 患者の特性	a. QOL
		b. 患者ニーズ
		c. 健康に対する意識
		d. 疾病に対する意識
		e. 疾病・障害の受容

大項目	中項目	小項目
7. 人間の成長と発達	A. 胎児期	a. 形態的発達
		b. 先天異常
		c. 胎児期の異常
	B. 新生児期・乳児期	a. 発達の原則
		b. 身体の発育
		c. 運動能力の発達
		d. 栄養
		e. 親子関係
		f. 先天免疫と獲得免疫
	C. 幼児期	a. 身体の発育
		b. 運動能力の発達
		c. 排泄の自立
		d. 言語発達
		e. 社会性の発達
		f. 基本的生活習慣の確立
	D. 学童期	a. 運動能力・体力の特徴
		b. 社会性の発達
		c. 学習に基づく行動
	E. 思春期	a. 第二性徴
		b. アイデンティティの確立
		c. 親からの自立
		d. 異性への関心
	F. 成人期	a. 社会的責任と役割
		b. 生殖機能の成熟と衰退
		c. 基礎代謝の変化
	G. 老年期	a. 運動能力・体力の変化
		b. 知覚・感覚の変化
c. 認知能力の変化		
d. 心理社会的変化		
e. 個別性・多様性		

大項目	中項目	小項目
8. 患者と家族	A. 家族の機能	a. 家族関係
		b. 家族構成員
	B. 家族形態の変化	a. 家族の多様性
		b. 構成員の変化
		c. 疾病が患者・家族に与える心理社会的影響
9. 主な看護活動展開の場と看護の機能	A. 医療提供施設	a. 病院
		b. 診療所
		c. 助産所
		d. 介護老人保健施設
	B. 保健所・市町村における看護活動	a. 保健所の業務
		b. 市町村の業務
	C. 地域・在宅での看護	a. 居宅
		b. 訪問看護ステーション
		c. 介護保険施設
		d. 地域包括支援センター
	D. 看護管理	a. 看護体制
		b. 看護チーム
		c. 安全管理<セーフティマネジメント>
		d. インシデントレポート
	E. 関連職種との連携	a. 関連する職種
		b. チーム医療
		c. 看護の役割

目標Ⅲ. 看護に必要な人体の構造と機能及び健康障害と回復について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
10. 生命活動	A. 人体の構造と機能	a. 内部環境の恒常性<ホメオスタシス>
		b. 血液・水・電解質
		c. 体温
		d. 感染防御と免疫反応
		e. 循環器系
		f. 呼吸器系
		g. 神経系
		h. 消化器系
		i. 泌尿器系
		j. 代謝・内分泌系
		k. 骨・筋系
		l. 性と生殖器系
		m. 遺伝

大項目	中項目	小項目	
	B. 正常な妊娠・分娩・産褥	a. 妊娠の成立	
		b. 妊娠の経過	
		c. 分娩の経過	
		d. 産褥の経過	
	C. 人間の死	a. 死の三徴候	
		b. 死亡判定	
		c. 脳死	
		d. 死の受容	
	11. 病態と看護	A. 症状と看護	a. 意識障害
			b. ショック
c. 高体温・低体温			
d. 脱水			
e. 黄疸			
f. 頭痛			
g. 咳嗽・喀痰			
h. 吐血・喀血			
i. チアノーゼ			
j. 呼吸困難			
k. 胸痛			
l. 不整脈			
m. 腹痛・腹部膨満			
n. 嘔気・嘔吐			
o. 下痢			
p. 便秘			
q. 下血			
r. 乏尿・無尿・頻尿			
s. 浮腫			
t. 貧血			
u. 睡眠障害			
v. 感覚の異常			
w. 運動の異常（麻痺・失調）			
x. けいれん			
B. 主要疾患と看護		a. 生活習慣病	
		b. がん	
		c. 感染症	
		d. 外因性障害	
		e. 精神疾患	
		f. 小児疾患	
	g. 高齢者の疾患		

大項目	中項目	小項目
12. 薬物治療に伴う反応	A. 主な薬物の作用と副作用	a. 抗菌薬
		b. 抗ウイルス薬
		c. 抗癌薬
		d. 強心薬・抗不整脈薬
		e. 狭心症治療薬
		f. 降圧薬・昇圧薬
		g. 利尿薬
		h. 副腎皮質ステロイド
		i. 糖尿病治療薬
		j. 中枢神経作用薬
		k. 麻薬
	l. 消炎鎮痛薬	
	B. 医薬品の安全対策	a. 混合の可否
		b. 禁忌
c. 保存方法		
d. 薬理効果に影響する要因		

目標Ⅳ. 看護技術の基本的な理解を問う

大項目	中項目	小項目
13. 基本技術	A. コミュニケーション	a. 言語的コミュニケーション
		b. 非言語的コミュニケーション
		c. 面接技法
	B. フィジカルアセスメント	a. バイタルサインの測定と評価
		b. 意識レベルの評価
		c. 呼吸音聴取の方法と評価
		d. 腸蠕動音聴取の方法と評価
		e. 運動系の観察と評価（日常生活動作<ADL>・関節可動域<ROM>・徒手筋力テスト<MMT>）
	C. 看護過程	a. 情報収集
		b. アセスメント
		c. 計画立案
d. 実施		
14. 日常生活援助技術	A. 食事	e. 評価
		f. 記録
		a. 食事の環境
		b. 食事介助の方法
		c. 誤嚥の予防

大項目	中項目	小項目	
	B. 排泄	a. 床上排泄	
		b. 導尿	
		c. 浣腸	
		d. 摘便	
		e. 失禁のケア	
	C. 清潔	a. 入浴	
		b. 清拭	
		c. 口腔ケア	
		d. 洗髪	
		e. 部分浴	
		f. 陰部洗浄	
		g. 整容	
		h. 寝衣交換	
	D. 活動と休息	a. 睡眠	
		b. 体位	
		c. 体位変換	
		d. 移動・移送	
		e. ボディメカニクス	
f. 廃用症候群の予防			
15. 患者の安全・安楽を守る技術	A. 療養環境	a. 病室環境	
		b. 共有スペース	
		c. 居住スペース	
	B. 医療安全対策	a. 転倒・転落の防止	
		b. 誤薬の防止	
		c. 患者誤認の防止	
		d. 誤嚥・窒息の防止	
		e. 情報伝達と共有・管理	
	C. 院内感染防止対策	a. スタンダードプリコーション	
		b. 手洗いの方法	
		c. 無菌操作	
		d. 滅菌と消毒の方法	
		e. 針刺し・切創の防止	
		f. 感染性廃棄物の取り扱い	
	16. 診療に伴う看護技術	A. 栄養補給	a. 経管栄養法
			b. 経静脈栄養法
		B. 薬物療法	a. 与薬方法
			b. 薬効・副作用（有害事象）の観察
C. 輸液管理		a. 刺入部位の観察	
		b. 輸液ポンプの取り扱い	
		c. 点滴静脈内注射の管理	

大項目	中項目	小項目
	D. 採血	a. 穿刺部位
		b. 採血方法
	E. 罨法	a. 罨法の種類と適応
		b. 温罨法の方法
		c. 冷罨法の方法
	F. 呼吸管理	a. 酸素吸入時の原則
		b. 酸素ポンベの取り扱い
		c. 酸素流量計の取り扱い
		d. 鼻腔カニューラ
		e. 酸素マスク
		f. ネブライザー
	G. 吸引	a. 口腔内・鼻腔内吸引
		b. 気管内吸引
		c. 体位ドレナージ
	H. 救命救急処置	a. 気道の確保
		b. 人工呼吸
		c. 心マッサージ
		d. 直流除細動器
		e. 自動体外式除細動器<AED>
		f. 止血
		g. 体温の保持・冷却
	I. 皮膚・創傷の管理	a. 包帯法
		b. 創傷の管理
		c. 褥瘡の予防・処置
	J. 災害看護	a. トリアージ
		b. 応急処置の原則
		c. 搬送・移送
		d. こころのケア

【人体の構造と機能】

目標Ⅰ. 日常生活の営みを支える人体の構造と機能について基本的な理解を問う。

目標Ⅱ. 正常な人体の構造と機能について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 細胞・組織	A. 細胞の構造	a. 細胞膜と細胞質
		b. 核
		c. 細胞内小器官と細胞骨格
	B. 遺伝子と遺伝情報	a. ゲノムと遺伝子
		b. 染色体の複製と有糸分裂
		c. タンパク合成
	C. 組織	a. 上皮組織
		b. 支持組織
		c. 筋組織
d. 神経組織		
2. 生体リズムと恒常性<ホメオスタシス>	A. 生体リズム	a. サーカディアンリズム
		b. 体内時計
	B. 内部環境の恒常性	a. 細胞外液
		b. 恒常性維持機構
3. 運動系	A. 骨格	a. 骨の構造と機能
		b. 軟骨の構造と機能
		c. 代謝障害
		d. 脊柱
		e. 四肢の骨
	B. 関節	a. 関節の構造と種類
		b. 関節可動域 <ROM>
	C. 骨格筋	a. 骨格筋の構造
		b. 筋収縮の機構
		c. 頭部・頸部の筋
		d. 胸部・腹部の筋
		e. 殿部の筋・骨盤底筋
		f. 四肢の筋
4. 神経系	A. 神経細胞と神経組織	a. 神経細胞と情報伝達
		b. 神経膠細胞
	B. 中枢神経系	a. 大脳の構造と機能
		b. 視床と視床下部の構造と機能
		c. 脳幹の構造と機能
		d. 小脳の構造と機能
		e. 脊髄の構造と機能
		f. 脊髄反射
		g. 髄膜と脳室
		h. 感覚・運動の伝導路
i. 覚醒と睡眠		

大項目	中項目	小項目
	C. 末梢神経系	a. 脳神経
		b. 脊髄神経と神経叢
		c. 体性神経系
		d. 自律神経系
5. 感覚器系	A. 体性感覚	a. 刺激と感覚受容
		b. 皮膚の感覚受容器
		c. 皮膚感覚の種類
		d. 深部感覚の受容器
	B. 視覚	a. 眼球の構造
		b. 視力と視野
		c. 色覚
		d. 視覚の伝導路
		e. 眼球運動
		f. 眼球に関する反射
	C. 聴覚	a. 耳の構造
		b. 聴覚と聴力
	D. 平衡感覚	a. 平衡器官の構造
		b. 平衡覚
	E. 味覚	a. 味覚受容器
		b. 味覚
	F. 嗅覚	a. 嗅覚受容器
		b. 嗅覚
	G. 内臓感覚	a. 漿膜と粘膜
		b. 内臓感覚の受容器と機能
	6. 循環系	A. 心臓
b. 心臓の機能		
c. 刺激伝導系		
d. 心機能の調節		
B. 血管系		a. 動脈・静脈・毛細血管
		b. 門脈系
		c. 肺循環と体循環
		d. 冠循環
		e. 脳循環
		f. 胎児の血液循環
		g. 末梢循環の調節
C. リンパ系		a. リンパ
		b. リンパ管の構造と機能

大項目	中項目	小項目
7. 血液	A. 血液の成分と機能	a. 血液の成分
		b. 血液の物理化学的特性
		c. 血液の働き
		d. 造血と造血因子
	B. 止血機構	a. 血液凝固
		b. 線維素溶解
	C. 血液型	a. ABO式
b. Rh式		
8. 体液	A. 体液の構成	a. 体液の区分
		b. 体液の組成
	B. 体液の調節	a. 酸塩基平衡
		b. 浸透圧調節
9. 生体の防御機構	A. 非特異的生体防御機構	a. 皮膚の構造と防御機構
		b. 粘膜の構造と防御機構
		c. 食細胞とサイトカイン
		d. 胸腺・脾臓・リンパ組織
	B. 特異的生体防御反応 (免疫系)	a. 免疫系の細胞
		b. 抗原と抗体
		c. 液性免疫
		d. 細胞性免疫
		e. アレルギー反応
10. 呼吸器系	A. 気道	a. 気道の構造
		b. 気道の機能
		c. 胸膜と縦隔
		d. 呼吸筋
	B. 肺	a. 肺の構造
		b. 胸膜・縦隔の構造
	C. 呼吸	a. 呼吸筋の構造
		b. 換気
		c. 呼吸運動
		d. 呼吸調節

大項目	中項目	小項目	
11. 消化器系	A. 咀嚼・嚥下	a. 歯・口腔の構造と機能	
		b. 咽頭の構造と機能	
		c. 食道の構造と機能	
		d. 咀嚼	
		e. 嚥下	
	B. 消化と吸収	a. 胃の構造と機能	
		b. 十二指腸の構造と機能	
		c. 空腸・回腸の構造と機能	
		d. 結腸・虫垂の構造と機能	
		e. 直腸・肛門の構造と機能	
		f. 肝臓と胆嚢・胆道の構造と機能	
		g. 膵臓の構造と機能	
		h. 消化管運動と反射	
		12. 代謝	A. 栄養とエネルギー代謝
b. 基礎代謝			
B. 物質代謝	a. 同化作用と異化作用		
	b. 酵素		
	c. 炭水化物の代謝		
	d. 脂肪の代謝		
	e. 蛋白質の代謝		
	f. 核酸の代謝		
	g. ビタミン・ミネラルの代謝		
13. 泌尿器系	A. 尿の生成		a. 腎臓の構造
			b. 濾過
			c. 再吸収と分泌
	B. 体液量の調節		a. 抗利尿ホルモンの作用
			b. レニン-アンジオテンシン-アルドステロン系
	C. 排尿	a. 尿管の構造と機能	
		b. 膀胱の構造と機能	
		c. 尿道の構造と機能	
		d. 排尿反射	
		e. 蓄尿反射	
	14. 体温調節	A. 体温	a. 体温のなりたち
b. 核心温度と外殻温度			
B. 体温の調節		a. 熱放散と熱産生	
		b. 体温調節中枢	

大項目	中項目	小項目
15. 内分泌系	A. ホルモンの種類	a. ホルモンの化学的性質
		b. ホルモンの受容体
	B. ホルモン分泌の調節	a. 調節ホルモン・拮抗ホルモン
		b. フィードバック機構
	C. 内分泌器官の構造とホルモンの機能	a. 視床下部
		b. 下垂体
		c. 甲状腺
		d. 上皮小体<副甲状腺>
		e. 膵島
		f. 副腎皮質
		g. 副腎髄質
		h. 消化管ホルモン
		i. 腎臓のホルモン
j. 性腺ホルモン		
16. 生殖と老化	A. 女性の生殖器系	a. 卵巣の構造と機能
		b. 卵管・子宮・腔の構造と機能
		c. 外陰部・会陰
		d. 性周期
		e. 妊娠・分娩・産褥
		f. 乳房
	B. 男性の生殖器系	a. 精巣・精巣上体の構造と機能
		b. 精子の形成
		c. 付属生殖腺の構造と機能
	C. 受精と発生	a. 受精
		b. 胎児の発生
	D. 成長と老化	a. 組織および臓器の加齢変化
		b. 代謝機能の加齢変化

【疾病の成り立ちと回復の促進】

目標 I. 健康から疾病を経て回復に至る過程について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 疾病の成立と疾病からの回復	A. 疾病の原因	a. 疾病を引き起こす内的・外的要因
		b. 疾病を引き起こす生活習慣
	B. 生体の回復	a. 回復過程
		b. 回復に影響する身体・心理・社会的因子

目標Ⅱ. 疾病による身体内部の変化について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
2. 基本的な病変	A. 細胞の障害	a. 萎縮
		b. 変性
		c. 壊死とアポトーシス
	B. 細胞の障害に対する修復・再生・適応	a. 創傷とその治癒
		b. 再生と修復
		c. 肥大と過形成
	C. 基本的な病変とその機序	a. 循環障害
		b. 炎症・壊疽
		c. 免疫異常（アレルギー、自己免疫疾患）
		d. 代謝障害
		e. 老年症候群
		f. 先天異常（遺伝子異常）
		g. 腫瘍
	D. 健康状態を脅かす微生物	a. 人と微生物のかかわり
		b. 微生物の種類と特徴
		c. 微生物の感染経路と潜伏期間
d. 感染症		
e. 薬剤耐性菌		
3. 疾病に対する医療	A. 疾病の予防	a. 予防接種
	B. 疾病の診断	a. 健康な状態からの変化を確認する診断過程
		b. 全身状態評価のための一般的検査
		c. 特殊な検査（放射線、MRI、超音波、内視鏡）
	C. 疾病の治療	a. 手術療法と適応
		b. 麻酔
		c. 放射線による治療
		d. 輸液療法・輸血
		e. リハビリテーション
		f. 臓器移植
g. 透析療法		

大項目	中項目	小項目
	D. 疾病に対する薬物療法	a. 与薬
		b. 薬物の体内動態、薬理作用、副作用（有害事象）
		c. 血糖降下薬
		d. 心臓に作用する薬
		e. 降圧利尿薬
		f. 血液凝固に関係する薬
		g. 免疫抑制薬
		h. 抗癌薬
		i. 抗菌薬・抗ウイルス薬
	E. 医療による健康被害	a. 薬害
		b. ウイルス性肝炎
		c. Creutzfeldt-Jakob<クロイツフェルト・ヤコブ>病
		d. 院内感染

目標Ⅲ. 疾病の特性について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目	
4. 神経機能の障害	A. 中枢神経系の疾患	a. 脳血管系の循環障害	
		b. 頭蓋内圧亢進に伴う症状	
		c. 神経変性（Parkinson<パーキンソン>病、筋萎縮性側索硬化症<ALS>）	
		d. 脱髄性疾患（多発性硬化症）	
		e. 認知症（Alzheimer<アルツハイマー>病、血管性認知症、Lewy<レビー小体>型認知症）	
		f. 中枢神経系の感染症	
		g. 頭部と脊椎の外傷	
		h. 脊椎の外傷と脊髄損傷	
		i. 機能性疾患（てんかん、頭痛）	
		j. 二次的に意識障害・神経障害を起こす疾患	
		k. 腫瘍	
		B. 末梢神経系の疾患	a. Guillain-Barré<ギラン・バレー>症候群
			b. 糖尿病性神経障害
	c. 圧迫性神経障害		
	C. 感覚機能の障害	a. 視覚の障害	
		b. 聴覚・平衡覚の障害	
		c. 嗅覚と味覚の障害	
		d. 皮膚の障害（湿疹、アトピー性皮膚炎、帯状疱疹、疥癬）	

大項目	中項目	小項目	
5. 呼吸機能の障害	A. 気道と肺の疾患	a. 気道・肺の炎症	
		b. 気道の閉塞をきたす疾患（気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患）	
		c. 肺循環障害（肺梗塞、肺塞栓症）	
		d. 肺腫瘍（癌、中皮腫）	
		e. 呼吸不全	
		f. 気胸	
6. 循環機能の障害	A. 心臓の疾患	a. 先天性心疾患	
		b. 虚血性心疾患	
		c. 心筋症	
		d. 心不全（右心不全、左心不全、心タンポナーデ）	
		e. 不整脈	
		f. 心内膜炎と弁膜疾患	
	B. 血管系の疾患	a. 動脈硬化症	
		b. 高血圧	
		c. 閉塞性動脈硬化症	
		d. 大動脈瘤・大動脈解離	
		e. 静脈瘤・静脈血栓症	
7. 造血機能の障害	A. 造血器の疾患	a. 貧血	
		b. 出血傾向と凝固・線溶系の異常	
		c. 白血球減少症	
		d. 造血器の腫瘍（白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫）	
8. 免疫機能の障害	A. 膠原病	a. 全身性エリテマトーデス<SLE>	
		b. 関節リウマチ	
		c. Sjogren<シェーグレン>症候群	
	B. アレルギー性疾患	a. 花粉症<アレルギー性鼻炎>	
		b. 蕁麻疹	
		c. 接触皮膚炎	
	C. 免疫不全	a. ヒト免疫不全ウイルス<HIV>感染症	
	9. 栄養の摂取・吸収・代謝機能の障害	A. 栄養バランスの不均衡による疾患	a. メタボリックシンドローム
			b. 肥満
c. 糖尿病			
d. 脂質異常症（高脂血症）			
e. 高尿酸血症と痛風			
f. 必須栄養素とエネルギーの不足による疾患			
g. ビタミン欠乏症			

大項目	中項目	小項目
	B. 口腔、咽頭と食道の疾患	a. 口腔、咽頭と食道の機能障害<咀嚼・嚥下機能障害>
		b. 口腔、咽頭と食道の疾患（逆流性食道炎）
		c. う歯・歯周病
	C. 消化管の疾患	a. 消化管の炎症と潰瘍
		b. 消化管の腫瘍
		c. イレウス
		d. 腹壁、腹膜、横隔膜の疾患
	D. 肝臓・胆嚢・膵臓の疾患	a. 肝臓・胆嚢・膵臓の炎症
		b. 肝硬変
		c. 肝臓・胆嚢・膵臓の腫瘍
		d. 肝不全
		e. 胆汁代謝・排泄の障害
10. 排泄機能の障害	A. 泌尿器の疾患	a. 腎炎・慢性腎臓病
		b. 尿路の炎症
		c. 腎・尿路の腫瘍
		d. 尿路の通過障害
		e. 排尿障害
		f. 腎不全
	B. 排便の障害	a. 便秘
b. 下痢		
11. 内部環境調節機能の障害	A. 内分泌系の疾患	a. 下垂体の疾患
		b. 甲状腺の疾患
		c. 上皮小体<副甲状腺>の疾患
		d. 副腎の疾患
		e. 多発性内分泌腫瘍
	B. 体液の調節障害	a. 水と電解質の異常
		b. 酸塩基平衡の異常
	C. 自律神経系の機能障害	a. 自律神経失調に伴う身体変化<不定愁訴>
	12. 運動機能の障害	A. 骨・関節・筋肉・神経筋接合部の疾患
b. 骨粗鬆症		
c. 骨の腫瘍		
d. 変形性関節症		
e. 腰痛症（椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症）		
f. 筋ジストロフィー		
g. 重症筋無力症		
B. 活動や行動の制限による疾患		a. 廃用症候群

大項目	中項目	小項目
13. 生殖機能の障害	A. 性・生殖器の疾患	a. 女性生殖器の疾患
		b. 乳腺の疾患
		c. 男性生殖器の疾患（前立腺腫瘍、精巣腫瘍）
		d. 性機能障害

【健康支援と社会保障制度】

目標Ⅰ. 人間の社会的側面について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 生活基盤	A. 生活単位	a. 人口動向（少子高齢化、総人口の減少）
		b. 家族（世帯）
		c. ライフサイクル
	B. 家庭生活の基本機能	a. 生産・労働
		b. 教育・養育
		c. 保健・福祉
		d. 生殖
		e. 慰安・交流
	C. 生活の場と健康	a. 都市と農・漁村（人口集中と過疎化）
		b. 住居
	D. 労働と健康	a. 就業構造
		b. 労働時間
		c. 仕事と余暇
d. 所得		
2. ライフスタイル	A. 家族の機能と役割	a. 夫婦の役割機能の変化
		b. 家族内介護者の変化
		c. 育児と介護の社会化
		d. 家事機能の変化
	B. ライフスタイルの変化	a. 雇用労働者化の進行
		b. 女性労働の変化
		c. 少子化
		d. 健康寿命の延長
		e. 余暇時間
		f. 生涯学習
		g. 地域活動への参加
		h. 家族観の多様化
	C. 生活習慣の確立	a. 生活習慣病の概念
		b. 発達課題別生活習慣
		c. セルフケアの確立

大項目	中項目	小項目
3. 人間の集団としての働き	A. 集団の形成・発達	a. 集団の凝集性
		b. 集団の意思決定
		c. グループダイナミックス
	B. 地域における人間関係	a. 親族、近隣、交際のネットワーク
		b. 地域のソーシャルサポートネットワーク
		c. 学校における人間関係
	C. 職場における人間関係	a. 組織の中での役割
		b. 上司との関係
		c. 同僚との関係

目標Ⅱ. 社会保障の理念と制度及び法律に基づく社会福祉の方法と課題について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
4. 社会保障の理念	A. 日本の保健医療福祉活動の基本方向	a. 概念、目的、機能、体系、内容
		b. 人権、日本国憲法第25条
		c. 倫理
		d. ノーマライゼーション
		e. 情報公開、地方分権、参加
		f. 社会保障給付費
		g. 社会保障制度改革
5. 社会保険制度	A. 社会保険の変遷	a. 歴史、意義
		b. 国民皆保険・皆年金
	B. 医療保険制度	a. 健康保険、国民健康保険と高齢者の医療制度
		b. 保険給付と利用者負担
		c. 医療保険の財政
		d. 保険診療の仕組み
		e. 公費負担医療
		f. 国民医療費
		g. 診療報酬制度
	C. 介護保険制度	a. 制度の基本理念
		b. 保険者・被保険者
		c. 要介護・要支援の認定
		d. 保険給付と利用者負担
		e. ケアマネジメント
		f. 介護保険の財政
		g. 介護保険事業計画
	D. 年金制度	a. 制度の体系
		b. 給付と費用負担
	E. その他の社会保険制度	a. 雇用保険法
		b. 労働者災害補償保険法

大項目	中項目	小項目	
6. 社会福祉に関する法律の理念と施策	A. 社会福祉の理念と変遷	a. 措置制度から選択、利用制度へ	
		b. 利用者保護の制度	
	B. 生活保護法と施策	a. 生活保護の基本原則と実施の原則	
		b. 実施機関	
		c. 扶助の種類と内容	
	C. 障害者（児）にかかわる法と施策	a. 障害者基本法	
		b. 障害者総合支援法（旧障害者自立支援法）	
		c. 身体障害者福祉法	
		d. 知的障害者福祉法	
		e. 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律	
		f. 発達障害者支援法	
		g. 障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律 <障害者虐待防止法>	
	D. 児童にかかわる法と施策	a. 児童福祉法	
		b. 児童虐待の防止等に関する法律	
		c. 母子及び寡婦福祉法	
	E. 高齢者にかかわる法と施策	a. 老人福祉法	
		b. 高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律 <高齢者虐待防止法>	
	F. その他の施策	a. 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律<DV法>	
		b. 少子化対策	
	7. 社会福祉行政	A. 保健福祉計画	a. 子ども・子育て応援プラン
			b. 障害者基本計画と障害者プラン
B. 社会福祉の民間活動		a. 民生委員、児童委員	
		b. 社会福祉協議会	
		c. ボランティア活動	
		d. 特定非営利活動促進法<NPO法>	
C. 福祉の行政機関と施設		a. 福祉事務所	
		b. 児童相談所	
		c. 社会福祉施設	
		d. 在宅サービス機関	
D. 老人保健福祉行政の展開		a. 老人福祉計画	
		b. 高齢者の生きがい対策	
		c. 介護予防	

目標Ⅲ. 公衆衛生及び保健活動の進め方について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目		
8. 健康と公衆衛生	A. 公衆衛生の概念	a. 公衆衛生の領域、活動の特徴		
		b. プライマリヘルスケア		
		c. ヘルスプロモーション		
		d. 健康の概念		
		e. 世界保健機関<WHO>加盟国の役割		
	B. 健康と環境	a. 生態学的環境		
		b. 物理化学的環境		
		c. 社会的環境		
	C. 疫学的方法による健康の理解	a. 健康被害と母集団		
		b. 疫学的因果関係の推定		
		c. 臨床疫学とエビデンス		
	9. 健康指標と予防	A. 健康に関連した指標	a. 国勢調査	
			b. 人口静態	
			c. 出生	
			d. 死亡・死因	
e. 死産、周産期死亡、乳児死亡				
f. 平均余命、平均寿命				
g. 健康寿命				
h. 有病率・罹患率				
B. 感染症とその予防			a. 感染症の成立要因	
			b. 感染症の流行現象	
		c. 感染症予防の基本		
		d. 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律<感染症法>		
		e. 院内感染とその予防		
		f. 予防接種		
		g. 結核予防		
		h. ヒト免疫不全ウイルス<HIV>感染症、後天性免疫不全症候群<AIDS>		
		i. 新型インフルエンザ		
		10. 生活環境の保全	A. 地球環境	a. 地球温暖化
				b. オゾン層の破壊
				c. アスベスト、放射性物質
d. 水質汚染				
e. 大気汚染				
f. 土壌汚染				

大項目	中項目	小項目
	B. 食品管理および家庭用品	a. 食品安全確保対策
		b. 食品衛生管理制度
		c. 家庭用品の安全対策
	C. ごみ・廃棄物	a. 一般廃棄物と産業廃棄物
		b. 市町村と企業の責任
		c. 生活廃水処理
	D. 住環境	a. バリアフリー
		b. 室内空気汚染と健康問題
	11. 保健活動	A. 地域保健
b. 健康日本21		
c. 健康増進法		
d. 市町村保健センター		
e. 保健所		
B. 母子保健		a. 母子保健法
		b. 母子健康手帳
		c. 保健指導・訪問指導
		d. 健康診査・健康教育
		e. 児童虐待防止
		f. 母体保護法
C. 精神保健		a. 精神保健対策の制度の変遷
		b. 精神障害者（児）の医療
		c. 精神障害者（児）福祉
		d. こころの健康と自殺対策
		e. 発達障害
D. 学校保健		a. 学校保健安全法
		b. 健康診断・健康相談
		c. 感染予防
		d. 学校環境衛生
E. 生活習慣病の予防		a. 主な生活習慣病の現状
		b. 栄養・運動・休養
		c. 喫煙・飲酒対策
		d. 健康教育と早期発見
		e. 循環器疾患の予防
		f. 糖尿病の予防
		g. 特定健康診査、特定保健指導
F. がん対策		a. がん対策基本法
G. 難病対策		a. 特定疾患治療研究事業
H. 職場の健康管理		a. 労働安全衛生法
		b. 健康管理・職業病の予防
		c. トータル・ヘルスプロモーション
		d. 作業環境・作業環境管理
		e. ワーク・ライフ・バランス

目標Ⅳ. 人々の健康を守るためのサービス提供機関及び従事者の役割・機能に関する法律について
基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
12. 医療機関と医療従事者の職務の機能と役割	A. 保健師助産師看護師法	a. 目的、定義
		b. 免許
		c. 業務
		d. 守秘義務
		e. 業務従事者届
	B. 医療関係法規	a. 医療法
		b. 医師法
		c. 歯科医師法
		d. 薬剤師法
		e. 診療放射線技師法
		f. 臨床検査技師等に関する法律
		g. 理学療法士及び作業療法士法、言語聴覚士法
		h. 社会福祉士法及び介護福祉士法、精神保健福祉士法
	C. 医療サービスの供給体制	a. 医療計画
		b. 医療施設の機能
		c. 救急医療の充実
		d. 診療記録、情報公開
		e. 在宅医療
		f. 訪問看護ステーション
		g. 助産所
		h. 医薬品と医療用具の取り扱い
		i. 毒薬・劇薬の取り扱い
		j. 安全管理<セーフティマネジメント>
	D. 看護職員の確保・労働と関係法規	a. 労働基準法
		b. 育児休業、介護休業等育児又は家族介護を行う労働者の福祉に関する法律<育児・介護休業法>
		c. 看護師等の人材確保の促進に関する法律

【基礎看護学】

目標Ⅰ. 看護の基礎となる概念について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 看護の基本となる概念	A. 看護の本質（概念）	a. 看護の定義
		b. 役割と機能
		c. 職業としての看護
		d. 学問としての看護（主要な看護理論）
		e. 看護の変遷
	B. 看護の対象としての人間	a. 全体としての人間
		b. 成長発達する存在
		c. ライフサイクルと発達課題
		d. ニーズをもつ存在
		e. 生活者としての存在
		f. 適応する存在
		g. 社会・文化的存在
	C. 人間と健康	a. 健康のとらえ方
		b. 健康の諸相
		c. 健康への影響要因
		d. 生活習慣とセルフケア
		e. QOL
	D. 看護における倫理	a. 基本的人権、世界人権宣言、個人の尊厳
		b. 医療の倫理原則
c. 患者の権利と擁護		
d. 看護職者の倫理綱領		
e. 倫理的葛藤と対応		
2. 看護の展開	A. 援助的関係の形成	a. 信頼関係の構築
		b. 看護の対象との協働
	B. 根拠に基づいた実践	a. 根拠に基づいた看護<EBN>の概念
		b. クリティカルシンキング
		c. 問題解決過程
		d. 標準看護計画の活用
	C. チームアプローチ	a. チームカンファレンス
		b. 看護の継続性
		c. 他職種との連携・協働

目標Ⅱ. 基礎的な看護技術について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
3. 共通基本技術	A. コミュニケーション	a. コミュニケーションの構造とプロセス
		b. コミュニケーション技法
		c. コミュニケーションに障害のある人々への対応
	B. 学習支援	a. 学習にかかわる諸理論
		b. 対象者に合わせた目標設定
		c. 対象者に合わせた支援方法と媒体の工夫
		d. 個別指導・集団指導の特性と適用
	C. 看護過程	a. 情報の種類、収集方法と分析・解釈の統合
		b. 看護問題の明確化と優先順位決定
		c. 看護目標の設定と計画
		d. 実施・評価
		e. 看護記録の意義、必要性和種類
		f. 報告の必要性和方法
		g. 医療計画とクリニカルパス
	D. フィジカルアセスメント	a. 看護におけるフィジカルアセスメントの意義
		b. 問診、視診、触診、聴診、打診の基本技術
		c. 系統別のアセスメント
	E. 感染予防	a. 感染の成立と予防
		b. 標準予防策と感染経路別予防策
		c. 手洗い、消毒、滅菌法、無菌操作
		d. 感染性廃棄物の取り扱い
		e. 感染拡大の防止の対応
	F. 安全管理<セーフティマネジメント>	a. 医療安全の概念と安全管理対策
		b. 誤薬の起こりやすい状況と対策
		c. 転倒・転落の起こりやすい状況と対策
		d. チューブ・ライントラブルの起こりやすい状況と対策
		e. 針刺し事故の起こりやすい状況と対策
	G. 安楽確保	a. ケアを通じてもたらされる安楽
		b. 安楽な姿勢・体位の特徴
		c. ボディメカニクスの原理と看護実践への活用
		d. 安楽を保つための医療環境の調整
	H. 終末時のケア	a. 死の兆候とケア
		b. 死亡後のケア
c. 遺族へのかかわり（グリーフケア）		

大項目	中項目	小項目
4. 基本的日常生活援助技術	A. 環境の調整	a. 環境の調整
		b. 病床の整備
	B. 食事・栄養の援助	a. 食事・栄養の意義
		b. 健康な食生活と食事摂取基準、治療食・療養食
		c. 食事・栄養摂取に影響する要因
		d. 食事・栄養状態のアセスメント
		e. 食事摂取の自立困難な患者の援助
		f. 嚥下障害のある患者の援助
		g. 経管栄養法
		h. 経静脈栄養法
	C. 排泄の援助	a. 排泄の意義
		b. 排泄に影響する要因
		c. 排泄のアセスメント
		d. 自然な排便・排尿を促す援助
		e. トイレ歩行・ポータブルトイレでの排泄の援助方法
		f. 床上での排泄の援助
		g. 浣腸・摘便
		h. 膀胱留置カテーテルの挿入と管理
		i. 尿失禁・便失禁のある患者の援助
		D. 活動と休息の援助
	b. 活動・運動に影響する要因	
	c. 活動・運動のアセスメント	
	d. 体位変換	
	e. 床上運動・活動の援助	
	f. 歩行時の援助	
	g. 車椅子への移乗、車椅子での移動・移送	
	h. ストレッチャーへの移動、ストレッチャーでの移送	
	i. 療養生活におけるレクリエーション	
	j. 休息・睡眠の意義	
	k. 休息・睡眠に影響する要因	
	l. 休息・睡眠のアセスメント	
	m. 休息・睡眠を促す援助	
	E. 清潔・衣生活の援助	a. 清潔・衣生活の意義
b. 清潔・衣生活に影響する要因		
c. 清潔・衣生活のアセスメント		
d. 清潔行動・衣生活の自立度に応じた援助		
e. 身体各部の清潔の援助		

大項目	中項目	小項目
5. 診療に伴う技術	A. 呼吸・循環・体温調整	a. 呼吸・循環・体温調整のアセスメント
		b. 呼吸を楽にする姿勢・呼吸法
		c. 血圧・血流を保持する姿勢
		d. 酸素吸入の適応と方法
		e. 口腔内・鼻腔内・気管内吸引
		f. 胸腔ドレナージの管理
		g. 排痰法
		h. 温罨法・冷罨法
		i. 保温・体温管理
		B. 創傷管理
	b. 創傷のアセスメント	
	c. 褥瘡の予防と治癒の促進	
	d. ドレッシング・包帯法	
	C. 与薬	a. 与薬における看護師の役割
		b. 薬物療法の基本
		c. 薬剤の種類と取り扱い方法
		d. 与薬方法と効果の観察
	D. 救命救急処置	a. 生命の危機的状況のアセスメント
		b. 一次救命処置
		c. 止血法
d. 胃洗浄		
E. 生体機能のモニタリング	a. 診察・検査時の看護師の役割	
	b. 検体検査（尿、便、喀痰、血液、胸水、腹水、骨髄液）	
	c. 生体検査	
	d. 経皮的動脈血酸素飽和度<SpO ₂ >の測定、血糖測定	
	e. ME機器の取り扱いとモニタリング	

目標Ⅲ：保健・医療・福祉の中で看護の果たす役割について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
6. 看護の役割と機能を支える仕組み	A. 看護の場に応じた活動と専門分化	a. 在宅における看護活動
		b. 医療施設における看護活動
		c. 保健福祉施設における看護活動
		d. 看護職の各種資格と活動（認定看護師、専門看護師の活動）
	B. 継続看護	a. 施設内における継続
		b. 施設間における継続
		c. 退院調整

大項目	中項目	小項目
	C. 保健・医療・福祉の連携	a. 保健・医療・福祉のチームにおける看護職の役割・活動
		b. 他職種との連携
		c. 保健・医療・福祉の連携を支えるしくみ
	D. 看護管理	a. 看護管理の概念
		b. 看護組織と職務
		c. 看護業務管理と看護基準
		d. 安全管理<セーフティマネジメント>
		e. 看護提供システム
		f. 継続教育、キャリア開発
		g. 看護職員の労働安全衛生
	E. 看護制度、看護行政	a. 看護制度の変遷
		b. 看護教育制度の変遷
		c. 看護行政の組織
		d. 看護にかかわる診療報酬
		e. 看護職員の確保
		f. 看護職員の労働環境

【成人看護学】

目標Ⅰ. 成人各期の健康保持や疾病予防について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 成人の特徴と生活	A. 成人の生涯発達の特徴	a. 青年期・壮年期・向老期の身体の特徴
		b. 青年期・壮年期・向老期の心理社会的な特徴
	B. 成人と生活	a. 家族形態と機能
		b. 社会状況の変化と成人の生活
2. 成人における健康の保持・増進・疾病の予防	A. 生活習慣に関連する健康問題	a. 生活習慣病の発症因子と予防
		b. 生活習慣病の発生状況
	B. 職業に関連する健康問題	a. 就労条件・環境と病気
		b. 職業性疾患の発生状況と予防
	C. 生活ストレスに関連する健康問題	a. 生活ストレスと健康問題
		b. ストレス関連疾患の発生状況
		c. ストレス対処方法

目標Ⅱ. 成人の健康問題に応じた看護について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
3. 急性・重症看護	A. 急性・重症患者と家族の特徴	a. 急性・重症患者の特徴
		b. 急性・重症患者の家族の特徴
	B. 急性・重症患者の看護	a. 緊急性と重症度のアセスメント（意識レベル、バイタルサイン、神経学的所見、動脈血酸素飽和度＜SpO ₂ >）
		b. 心肺停止状態への対応（応援要請の方法、気道確保の方法、胸骨圧迫法、AEDの使用方法）
		c. 気管内挿管時の援助（気道確保の方法、気管内挿管法）
		d. 急性中毒への対処（化学物質・薬物）
		e. 外傷・熱傷・凍傷・骨折の応急処置
		f. 熱中症への対処
		g. 感染症への対処
		h. 食中毒への対処
		i. 危機的状態への精神的支援
		j. 代理意思決定支援
	C. 周術期の看護	a. 手術療法の理解を促す援助
		b. 手術の意思決定への援助
		c. 術後合併症のリスクアセスメント（呼吸器合併症、血栓塞栓症、術後イレウス、術後せん妄）
		d. 術前指導（抗凝固薬の内服指導、禁煙・呼吸訓練指導、足関節の底屈・背屈訓練）
		e. 不安のアセスメントと援助
		f. ボディイメージ＜身体像＞の変容への援助（ストーマ造設、乳房切除、ペースメーカー装着）
		g. 手術体位とその影響
		h. 手術方法（開腹・開胸・開頭・内視鏡・日帰り手術など）による影響と援助
		i. 麻酔方法による影響と援助
		j. 術中の安全管理
		k. 術後の疼痛管理
l. 術後合併症の予防（弾性ストッキングの着用、早期離床）		

大項目	中項目	小項目
		m. 早期回復促進への援助
		n. 術後の機能障害と生活制限への援助（抗凝固療法、ストーマ造設、ペースメーカー装着、リンパ浮腫）
4. 慢性疾患看護	A. 慢性疾患の特徴とその看護	a. 慢性疾患の変遷
		b. 慢性疾患の特徴
		c. 慢性疾患の経過プロセス
		d. 機能障害の理解に基づいたケアの工夫と応用
	B. セルフケア・自己管理支援	a. 疾病認識と自己管理状況のアセスメント
		b. セルフケア行動形成への影響要因
		c. 自己管理支援（内発的動機付け、自己効力感、ストレスコーピング、エンパワメント、成人学習理論）
		d. 生活と自己管理の調整（自己モニタリング、心理的葛藤への対応）
		e. 患者会の活用と支援
	C. 社会的支援の獲得への援助	a. 患者と家族の相互作用と関係性のアセスメント
		b. 家族の抱える問題の理解と援助
		c. 退院調整とチーム連携
d. 医療費助成制度		
5. リハビリテーション看護	A. リハビリテーションの特徴とその看護	a. リハビリテーションの特徴
		b. 生活機能障害と日常生活活動<ADL>
		c. 国際生活機能分類<ICF>の概念
	B. 障害に対する受容と適応への援助	a. 機能障害と日常生活動作のアセスメント
		b. 廃用症候群の予防
		c. 代償機能の獲得（活動促進に向けたADL支援、補助具の活用）
		d. チーム連携
		e. 居住環境のアセスメント
		f. 身体障害者福祉法に基づく社会資源の活用
		g. 心理的葛藤への対応
	C. 社会参加への援助	a. 職場調整
		b. 社会参加を促す要素と影響因子

大項目	中項目	小項目
6. がん看護	A. 手術療法の看護	a. 手術療法の理解を促す援助
		b. 手術の意思決定への援助
	B. 化学療法の看護	a. 化学療法の理解を促す援助
		b. 心身状態のアセスメント
		c. 抗癌薬投与時の観察と援助
		d. 有害事象に対する症状マネジメント
		e. 長期合併症のアセスメントと援助
		f. 外来化学療法を受ける患者への援助
	C. 放射線療法時の看護	a. 放射線療法の理解を促す援助
		b. 心身状態のアセスメント
		c. 放射線照射時の観察と援助
		d. 有害事象に対する症状マネジメント
		e. 晩期合併症のアセスメントと援助
		f. 被曝防御
	D. 造血幹細胞移植の看護	a. 造血幹細胞移植の理解を促す援助
		b. 心身状態のアセスメント
		c. ドナーの健康状態のアセスメントと援助
		d. 移植病室在室中の患者の援助
		e. 移植片対宿主病<GVHD>の観察と援助
	E. 緩和ケア	a. 患者ニーズのアセスメント
b. 症状マネジメント		
c. 全人的ケアと予期的悲嘆に対するケア		
d. 家族ケア		
e. 緩和ケアチームアプローチ		
7. 終末期看護	A. 終末期にある患者への看護	a. 全人的苦痛のアセスメントと苦痛軽減への援助
		b. 死の受容過程とアセスメントと援助
		c. 疼痛アセスメントと援助
		d. 症状マネジメント（呼吸困難、下肢浮腫、排便異常、食欲不振、睡眠障害）
		e. 家族ケア

目標Ⅲ. 機能障害のある成人への看護について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
8. 呼吸機能障害のある患者の看護	A. 機能障害のアセスメント	a. 酸素化障害の原因と程度
		b. 換気障害の原因と程度
		c. 呼吸運動障害の原因と関連要因
		d. 呼吸機能障害がもたらす生活への影響
	B. 症状とその看護	a. 酸素化障害の症状
		b. 換気障害の症状
		c. 呼吸運動障害の症状

大項目	中項目	小項目
	C. 検査を受ける患者の看護	a. 気管支鏡検査
		b. 胸腔穿刺
		c. 肺生検
		d. 呼吸機能検査
		e. 動脈血液ガス分析
	D. 治療を受ける患者の看護	a. 肺切除術
		b. 酸素療法
		c. 非侵襲的陽圧換気
		d. 侵襲的陽圧換気
		e. 抗アレルギー薬、気管支拡張薬、副腎皮質ステロイドによる治療
	E. 機能障害をもちながら生活する人の看護	a. 肺癌患者の病期に応じた援助
		b. 肺炎の病期に応じた援助
		c. 慢性閉塞性肺疾患の病期に応じた援助
		d. 気管支喘息の病期に応じた援助
	9. 循環機能障害のある患者の看護	A. 機能障害のアセスメント
b. 輸送還流障害の原因と程度		
c. 刺激伝導障害の原因と程度		
d. 循環機能障害がもたらす生活への影響		
B. 症状とその看護		a. ポンプ機能障害の症状
		b. 輸送還流障害の症状
		c. 刺激伝導障害の症状
C. 検査を受ける患者の看護		a. 心臓カテーテル検査
		b. 心血管造影検査
		c. 心電図・心エコー検査
D. 治療を受ける患者の看護		a. 経皮的冠動脈形成術<PCI>
		b. 冠動脈バイパス術<CABG>
		c. 弁置換術
		d. 大動脈内バルーンポンピング<IABP>
		e. ペースメーカー装着
		f. 植込み型除細動器
		g. 血栓溶解療法・血栓除去術
E. 機能障害をもちながら生活する人の看護		a. 心不全患者の病期に応じた援助
		b. 虚血性心疾患患者の病期に応じた援助
		c. 不整脈のある患者への援助
	d. 下肢動脈閉塞症の患者への援助	

大項目	中項目	小項目
10. 消化・吸収機能障害のある患者への看護	A. 機能障害のアセスメント	a. 咀嚼・嚥下機能障害の原因と程度
		b. 消化管機能障害の原因と程度
		c. 膵液分泌障害の原因と程度
		d. 胆汁分泌障害の原因と程度の把握
		e. 消化・吸収機能障害がもたらす生活への影響
	B. 症状とその看護	a. 咀嚼・嚥下機能障害による症状
		b. 消化管機能障害による症状
		c. 膵液分泌障害による症状
		d. 胆汁分泌障害による症状
	C. 検査を受ける患者の看護	a. 上部消化管内視鏡検査
		b. 大腸内視鏡検査
		c. 内視鏡的逆行性胆管膵管造影
		d. 上部消化管造影
		e. 下部消化管造影
		f. 直腸診
		g. 消化・吸収機能検査
	D. 治療を受ける患者の看護	a. 咽頭・喉頭摘出術
		b. 食道切除術
		c. 胃切除術
		d. 大腸切除術
		e. 腹腔鏡視下手術
		f. 人工肛門造設術
		g. 消化管手術後ドレーン挿入
		h. 胆道・胆のうドレーン挿入
		i. 急性膵炎の治療
		j. 中心静脈栄養法
	E. 機能障害をもちながら生活する人の看護	a. 咽頭・喉頭摘出後の生活の援助
		b. 食道切除術後の生活の援助
		c. 胃切除術後の生活の援助
		d. 大腸切除術後の援助
e. 人工肛門造設後の生活の援助		
f. 潰瘍性大腸炎・Crohn<クローン>病の生活指導		
g. 胃・十二指腸潰瘍の治療を受ける患者の援助		

大項目	中項目	小項目
11. 栄養代謝機能障害のある患者の看護	A. 機能障害のアセスメント	a. 肝機能障害の原因と程度
		b. 代謝機能障害（エネルギー、脂質、尿酸）の原因と程度
		c. 栄養代謝機能障害がもたらす生命・生活への影響
	B. 症状とその看護	a. 肝機能障害による症状の把握と援助（肝性脳症、食道静脈瘤、浮腫・腹水、倦怠感、黄疸、出血傾向）
		b. 代謝機能障害による症状の把握と援助（肥満、るい瘦、痛風発作）
	C. 検査を受ける患者の看護	a. 肝生検
		b. 内視鏡的逆行性胆管膵管造影法
	D. 治療を受ける患者の看護	a. 肝庇護療法
		b. インターフェロン療法
		c. 食道静脈瘤硬化療法
		d. 胆道・胆のうドレーン挿入
		e. 肝動脈塞栓術
		f. 肝切除術を受ける患者の援助
	E. 機能障害をもちながら生活する人の看護	a. 肝炎・肝硬変の病期に応じた援助
		b. 肝癌の病期に応じた援助
c. 高尿酸血症、高脂血症、肥満の人の援助		
12. 内部環境（体温、血糖、体液量、電解質、酸塩基平衡）調節機能障害のある患者の看護	A. 機能障害のアセスメント	a. 体温調節機能障害の原因と程度
		b. 血糖調節機能障害の原因と程度
		c. 体液量調節機能障害の原因と程度
		d. 電解質調節機能障害の原因と程度
		e. 酸塩基平衡調節機能障害の原因と程度
		f. 内部環境調節機能障害がもたらす生命・生活への影響
	B. 症状とその看護	a. 体温調節機能障害による症状
		b. 血糖調節機能障害による症状の把握と援助
		c. 体液量調節機能障害による症状
		d. 電解質調節機能障害による症状
		e. 酸塩基平衡調節機能障害による症状
	C. 検査を受ける患者の看護	a. 糖負荷試験<OGTT>
		b. 血糖自己測定<SMBG>を行う患者の援助
		c. 腎生検
		d. 静脈性尿路造影を受ける患者の援助
e. 腎機能検査（PSP試験、Fishberg<フィッシュバーグ>濃縮試験、糸球体濾過量<GFR>）		

大項目	中項目	小項目	
	D. 治療を受ける患者の看護	a. インスリン補充療法	
		b. インクレチン関連薬による治療	
		c. 糖尿病治療内服薬による治療	
		d. 食事・運動療法	
		e. 急性期持続血液濾過透析	
		f. 維持透析	
		g. 腹膜透析<CAPD>	
		h. 腎移植	
	E. 機能障害をもちながら生活する人の看護	a. 低体温症の予防と援助	
		b. 1型糖尿病の病期に応じた援助	
		c. 2型糖尿病の病期に応じた援助	
		d. 急性腎不全の病期に応じた援助	
		e. 慢性腎不全の病期に応じた援助	
		f. 慢性腎臓病の病期に応じた援助	
		g. ネフローゼ症候群の病期に応じた援助	
		h. 腎移植術後の患者への援助	
	13. 内分泌機能障害のある患者の看護	A. 機能障害のアセスメント	a. 甲状腺機能障害の原因と程度
			b. 副腎機能障害の原因の程度
c. 下垂体機能障害の原因の程度			
d. 内分泌機能障害がもたらす生活への影響			
B. 症状とその看護		a. 甲状腺機能障害による症状	
		b. 副腎機能障害による症状	
		c. 下垂体機能障害による症状	
C. 検査を受ける患者の看護		a. ホルモン負荷試験	
		b. ホルモン血中・尿中濃度測定検査	
D. 治療を受ける患者の看護		a. 甲状腺ホルモン療法	
		b. 甲状腺切除術	
E. 機能障害をもちながら生活する人の看護		a. 甲状腺機能障害をもつ患者の援助	
		b. 甲状腺癌の病期に応じた援助	
14. 身体防御機能の障害のある患者の看護		A. 機能障害のアセスメント	a. 皮膚粘膜障害の原因と程度
			b. 免疫機能障害の原因と程度
	c. 身体防御機能障害がもたらす生命・生活への影響		
	B. 症状とその看護	a. 皮膚粘膜障害による症状（発疹、びらん、潰瘍）	
		b. 免疫機能障害による症状（易感染、出血傾向、アレルギー反応）	
	C. 検査を受ける患者の看護	a. 骨髄穿刺	
		b. 生検（粘膜、皮膚、筋）	
		c. スキンテスト	

大項目	中項目	小項目
	D. 治療を受ける患者の看護	a. 抗HIV療法
		b. 減感作療法
		c. 免疫抑制薬、ステロイド療法
	E. 機能障害をもちながら生活する人の看護	a. ヒト免疫不全ウイルス<HIV>感染症の病期に応じた援助
		b. アレルギー性疾患をもつ人の援助
		c. 自己免疫疾患をもつ人の援助
		d. 血液悪性疾患の病期に応じた援助（悪性リンパ腫、白血病）
15. 感覚機能障害のある患者の看護	A. 機能障害のアセスメント	a. 視覚障害の原因と程度
		b. 聴覚障害の原因と程度
		c. 嗅覚障害の原因と程度
		d. 味覚障害の原因と程度
		e. 触覚障害の原因と程度
		f. 感覚機能障害がもたらす生命・生活への影響
	B. 症状とその看護	a. 視覚障害による症状
		b. 聴覚障害による症状
		c. 嗅覚障害による症状
		d. 味覚障害による症状
		e. 触覚障害による症状
	C. 検査を受ける患者の看護	a. 眼底検査
		b. オージオメータ検査
		c. 鼻腔内視鏡検査
		d. ろ紙ディスク法
	D. 治療を受ける患者の看護	a. 眼底光凝固療法
		b. 網膜はく離治療
		c. 人工眼内レンズ挿入術
		d. 鼓室形成術
		e. 鼻腔内手術
		f. 舌癌治療（切除術・放射線療法）
	E. 機能障害をもちながら生活する人の看護	a. 中途視覚障害者への援助
		b. 突発性難聴患者の援助
		c. Ménière<メニエール>病をもつ患者の援助
		d. 副鼻腔炎の病期に応じた援助
		e. 末梢神経障害をもつ患者の援助

大項目	中項目	小項目
16. 脳・神経機能障害のある患者の看護	A. 機能障害のアセスメント	a. 生命維持活動調節機能障害の原因と程度
		b. 運動・感覚機能障害の原因と程度
		c. 言語機能障害の原因と程度
		d. 高次脳機能障害の原因と程度
		e. 脳・神経機能障害がもたらす生命・生活への影響
	B. 症状とその看護	a. 生命維持活動調節機能障害の症状
		b. 運動・感覚機能障害の症状
		c. 言語機能障害の症状
		d. 高次脳機能障害の症状
	C. 検査を受ける患者の看護	a. 髄液検査
		b. 脳血管造影
		c. 脳波検査
	D. 治療を受ける患者の看護	a. 開頭術
		b. 穿頭術
		c. 血管バイパス術
		d. 血管内治療（血栓溶解療法、動脈瘤塞栓術）を受ける患者の援助
		e. 脳室ドレナージ術中
		f. 脳室－腹腔<V-P>シャント術
		g. 低体温療法中の患者の援助
	E. 機能障害をもちながら生活する人の看護	a. 脳血管障害患者の病期に応じた援助
b. 脳腫瘍患者の病期に応じた援助		
c. 脳梗塞患者の病期に応じた援助		
d. 小脳疾患患者の病期に応じた援助		
e. 頭部外傷患者の援助		
f. 脊髄損傷患者の援助		
g. 脳死状態にある人の援助		
17. 運動機能障害のある患者の看護	A. 機能障害のアセスメント	a. 姿勢機能障害の原因と程度
		b. 移動機能障害の原因と程度
		c. 作業機能障害の原因と程度
		d. 関節可動域障害・筋力低下の原因と程度
	B. 症状とその看護	a. 姿勢機能障害による症状
		b. 移動機能障害による症状
		c. 作業機能障害による症状
		d. 疼痛（関節痛、筋肉痛、腰痛、坐骨神経痛）
	C. 検査を受ける患者の看護	a. 筋生検
		b. 脊髄造影・椎間板造影
c. 膝関節鏡検査・膝関節液検査		

大項目	中項目	小項目
	D. 治療を受ける患者の看護	a. ギプス固定
		b. 牽引法
		c. 人工関節置換術
		d. ポジショニングの援助
	E. 機能障害をもちながら生活する人の看護	a. 関節リウマチの病期に応じた援助
		b. 椎間板ヘルニアの病期に応じた援助
		c. 重症筋無力症患者の援助
		d. Guillain-Barré<ギラン・バレー>症候群をもつ患者の援助
		e. 筋萎縮性側索硬化症<ALS>患者の援助
		f. 四肢切断後
18. 排泄機能障害のある患者の看護	A. 機能障害のアセスメント	a. 蓄尿・排尿機能障害の原因と程度の把握
		b. 排泄機能障害がもたらす生命・生活への影響の把握
	B. 症状とその看護	a. 蓄尿・排尿機能障害による症状の把握と援助
	C. 検査を受ける患者の看護	a. 尿流動態検査
		b. 膀胱鏡検査
	D. 治療を受ける患者の看護	a. 膀胱切除術
		b. 前立腺切除術
		c. ホルモン療法
	E. 機能障害をもちながら生活する人の看護	a. 排尿機能障害
		b. 尿管ストーマ造設後
19. 性・生殖機能障害のある患者の看護	A. 機能障害のアセスメント	a. 性欲の減退の原因と程度
		b. 性交障害の原因と程度
		c. 不妊の原因と程度
		d. 性感染症の原因と程度
		e. 乳腺・子宮・卵巣腫瘍の程度の把握
		f. 精巣腫瘍の程度の把握
		g. 性・生殖機能障害がもたらす生命・生活への影響
	B. 症状とその看護	a. 勃起障害症状
		b. 性交障害症状
		c. 性感染症<STD>
	C. 検査を受ける患者の看護	a. 男性生殖器の触診
		b. 女性生殖器の触診
		c. 基礎体温測定法
		d. 頸管粘液検査
		e. 卵管疎通性検査
		f. 乳房腫瘍穿刺吸引細胞診
		g. 腹部超音波検査
		h. 乳房超音波検査
		i. マンモグラフィー

大項目	中項目	小項目
	D. 治療を受ける患者の看護	a. 勃起障害治療
		b. 性交障害治療
		c. 不妊治療
		d. 性感染症治療
		e. 乳房切除術
		f. 女性生殖器切除術
		g. 男性生殖器切除術
		h. 乳癌内分泌療法
	E. 機能障害をもちながら生活する人の看護	a. 性機能障害
		b. ホルモン欠落症状
		c. 乳癌術後慢性リンパ浮腫

【老年看護学】

目標Ⅰ. 高齢者、家族の生活及び健康について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 老年期の理解	A. ライフサイクル	a. 老年期の定義・意義
		b. 加齢と老化
	B. 生活の変化	a. 生活の場
		b. 生活のリズムと生活習慣
		c. 役割と社会活動・余暇活動
		d. 家族構成（周期）
		e. 住宅環境
		f. 就労・雇用
		g. 収入・生計
	C. 老年期の発達と成熟	a. 老年期における発達と成熟の意味
		b. 老年期の発達課題
		c. 人格と尊厳
		d. 喪失体験と適応
		e. スピリチュアリティ
	D. 高齢者の多様性	a. 時代背景に関連する人生と経験の多様性
		b. 生活史
c. 価値観		
d. 生活習慣・生活様式		
2. 高齢者の健康	A. 加齢に伴う変化	a. 身体的機能
		b. 精神的機能
		c. 社会的機能
	B. 身体・精神・生活の連動	a. 老年期の健康のとらえ方
		b. 高齢者の健康の特徴
		c. 生きがいと生活の満足感

大項目	中項目	小項目
3. 高齢者と家族	A. 高齢者と家族の機能	a. 高齢者と家族のライフサイクル
		b. 要介護高齢者と家族介護
	B. 介護家族の課題	a. 高齢者の単独世帯の介護
		b. 高齢者の夫婦のみの世帯の介護
		c. 高齢者と未婚子のみの世帯の介護

目標Ⅱ. 健康レベルや療養形態に応じた高齢者と家族に対する看護について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目	
4. 老年看護の特徴	A. 高齢者の人生の質の保証	a. ノーマライゼーション	
		b. 自立支援とエンパワメント	
	B. 老年看護の基本	a. 安全・安楽な生活への看護	
		b. 健康の保持増進と廃用症候群の予防	
		c. 疾病の治癒・回復の特徴をふまえた看護	
		d. 個別の日常生活能力、目標に合わせた看護	
		e. 人生の統合をはかる看護	
		f. 家族との協働	
		g. 安全管理<セーフティマネジメント>	
		h. チームアプローチ（他職種との連携）	
	C. 老年看護の倫理	i. 在宅・施設につなげる看護（地域連携部門）	
		a. 高齢者差別	
		b. 高齢者虐待	
c. 安全確保と身体拘束			
d. 高齢者の権利擁護<アドボカシー>			
5. 高齢者の生活を支える看護	A. 高齢者の生活アセスメント	a. 総合機能評価<CGA>	
		b. 基本的日常生活動作<BADL>と手段的日常生活動作<IADL>	
		c. 心理・情緒機能	
		d. 生活環境	
	B. コミュニケーション	a. コミュニケーション能力のアセスメント	
		b. コミュニケーションを阻害する影響要因のアセスメント	
		c. 高齢者とのコミュニケーションの方法	
		C. 歩行・移動	a. 歩行・移動動作のアセスメント
			b. 歩行・移動動作の援助
	c. 高齢者の転倒の影響		
	d. 転倒発生の要因		
	e. 転倒予防		
	D. 食生活	a. 食生活のアセスメント	
		b. 嚥下能力、嗜好性、環境をふまえた食生活の援助	

大項目	中項目	小項目
	E. 排泄	a. 排泄のアセスメント
		b. 排泄能力の変化に応じたケア用具を用いた援助
	F. 清潔・衣生活	a. 清潔行為のアセスメント
		b. 更衣動作のアセスメント
		c. 入浴行動に伴う危険性、負担をふまえた清潔・衣生活の援助
	G. 活動と休息	a. 活動と休息のアセスメント
		b. 生活リズムの調整
	H. 性<セクシュアリティ>	a. セクシュアリティのアセスメント
		b. 健康なセクシュアリティへの援助
	I. 社会参加	a. 社会参加のアセスメント
		b. 生きがいもてる身近な場所への参加の援助
	6. 高齢者に特有な症候・疾患・障害と看護	A. 廃用症候群
b. 廃用症候群予防のためのアセスメント		
c. 廃用症候群予防のための援助		
B. 脱水症		a. 加齢による脱水症の病態と要因
		b. 脱水症のアセスメント
		c. 脱水症の予防と援助
C. 摂食・嚥下障害		a. 加齢による摂食・嚥下障害の病態と要因
		b. 摂食・嚥下障害のアセスメント
		c. 摂食・嚥下障害を有する高齢者の看護
		d. 誤嚥性肺炎の予防と援助
D. 低栄養		a. 加齢による低栄養状態の病態と要因
		b. 低栄養状態のアセスメント
		c. 他職種との協働による栄養管理
E. 掻痒症		a. 加齢による掻痒症の病態と要因
		b. 掻痒症の症状と生活への影響のアセスメント
		c. 掻痒症の予防と援助
F. 尿失禁		a. 加齢による尿失禁の病態と要因
		b. 尿失禁のアセスメント
		c. 尿失禁を有する高齢者への援助
G. 便秘・下痢		a. 加齢による便秘・下痢の病態と要因
		b. 便秘・下痢のアセスメント
		c. 便秘・下痢の予防と援助
H. 睡眠障害		a. 加齢による睡眠の特徴と睡眠障害の病態と要因
		b. 睡眠障害のアセスメント
	c. 睡眠障害を有する高齢者への援助	

大項目	中項目	小項目
	I. 視覚障害	a. 加齢による視覚障害の病態と要因
		b. 視覚障害の程度と生活への影響のアセスメント
		c. 視覚障害を有する高齢者の援助
	J. 聴覚障害	a. 加齢による聴覚障害の病態と要因
		b. 聴覚障害の程度と生活への影響のアセスメント
		c. 聴覚障害を有する高齢者の援助
	K. 骨粗鬆症	a. 加齢による骨粗鬆症の病態と要因
		b. 骨粗鬆症の症状と生活への影響のアセスメント
		c. 骨粗鬆症予防のための援助
		d. 骨粗鬆症の治療と援助
	L. 骨折	a. 加齢による骨折の特徴と要因
		b. 骨折の症状と生活への影響のアセスメント
		c. 骨折の治療と援助
	M. うつ病	a. 加齢によるうつ病の特徴と要因
		b. うつ病の症状と生活への影響のアセスメント
		c. うつ病の治療と援助
	N. せん妄	a. 加齢によるせん妄の病態と要因
		b. せん妄のアセスメント
		c. せん妄予防のための援助
		d. せん妄発生時の治療と援助
	O. 認知症	a. 加齢による認知症の病態と要因
		b. 認知機能の評価方法
		c. 認知症の高齢者に対するコミュニケーション方法
		d. 行動・心理症状と生活への影響
		e. 認知症高齢者の権利擁護のための社会的支援・制度
		f. 認知症の予防
		g. 認知症の治療と援助
h. 認知症の療法的アプローチ		
i. 認知症高齢者の家族への支援とサポートシステム		
P. Parkinson<パーキンソン>症候群 (パーキンソニズム)	a. 加齢によるパーキンソン症候群の病態と要因	
	b. パーキンソン症候群の症状と生活への影響のアセスメント	
	c. パーキンソン症候群の治療と援助	
Q. 感染症	a. 加齢による感染症の病態と要因	
	b. 感染症の罹患予防と感染拡大の防止	

大項目	中項目	小項目
7. 治療を受ける高齢者への看護	A. 薬物療法を受ける高齢者の看護	a. 加齢に伴う薬物動態の変化
		b. 服薬管理とリスクマネジメント
	B. リハビリテーションを受ける高齢者の看護	a. 高齢者に対するリハビリテーションの意義と特徴
		b. 生活機能向上につなぐ看護
	C. 受療形態に応じた高齢者への看護	a. 入院時の看護
		b. 外来診療時の看護
		c. 検査時の看護
		d. 手術療法時の看護
		e. 地域連携における退院時の看護
8. 高齢者の終末期の看護	A. 高齢者の死にかかわる権利の擁護	a. 終末期の捉え方
		b. 終末期における生き方や死の迎え方の意向（アドバンスディレクティブ〈事前指示〉、リビングウィル）
		c. 家族の参加と家族への支援
		d. 多専門職種からなる医療・ケアチームによる終末期支援の意義と役割
	B. 終末期看護の実践	a. 身体徴候のアセスメントと看護
		b. 苦痛の緩和と安楽への看護
		c. 精神的苦痛や混乱に対する看護
		d. 臨死期の評価と看護
		e. 家族への援助
9. 高齢者を介護する家族への看護	A. 介護する家族の生活と健康	a. 要介護高齢者と家族の役割
		b. 介護者の健康と介護力
		c. 家族生活への影響
	B. 介護する家族への看護	a. 家族介護状況の把握と分析
		b. 援助対象としての家族の視点と看護
		c. 介護力の評価
		d. 介護への適応のための看護

目標Ⅲ. 保健医療福祉制度における看護の役割について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
10. 介護保険・医療保険と老年看護	A. 高齢者の施設サービスにおける看護	a. 介護療養型医療施設の特徴と看護
		b. 介護老人保健施設の特徴と看護
		c. 介護老人福祉施設の特徴と看護
	B. 高齢者の居宅サービスにおける看護	a. 認知症対応型共同生活介護（認知症高齢者グループホーム）の特徴と看護
		b. 小規模多機能型居宅介護の特徴と看護

【小児看護学】

目標 I : 小児の成長・発達と健康増進のための小児と家族への看護について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 小児と家族を取り巻く環境・医療・看護	A. 小児医療と小児看護の特徴	a. 小児医療の変遷と課題
		b. 小児看護の変遷と課題
		c. 諸統計からみた小児と家族の健康課題
	B. 小児の人権	a. 小児の権利と変遷
		b. 児童の権利に関する条約
		c. 権利擁護<アドボカシー>
		d. インフォームドアセント
	C. 健康生活と法律・制度	a. 母子保健と子育て支援
		b. 小児の福祉と虐待防止
		c. 学校保健
		d. 予防接種
	2. 小児の成長と発達	A. 成長・発達の原則と影響因子
b. 成長・発達の原則		
c. 成長・発達に影響する因子		
B. 形態的・機能的発達		a. 各発達段階の形態的特徴と成長
		b. 各発達段階の機能的特徴と発達
C. 心理社会的発達		a. 認知
		b. 情緒
		c. 社会性
		d. コミュニケーション能力
		e. 遊びと学習
		f. 発達課題
D. 発育・発達の評価		a. フィジカルアセスメント
		b. 身体発育の評価
		c. 精神・運動機能の評価
		d. 養育環境のアセスメント
3. 新生児の健康増進のための看護		A. 新生児の健康増進と安全な環境の提供
	b. 感染予防	
	c. 事故防止	
	B. 新生児と家族	a. 親子関係
		b. 母子保健サービスの活用
4. 乳児の健康増進のための看護	A. 乳児の健康増進と安全な環境の提供	a. 離乳と栄養
		b. 運動と遊び
		c. 予防接種
		d. 感染予防
		e. アタッチメント、分離不安
		f. 事故防止と安全対策
	B. 乳児と家族	a. 親子関係
		b. 母子保健サービスの活用

大項目	中項目	小項目
5. 幼児の健康増進のための看護	A. 幼児の健康増進と安全な環境の提供	a. 基本的生活習慣の確立
		b. 食生活と栄養
		c. 自我の発達と遊び
		d. 予防接種
		e. 感染予防
		f. 事故防止と安全対策
	B. 幼児と家族	a. 家族関係と社会化
		b. 食育
c. 母子保健サービスの活用		
6. 学童の健康増進のための看護	A. 学童の健康増進とセルフケアの発達	a. セルフケアと保健教育
		b. 食生活と食育
		c. 学校への適応
		d. 学習と遊び
		e. 生活習慣病の予防
		f. 第二次性徴
		g. 事故防止と安全教育
	B. 学童と家族	a. 学童の情緒と仲間や家族との関係
		b. 学童をとりまく社会環境
		c. 学童の問題行動と対応
7. 思春期の小児の健康増進のための看護	A. 思春期の小児の健康増進とアイデンティティの確立	a. セルフケアと保健教育
		b. 食生活
		c. 親からの自立
		d. 異性への関心
		e. 生活習慣病の予防
		f. 第二次性徴
	B. 思春期の小児と家族	a. 情緒的变化と家族関係
		b. 小児をとりまく社会環境
		c. 小児の性<セクシュアリティ>意識の変化と逸脱行動
		d. 小児の問題行動と対応

目標Ⅱ：健康障害のある小児と家族が生活・療養するための看護について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目	
8. 病気や入院が小児と家族に与える影響とその看護	A. 小児看護における倫理	a. 医療を受ける小児の権利	
		b. 小児の権利と必要な看護行為	
	B. 病気や入院が小児と家族に与える影響	a. 小児の病気の理解と説明	
		b. 病気や入院に伴う小児の反応	
		c. 病気や入院が小児の成長・発達に及ぼす影響	
		d. 小児の病気や入院が同胞・家族に及ぼす影響	
		e. 小児の病気や入院がもたらす影響を左右する因子	
	C. 病気になった小児と家族	a. 各病期にあるの小児と家族への援助	
		b. 緊急入院時の小児と家族への援助	
	9. 健康障害の病期別の小児と家族の看護	A. 急性症状のある小児と家族	a. 急性的な経過をたどる疾患の特徴と治療
			b. 発熱時の援助
c. 脱水時の援助			
d. 下痢・嘔吐があるときの援助			
e. 呼吸困難があるときの援助			
f. けいれんがあるときの援助			
g. 生命徴候が危険な状況にある小児と家族への援助			
B. 救急救命処置が必要な小児と家族			a. 小児の事故・外傷と虐待の特徴
			b. 小児救急におけるトリアージと対応
		c. 主な誤飲物質と処置	
		d. 小児の熱傷の特徴・重症度および処置	
		e. 溺水と処置	
		f. 小児の一次救命処置	
		g. 乳幼児・小児の意識レベル	
		h. 吸引	
		i. 酸素療法	
		j. 救急処置を受ける小児と家族の不安の緩和	
		C. 周手術期における小児と家族	a. 小児の手術の特徴
b. 手術を要する健康障害と手術の時期			
c. 計画手術と緊急手術			
d. 日帰り手術			
e. 術前準備の説明			
f. 小児と家族の準備状態の把握とプレパレーション			
g. 小児の安全・安楽への看護と家族の援助			
h. 手術後の身体状態のアセスメントと看護			
i. 退院に向けての看護			

大項目	中項目	小項目
	D. 慢性期にある小児と家族	a. 慢性的な経過をたどる疾患の特徴と治療
		b. 小児慢性特定疾患治療研究事業
		c. 病気の時間的経緯と急性増悪
		d. 病気による小児と家族の生活の変化
		e. 学習支援と復学支援
		f. 小児の発達とセルフケアの獲得への援助
		g. 家族への看護
		h. 地域との連携・調整
	E. 終末期にある小児と家族	a. 小児の死の概念
		b. 死に対する小児の反応と援助
c. 小児への病気の説明		
d. 終末期にある小児の心身の状態と緩和ケア		
e. 小児の死を看取る家族の反応と援助		
10. さまざまな状況にある小児と家族への看護	A. 外来における小児と家族	a. 緊急度の把握・トリアージ
		b. 虐待への気づきと重症化予防に向けての対応
		c. 安全の確保（事故防止、感染症対策）
		d. 受診時の小児と家族の緊張と不安の軽減
		e. 健康診査・育児相談
	B. 検査や処置を受ける小児と家族	a. 発達に応じたプレパレーション
		b. 安全・安楽への援助
		c. バイタルサインの測定
		d. 身体計測
		e. 採血
		f. 採尿
		g. 骨髄穿刺
		h. 腰椎穿刺
		i. 与薬
		j. 注射
	k. 輸液療法	
	C. 活動制限が必要な小児と家族	a. 活動制限の目的
		b. 身体的・心理社会的影響
		c. 小児の発達段階に応じた援助
		d. 小児の日常生活にかかわる家族の援助
D. 感染対策上隔離が必要な小児と家族	a. 隔離の目的・方法	
	b. 身体的・心理社会的影響	
	c. 小児の身体・情緒・発達面を考慮した日常生活の援助	
	d. 家族の面会や付き添いにおける援助	
E. 痛みを表現している小児と家族	a. 小児の痛みの受け止め方	
	b. 痛みの表現方法	
	c. 痛みの客観的評価	
	d. 痛み緩和への援助	

大項目	中項目	小項目
	F. 医療的ケアを必要として退院する小児と家族	a. 入院生活から在宅への移行に向けた支援
		b. 他職種との連携と社会資源の活用
		c. 在宅療養中の小児と家族の支援
		d. 小児のセルフケア行動の促進
	G. 災害時の小児と家族	a. 災害による小児への影響とストレス
		b. 災害時の小児と家族への援助
11. 小児期特有の症状や疾患を持つ小児と家族の看護	A. ハイリスク新生児と家族	a. 低出生体重児の特徴
		b. ハイリスク新生児の集中治療と援助
		c. 親子・家族関係の促進
	B. 先天的疾患のある小児と家族	a. 先天異常の種類と特徴
		b. 小児の発達段階に応じた援助
		c. 小児の先天的な問題に対する家族の理解と受容への援助
		d. 小児の養育とケア技術獲得に対する家族の援助
	C. 心身障害のある小児と家族	a. 心身障害の定義と種類
		b. 発達障害
		c. 障害の受容
		d. 経管栄養法
		e. 小児と家族の日常生活にかかわる社会資源活用と援助

【母性看護学】

目標 I : 母性看護の概念及び人間の性と生殖について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 母性看護の概念	A. 母性看護の主な概念	a. 母性・父性、母性看護の概念
		b. リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
		c. 家族の発達・機能
	B. 母子の健康生活と法律・制度	a. 母子保健の統計指標
		b. 女性のリプロダクティブ・ヘルスにかかわる社会的要因
		c. 母子保健法
		d. 子育て支援施策
		e. 母性保護の関係法規
		f. 女性の就労の関係法規
		g. 外国人妊産婦と家族への支援
		h. 災害時の妊産婦と家族への支援
	C. 母性看護と倫理	a. 対象の権利と擁護
		b. 自己決定の尊重
c. プライバシーの保護		
d. 人間の性と生殖や医療における倫理		

大項目	中項目	小項目
2. 人間の性と生殖	A. 性の概念	a. 性的健康の概念
		b. セックス、ジェンダー、セクシュアリティ
		c. ヒトの発生・性的分化のメカニズム
	B. 性と生殖の機能のメカニズム	a. 性周期
		b. 性行動・性反応
		c. 受胎のメカニズム

目標Ⅱ：女性のライフサイクル各期における看護について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
3. 女性のライフサイクル各期における看護	A. 思春期女性の健康課題と看護	a. 第二性徴
		b. 性意識・性行動の発達
		c. 月経異常
		d. 性感染症<STD>
	B. 成熟期女性の健康課題と看護	a. 家族計画
		b. 不妊症、不育症
		c. 女性生殖器の疾患
		d. 性暴力、DV<ドメスティック・バイオレンス>
	C. 更年期女性の健康課題と看護	a. ホルモンの変化と閉経
		b. 更年期症状
	D. 老年期女性の健康課題と看護	a. 骨盤臓器脱
		b. 老人性膣炎、外陰炎

目標Ⅲ. 周産期における看護について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
4. 周産期にある人と家族の看護	A. 妊娠の生理と妊婦の看護	a. 妊娠の経過と胎児の発育
		b. 妊婦の心理
		c. 妊娠と不快症状
		d. 妊婦の日常生活とセルフケア
		e. 出産・育児の準備
	B. 分娩の生理と産婦の看護	a. 分娩の経過と胎児の健康状態
		b. 産婦の基本的ニーズと看護
		c. 産痛の緩和
		d. 産婦と家族の心理
	C. 産褥の生理と褥婦の看護	a. 退行性変化
		b. 進行性変化
		c. 褥婦の心理
		d. 褥婦の日常生活とセルフケア
		e. 母乳育児への支援
		f. 親役割への支援

大項目	中項目	小項目			
	D. 新生児の生理と看護	a. 新生児の生理 b. 新生児の栄養 c. 新生児の保育環境			
5. 周産期の異常と看護	A. 妊娠の異常と看護	a. 流産、早産 b. 感染症 c. 常位胎盤早期剥離 d. 前置胎盤 e. 妊娠高血圧症候群 f. 妊娠糖尿病 g. 出生前診断			
		B. 分娩の異常と看護	a. 前期破水 b. 帝王切開術 c. 産科出血 d. 胎児機能不全		
			C. 産褥の異常と看護	a. 肺塞栓 b. 子宮復古不全 c. 産褥熱 d. 乳腺炎 e. 産後うつ f. 帝王切開術後 g. 死産、障害をもつ新生児を出産した親	
				D. 新生児の異常と看護	a. 新生児の健康逸脱 b. 早産児、低出生体重児 c. 先天異常、障害をもつ新生児

【精神看護学】

目標 I : 精神の健康と保持・増進に向けた看護について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目	
1. 精神保健	A. 精神の健康	a. 精神の健康の概念 b. 精神障害の第一次予防、第二次予防、第三次予防	
		B. 心の健康に関する普及啓発	a. 偏見・差別・スティグマ b. 精神保健医療福祉の改革ビジョン
	C. 危機<クライシス>		a. 危機の概念 b. 危機介入 c. 危機と予防 d. ストレスと対処 e. 適応理論
		D. 災害時地域精神保健医療活動	a. 災害時の精神保健医療活動 b. 災害時の精神保健初期対応 c. 災害時の精神障害者への治療継続への援助

目標Ⅱ：精神看護の基盤となる援助について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
2. 精神看護の基盤となる援助	A. 精神疾患・精神症状への援助	a. 症状性を含む器質性精神障害
		b. 精神作用物質使用による精神・行動の障害
		c. 統合失調症、統合失調症型障害、妄想性障害
		d. 気分（感情）障害
		e. 神経症性障害、ストレス関連障害、身体表現性障害
		f. 生理的障害・身体的要因に関連した行動症候群
		g. 成人の人格・行動の障害
		h. 精神遅滞
		i. 心理的発達障害
		j. 小児期・青年期に通常発症する行動・情緒の障害
		B. セルフケアの援助
	b. 呼吸	
	c. 排泄	
	d. 清潔と身だしなみ	
	e. 活動と休息	
	f. 対人関係	
	g. 安全	
	C. 生きる力と強さに着目した援助	a. ストレングス＜強み・力＞
		b. リカバリ＜回復＞
		c. エンパワメント
	D. 援助関係の構築	a. 信頼関係の基礎作り
		b. 患者－看護師関係の発展
		c. 患者－看護師関係の終結
		d. プロセスレコードの活用

大項目	中項目	小項目
	E. リエゾン精神看護	a. 心身相関と健康
		b. 身体疾患をもつ人の精神の健康
		c. 精神疾患をもつ人の身体の健康
		d. 患者と家族の精神の健康
		e. 看護職員の精神の健康
		f. 支持的面接
		g. 心身相関の考え方に基づくホリスティックケア
		h. リラクセーション
		i. 患者、家族、保健医療福祉の専門職間の連携促進

目標Ⅲ：精神疾患をもつ人の生物・心理・社会的側面への看護について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
3. 生物学的側面に注目した援助	A. 脳の仕組みと精神機能	a. 脳の部位と精神機能
		b. 神経伝達物質と精神機能
		c. ストレス脆弱性仮説
		d. 脳と免疫機能
		e. 睡眠障害とサーカディアンリズム
	B. 臨床検査	a. 脳波検査
		b. 脳の画像検査
		c. 脳脊髄液検査
	C. 薬物療法	a. 抗精神病薬
		b. 抗うつ薬
		c. 気分安定薬
		d. 抗不安薬
		e. 睡眠薬
		f. 抗てんかん薬
D. 症状マネジメント	a. 服薬自己管理への支援	
	b. 心理教育	
4. 心理学的側面に注目した援助	A. 心の機能と発達	a. 精神情緒の発達
		b. 自我の機能
		c. 防衛機制
		d. 精神力動
		e. 集団力動
		f. 転移感情
	B. 精神療法	a. 個人精神療法
		b. 集団精神療法
		c. 認知行動療法
	C. リハビリテーション療法	a. 作業療法
		b. 芸術療法
		c. 生活技能訓練<SST>

大項目	中項目	小項目
5. 社会的側面に注目した援助	A. 家族	a. 家族のストレスと健康状態のアセスメント
		b. 家族の対処力とソーシャルサポートのアセスメント
		c. 家族システムのアセスメント
		d. 家族への教育的介入と支援
		e. 患者-家族関係
	B. 社会復帰・社会参加の基本	a. リハビリテーションの概念
		b. 国際生活機能分類<ICF>
		c. 長期入院患者の退院支援
	C. 保健医療に関する資源の活用と調整	a. 保健所、市町村、精神保健福祉センター
		b. 精神科デイケア、精神科ナイトケア
		c. 訪問看護、精神科訪問看護
	D. 社会資源の活用とケアマネジメント	a. 精神障害者ケアマネジメントの基本的考え方
		b. 社会資源の活用とソーシャルサポート（エコマップ）
		c. 自立支援医療
		d. 居宅介護<ホームヘルプ>、同行援護および行動援護
		e. 重度訪問介護
		f. 生活介護
		g. 短期入所<ショートステイ>
		h. 共同生活介護<ケアホーム>
		i. 生活訓練
j. 就労移行支援		
k. 就労継続支援A型・B型		
l. 共同生活援助<グループホーム>		
m. 地域生活支援事業		
n. 精神障害者保健福祉手帳		

目標Ⅳ：精神疾患をもつ人の人権と安全を守り、回復を支援する看護について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
6. 安全な治療環境の提供	A. 安全管理<セーフティマネジメント>	a. 病棟環境の整備と行動制限
		b. 自殺・自殺企図・自傷行為
		c. 攻撃的行動、暴力、暴力予防プログラム
		d. 災害時の精神科病棟の安全の確保

大項目	中項目	小項目
7. 精神保健医療福祉の歴史と法制度	A. 患者の権利擁護<アドボカシー>	a. 当事者の自己決定の尊重
		b. 入院患者の基本的な処遇
		c. 精神医療審査会
		d. 隔離、身体拘束
	B. 精神保健医療福祉の歴史と看護	a. 諸外国における精神医療の歴史
		b. 日本における精神医療の歴史
		c. 精神保健医療福祉における看護師の役割
	C. 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律	a. 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律の基本的な考え方
		b. 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律による入院の形態
		c. 精神保健指定医・特定医師
		d. 保護者
	D. 精神保健医療福祉に関連する法制度	a. 自殺対策基本法
		b. 犯罪被害者等基本法
c. 精神の健康を守る行政システム		
8. 精神保健医療福祉におけるチーム	A. 精神科チーム医療と看護	a. 保健師
		b. 精神保健福祉士
		c. 作業療法士
		d. 精神保健福祉相談員
		e. セルフヘルプグループ
		f. ピアサポーター
		g. 薬剤師
		h. 栄養士
		i. 心理専門職
		j. チーム医療

【在宅看護論】

目標Ⅰ. 在宅看護の特徴、在宅療養者及び家族について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
1. 在宅看護が必要とされる背景と根拠	A. 社会的背景	a. 人口構成の変化
		b. 国民の価値観
		c. 療養の場
		d. 社会保障費（医療費・介護費）
	B. 在宅医療・介護と制度	a. 在宅医療・介護に関する仕組み
		b. 疾病や障害を抱えた人の社会参加
2. 在宅看護の対象と生活	A. 在宅看護の対象者	a. 疾病をもつ人と家族
		b. 障害をもつ人と家族
	B. 対象者の生活	a. 生活の場の種類
		b. 生活様式と価値観
	C. 在宅看護の提供方法	a. 外来看護
		b. 訪問看護
		c. 入所施設での看護
		d. 通所施設での看護
	3. 在宅看護の目的	A. 自立・自律支援とQOL向上のための支援
b. セルフケア		
c. 社会参加への援助		
B. 病状・病態の予測と予防		a. ヘルスアセスメント
		b. 病状経過の予測
		c. 在宅での感染予防対策
4. 在宅看護の役割と機能	A. 生活の中で必要となる安全管理	a. 家屋環境の整備
		b. 転倒・転落の防止
		c. 誤嚥・窒息の防止
		d. 熱傷・凍傷の防止
		e. 熱中症の防止
		f. 閉じこもりの防止
		g. 独居高齢者等と火災予防
	B. 家族への支援	a. 家族のアセスメント
		b. 家族関係の調整
		c. ケア方法の指導
		d. 介護者の健康
		e. レスパイトケア

大項目	中項目	小項目
	C. 療養の場の移行に伴う看護	a. 入退院に関する患者・家族の意思決定支援
		b. 退院支援・退院調整のプロセス、仕組み
		c. 退院調整にかかわる職種とその役割
		d. 入退所に関する患者・家族の意思決定支援・調整
	D. 医療機関との連携	a. 地域連携パスの理解
		b. 外来・地域連携部門との看看連携
		c. 他職種との連携・協働
	E. 在宅におけるチームケア	a. 地域包括ケア
		b. チームケアの意義
		c. 多職種との連携・協働
		d. チームケアの実際
		e. チームケアにおける看護の役割
	F. ケアマネジメント・ケースマネジメント	a. ケアマネジメント・ケースマネジメントの概念
		b. ケアマネジメント・ケースマネジメントの過程
		c. ケアマネジメント・ケースマネジメントの実際
		d. 社会資源の理解と活用
	G. 在宅看護における倫理的課題	a. 自己決定支援
		b. 対象者の権利擁護<アドボカシー>（成年後見制度）
		c. サービス提供者の権利擁護
		d. 虐待の防止
e. 情報管理		

目標Ⅱ. 在宅における看護について基本的な理解を問う。

大項目	中項目	小項目
5. 訪問看護の概要	A. 訪問看護制度の理解	a. 訪問看護の変遷
		b. 訪問看護の提供方法と種類
		c. 訪問看護制度の課題
	B. 訪問看護制度の法的枠組み	a. 健康保険法
		b. 介護保険法
		c. 障害者総合支援法（旧障害者自立支援法）
		d. 高齢者の医療の関係法規
		e. その他関係法規
	C. 訪問看護サービスの仕組みと提供	a. 訪問看護ステーションの開設基準
		b. 訪問看護サービス開始までの流れ
		c. 訪問看護サービスの展開
		d. 訪問看護サービスの質保証
		e. 訪問看護サービスの管理・経営

大項目	中項目	小項目
6. 生活を支える在宅 看護技術	A. 食事・栄養の援助	a. 食事摂取能力のアセスメント
		b. 摂食・嚥下能力障害時のアセスメント
		c. 嚥下障害時の援助
		d. 口腔ケア
		e. 食事内容の選択、食材の調達の方法に関する援助
		f. 栄養を補う食品の種類と選択方法に関する援助
	B. 排泄の援助	a. 排泄障害のアセスメント
		b. 排泄補助用具の種類と選択方法
		c. 尿失禁の予防と援助
		d. 便失禁への援助
		e. 便秘の予防と援助
		f. ストーマケア
	C. 清潔の援助	a. 清潔のアセスメント
		b. 在宅での清潔方法の種類と方法
	D. 移動の援助	a. 日常生活動作<ADL>・手段的日常生活動作<IADL>のアセスメント
		b. 移動時の安全確保
c. 移動補助用具の種類と選択方法		
d. 自立歩行に必要な筋力評価と強化方法		
7. 在宅療養者の状態・ 状況にあわせた 看護	A. 日常生活活動の低下予 防及び疾病の再発予防 が必要な療養者	a. 状態のアセスメントと環境整備
		b. 療養者・家族のセルフマネジメント力を維持・高める支援
		c. 異常の早期発見と対応
		d. 社会資源の活用・調整
	B. 回復期（リハビリテー ション期）にある療養 者	a. 在宅リハビリテーション
		b. 機能障害と在宅での生活のアセスメント
		c. 合併症の予防と対応
		d. 居住環境のアセスメント
		e. 社会資源の活用・調整
	C. 慢性期にある療養者 （難病・認知症）	a. 状態のアセスメントと状態に合わせた対応・調整
		b. 難病療養者・家族のセルフマネジメント力を高める支援
		c. 急性増悪の早期発見と対応
		d. 社会資源の活用・調整
	D. 終末期にある療養者	a. 症状マネジメント
		b. 終末期緩和ケアの実際
		c. 看取りの看護
d. 家族へのグリーフケア		

大項目	中項目	小項目
8. 在宅における医療管理を必要とする人と看護	A. 薬物療法	a. 服薬状況の把握
		b. 医師および薬剤師との連携
		c. 外来通院中の在宅療養者に対するケア（麻薬投与・外来化学療法）
		d. 放射線治療・検査に関するケア
	B. 酸素療法	a. 対象者
		b. 機器の種類
		c. 合併症の予防
		d. 在宅における安全管理と支援
	C. 人工呼吸療法（非侵襲的換気療法）	a. 対象者
		b. 人工呼吸器の原理・構造
		c. 気道浄化のケア
		d. 合併症の予防
		e. 在宅における安全管理と支援
	D. 膀胱留置カテーテル法	a. 対象者
		b. 合併症の予防
		c. 在宅における安全管理と支援
	E. 胃婁・経管栄養法	a. 対象者
		b. 栄養剤の種類と特徴
		c. 栄養評価
		d. 合併症の予防
		e. 在宅における安全管理と支援
	F. 中心静脈栄養法	a. 対象者
		b. 栄養剤の注入方法
		c. 栄養評価
		d. 合併症の予防
		e. 在宅における安全管理と支援
	G. 褥瘡管理	a. 褥瘡発生のリスクアセスメント・発生予防
		b. 褥瘡のアセスメントと処置
c. 除圧・体位交換に関する器具の種類と選択		
d. 在宅における安全管理と支援		

【看護の統合と実践】

目標Ⅰ. 看護におけるマネジメントについて基本的な理解を問う。

大項目	中項目
1. 看護におけるマネジメント	A. 看護専門職の役割
	B. 看護の質保証
	C. 情報の管理
	D. チームアプローチ
	E. 医療安全

目標Ⅱ. 災害看護について基本的な理解を問う。

大項目	中項目
2. 災害と看護	A. 災害医療と看護
	B. 災害の種類と災害サイクル
	C. 災害各期の看護支援

目標Ⅲ. 国際社会における看護について基本的な理解を問う。

大項目	中項目
3. 国際化と看護	A. 看護のグローバル化
	B. 多様な文化と看護
	C. 看護の国際協力活動

看護師国家試験出題基準・索引

1

1型糖尿病・35

2

2型糖尿病・35

A

ABO式・11
ADL・6, 30, 57
AED・8, 29
AIDS・21
ALS・15, 38
Alzheimer病・15

B

BADL・40

C

CAPD・35
CGA・40
Creutzfeldt-Jakob病・15
Crohn病・33

D

DV・49
DV法・20

E

EBN・24

F

Fishberg濃縮試験・34

G

Guillain-Barré症候群・15, 38
GVHD・31

H

HIV・16, 21
HIV感染症・36

I

IADL・40, 57
ICF・30, 53

L

Lewy小体型認知・15

M

Ménière病・36
ME機器の取り扱いとモニタリング
・27
MMT・6
MRI・14

N

NPO法・20

O

OGTT・34

P

Parkinson症候群・42
Parkinson病・15

Q

QOL・3, 24, 55

R

Rh式・11
ROM・6, 9

S

Sjogren症候群・16
SLE・16
SMBG・34
SpO₂・27, 29
SST・52

W

WHO・21

あ

アイデンティティの確立・3
悪性リンパ腫・16
アスベスト・21
アセスメント・6
遊び・44, 45
遊びと学習・44

アタッチメント・44
圧迫性神経障害・15
アドバンスディレクティブ・43
アトピー性皮膚炎、・15
アドボカシー・40, 44, 54, 56
アポトーシス・14
アルツハイマー病・15
アレルギー・14
アレルギー性疾患・16, 36
アレルギー性鼻炎・16
アレルギー反応・11
安全・40, 51
安全・安楽への援助・47
安全確保・40
安全管理・23, 25, 28, 40, 53, 55
安全管理対策・25
安全教育・45
安全対策・6, 44, 45
安全の確保・47
菴法・8
安楽・25, 40, 43
安楽確保・25
安楽な姿勢・体位・25

い

胃・12
慰安・交流・18
胃潰瘍・33
異化作用・12
生きがい・39
生きる力・51
育児休業、介護休業等育児又は家族
介護を行う労働者の福祉に関する
法律<育児・介護休業法>・23
育児相談・47
育児と介護の社会化・18
意識障害・5
意識レベル・6, 29, 46
意思決定・29, 56
維持透析・35
医師法・23
萎縮・14
移植片対宿主病・31
移植病室・31
異性への関心・45
胃切除術・33
胃洗浄・27
遺族への関わり・25

痛み・47
一次救命処置・27
一般廃棄物・22
遺伝・4
遺伝子・9
遺伝情報・9
移動・57
移動・移送・7
移動機能障害・37
移動補助用具・57
医療安全・58
医療安全対策・7
医療安全の概念・25
医療関係法規・23
医療計画・23, 25
医療サービスの供給体制・23
医療施設における看護活動・27
医療提供施設・4
医療的ケアを必要として退院する子
ども・48
医療の倫理原則・24
医療費助成制度・30
医療法・23
医療保険・2
医療保険制度・2, 19
医療保険の財政・19
医療を受ける子どもの権利・46
イレウス・17
胃婁・58
インクレチン関連薬による治療・35
インシデントレポート・4
飲酒・13
インスリン補充療法・35
インターフェロン療法・34
咽頭・12, 17
咽頭(喉頭)摘出・33
咽頭(喉頭)摘出術・33
院内感染・7, 15, 21
インフォームド・コンセント・2
インフォームドアセント・44
陰部洗浄・7

う

ウイルス性肝炎・15
植込み型除細動器・32
う歯・17
右心不全・16
うつ病・42

運動・1, 44
運動・感覚機能障害・37
運動機能障害・37
運動の異常・5
運動能力・3
運動不足・13
運動療法・35

え

栄養・1, 3, 12, 26, 44, 45, 57
栄養剤・58
栄養士・54
栄養所要量・12
栄養代謝機能障害・34
栄養評価・58
栄養補給・7
会陰・13
疫学的因果関係の推定・21
疫学的方法・21
液性免疫・11
エコマップ・53
壊死・14
壊疽・14
エネルギー代謝・12
エビデンス・21
嚥下・12, 57
嚥下障害・26
嚥下能力・40
炎症・14
援助関係・51
エンパワメント・40, 51

お

応援要請の方法・29
横隔膜・17
嘔気・5
応急処置・8, 29
黄疸・5
嘔吐・5, 46
オージオメータ検査・36
オゾン層の破壊・21
親からの自立・45
親子関係・3, 44
親役割・49
温菴法・8, 27

か

- 外陰炎 ・49
- 外因性障害 ・5
- 外陰部 ・13
- 外殻温度 ・12
- 介護家族 ・43
- 介護家族への看護 ・43
- 外国人妊産婦 ・48
- 介護者 ・43
- 介護適応への看護 ・43
- 介護保険事業計画 ・19
- 介護保険制度 ・2, 19
- 介護保険の財政 ・19
- 介護保険法 ・56
- 介護予防 ・20
- 介護療養型医療施設 ・43
- 介護力の評価 ・43
- 介護老人福祉施設 ・43
- 介護老人保健施設 ・4, 43
- 外傷 ・29
- 疥癬 ・15
- 回腸 ・12
- 開頭術 ・37
- 回復 ・51
- 回復過程 ・13
- 潰瘍性大腸炎 ・33
- 外来・地域連携部門 ・56
- 外来化学療法 ・31, 58
- 外来看護 ・55
- 外来受診状況 ・1
- 外来診療 ・43
- 外来における子ども ・47
- 家屋環境 ・55
- 化学物質・薬物 ・29
- 化学療法 ・31
- 核 ・9
- 核酸の代謝 ・12
- 学習 ・45
- 学習支援 ・25, 47
- 学習にかかわる諸理論 ・25
- 核心温度 ・12
- 覚醒 ・9
- 喀痰 ・5
- 学童 ・45
- 学童期 ・3
- 獲得免疫 ・3
- 学問としての看護 ・24
- 隔離 ・47, 54
- 火災予防 ・55
- 家事機能の変化 ・18
- 下肢動脈閉塞症 ・32
- 下垂体 ・13
- 下垂体機能障害 ・35
- 下垂体の疾患 ・17
- 過疎化 ・18
- 家族 ・18, 30, 55
- 家族介護 ・40
- 家族介護者 ・55
- 家族関係 ・4, 45
- 家族観の多様化 ・18
- 家族ケア ・31
- 家族計画 ・49
- 家族形態 ・4
- 家族構成(周期) ・39
- 家族構成員 ・4
- 家族システム ・53
- 家族との協働 ・40
- 家族内介護者 ・18
- 家族の機能 ・4
- 家族のストレス ・53
- 家族の対処力 ・53
- 家族の発達・機能 ・48
- 家族への教育的介入と支援 ・53
- 価値観 ・39, 55
- 喀血 ・5
- 学校環境衛生 ・22
- 学校への適応 ・45
- 学校保健 ・22, 44
- 学校保健安全法 ・22
- 活動制限 ・47
- 活動制限が必要な子ども ・47
- 活動と休息 ・7, 26, 41, 51
- 下部消化管造影 ・33
- 花粉症 ・16
- 加齢 ・39
- 加齢に伴う薬物動態の変化 ・43
- 加齢変化 ・13, 39
- がん ・5, 16
- 肝炎・肝硬変 ・34
- 感覚機能障害 ・36
- 感覚受容 ・10
- 感覚の異常 ・5
- 肝がん ・34
- がん看護 ・31
- 看看連携 ・56
- 換気 ・11
- 換気障害 ・31
- 肝機能障害 ・34
- 眼球 ・10
- 眼球運動 ・10
- 環境の調整 ・26
- 肝硬変 ・17
- 看護過程 ・25
- 看護管理の概念 ・28
- 看護基準 ・28
- 看護教育制度の変遷 ・28
- 看護行政 ・28
- 看護業務管理 ・28
- 看護師等の人材確保の促進に関する法律 ・2, 23
- 看護職員の確保 ・28
- 看護職員の労働安全衛生 ・28
- 看護職員の労働環境 ・28
- 看護職者の倫理綱領 ・24
- 看護職の各種資格と活動 ・27
- 看護制度 ・28
- 看護制度の変遷 ・28
- 看護専門職 ・58
- 看護体制 ・4
- 看護チーム ・4
- 看護提供システム ・28
- 看護における倫理 ・24
- 看護にかかわる診療報酬 ・28
- 看護のグローバル化 ・59
- 看護の継続性 ・24
- 看護の質保証 ・58
- 看護の対象としての人間 ・24
- 看護の対象との協働 ・24
- 看護の定義 ・24
- 看護の変遷 ・24
- 看護の本質 ・24
- 看護の役割 ・4
- 看護の倫理綱領 ・2
- 看護目標 ・25
- 看護問題の明確化 ・25
- 看護倫理 ・2
- 患者会 ・30
- 患者－家族関係 ・53
- 患者－看護師関係 ・51
- 患者誤認 ・7
- 患者ニーズ ・3
- 患者の権利 ・2
- 患者の権利と擁護 ・24
- 冠循環 ・10
- 関節 ・9
- 関節可動域 ・6, 9
- 関節可動域障害 ・37
- 肝切除術 ・34

関節リウマチ・16, 38
感染拡大の防止の対応・25
感染経路・14
感染経路別予防策・25
感染症・5, 14, 21, 42, 50
感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律<感染症法>・21
感染症への対処・29
感染症予防・21
感染性廃棄物・7, 25
感染対策上隔離が必要な子ども・47
感染防御・4
感染予防・22, 25, 44, 45, 55
肝臓・12
肝臓の炎症・17
肝臓の疾患・17
肝臓の腫瘍・17
がん対策・22
がん対策基本法・22
浣腸・7, 26
眼底検査・36
眼底光凝固療法・36
肝動脈塞栓術・34
冠動脈バイパス術・32
肝庇護療法・34
肝不全・17
緩和ケア・31, 57
緩和ケアチームアプローチ・31

き

気管吸引・8
気管支拡張薬・32
気管支鏡検査・32
気管支喘息・16, 32
気管内挿管時の援助・29
気管内挿管法・29
危機・50
危機介入・50
危機的状態・29
気胸・16
器質性精神障害・51
基礎体温測定法・38
基礎代謝・3, 12
喫煙・1, 13
拮抗ホルモン・13
気道・11, 16
気道確保の方法・29

気道浄化・58
気道の確保・8
機能性疾患・15
機能的発達・44
ギプス固定・38
気分(感情)障害・51
気分安定薬・52
基本技術・25
基本的人権・2, 24
基本的生活習慣の確立・3, 45
基本的日常生活援助技術・26
基本的日常生活動作・40
基本的欲求・3
肝生検・34
虐待・46, 47, 56
虐待防止・44
逆流性食道炎・17
キャリア開発・28
吸引・8, 46
嗅覚・10, 15
嗅覚受容器・10
嗅覚障害・36
救急救命処置・8
救急救命処置が必要な子ども・46
救急処置を受ける子ども・46
吸収・12
急性・重症看護・29
急性期持続血液濾過透析・35
急性腎不全・35
急性膵炎・33
急性増悪・47, 57
急性中毒への対処・29
休息・睡眠・26
吸入・27
給付・2
救命救急処置・27
教育・18
共感・24
胸腔穿刺・32
胸腔ドレナージの管理・27
凝固・線溶系・16
胸骨圧迫法・29
狭心症治療薬・6
強心薬・6
胸腺・11
胸痛・5
共同生活援助・53
共同生活介護・53
胸部の筋・9
胸膜・11

業務従事者届・23
共有スペース・7
虚血性心疾患・16, 32
居住環境・30, 57
居住スペース・7
居宅・4
居宅介護・53
ギラン・バレー症候群・15, 38
筋萎縮性側索硬化症・15, 38
禁忌・6
緊急手術・46
緊急性と重症度のアセスメント・29
緊急度の把握・47
筋ジストロフィー・17
筋収縮・9
筋生検・37
筋組織・9
筋短縮症・15

く

空気・1
空腸・12
苦痛の緩和・43
クライシス・50
グリーンケア・25, 57
クリティカルシンキング・24
クリニカルパス・25
グループダイナミクス・19
グループホーム・53
車椅子への移乗、車椅子での移動・移送・26
クロイツフェルト・ヤコブ病・15
クローン病・33

け

ケアホーム・53
ケアマネジメント・19, 53, 56
ケアを通じてもたらされる安楽・25
計画手術・46
計画立案・6
経管栄養・58
経管栄養法・26, 48
頸管粘液検査・38
経口・27
芸術療法・52

- 経静脈栄養法 ・7, 26
 継続看護 ・27
 継続教育 ・28
 形態的発達 ・44
 傾聴 ・24
 系統別のアセスメント ・25
 経皮 ・27
 経皮的冠動脈形成術 ・32
 経皮的動脈血酸素飽和度の測定 ・27
 頸部の筋 ・9
 けいれん ・5, 46
 ケースマネジメント ・56
 下血 ・5
 血液 ・4, 11
 血液悪性疾患 ・36
 血液型 ・11
 血液凝固 ・11, 15
 結核予防 ・21
 血管性認知症 ・15
 血管内治療 ・37
 血管バイパス術 ・37
 月経異常 ・49
 血栓除去術 ・32
 血栓溶解療法 ・32
 結腸 ・12
 血糖降下薬 ・15
 血糖自己測定 ・34
 血糖測定 ・27
 血糖調節機能障害 ・34
 ゲノム ・9
 下痢 ・5, 17, 41, 46
 牽引法 ・38
 減感作療法 ・36
 健康寿命 ・21
 健康寿命の延長 ・18
 健康診査 ・47
 健康増進法 ・22
 健康な食生活 ・26
 健康日本 21 ・22
 健康の概念 ・21
 健康の諸相 ・24
 健康のとらえ方 ・24
 健康の保持増進 ・40
 健康被害と母集団 ・21
 健康への影響要因 ・24
 健康保険 ・19
 健康保険法 ・56
 言語機能障害 ・37
 言語聴覚士法 ・23
 言語的コミュニケーション ・6
 言語発達 ・3
 検査 ・43
 権利擁護 ・44, 54, 56

 こ
 誤飲物質 ・46
 抗 HIV 療法 ・36
 降圧薬 ・6
 降圧利尿薬 ・15
 抗アレルギー薬 ・32
 更衣 ・41
 抗ウイルス薬 ・6, 15
 抗うつ薬 ・52
 抗癌薬 ・6, 15, 31
 抗菌薬 ・6, 15
 口腔 ・17
 口腔ケア ・7, 57
 口腔内・鼻腔内・気管内吸引 ・27
 口腔内・鼻腔内吸引 ・8
 攻撃的行動 ・53
 高血圧 ・16
 抗原 ・11
 膠原病 ・16
 高脂血症 ・16, 34
 高次脳機能障害 ・37
 公衆衛生 ・21
 恒常性維持機構 ・9
 甲状腺 ・13
 甲状腺癌 ・35
 甲状腺機能障害 ・35
 甲状腺切除術 ・35
 甲状腺の疾患 ・17
 甲状腺ホルモン療法 ・35
 抗精神病薬 ・52
 酵素 ・12
 抗体 ・11
 高体温 ・5
 抗てんかん薬 ・52
 後天性免疫不全症候群 ・21
 行動援護 ・53
 行動症候群 ・51
 行動制限 ・53
 高尿酸血症 ・16, 34
 更年期症状 ・49
 公費負担医療 ・19
 抗不安薬 ・52
 抗不整脈薬 ・6
 肛門 ・12
 抗利尿ホルモン ・12
 高齢者医療制度 ・2
 高齢者虐待 ・40
 高齢者虐待の防止、高齢者の養護者
 に対する支援等に関する法律 <
 高齢者虐待防止法> ・20
 高齢者差別 ・40
 高齢者と未婚子のみの世帯の介護 ・
 40
 高齢者の医療制度 ・19
 高齢者の健康 ・39
 高齢者の死にかかわる権利の擁護 ・
 43
 高齢者の権利擁護 ・40
 高齢者の生活アセスメント ・40
 高齢者の多様性 ・39
 高齢者の単独世帯の介護 ・40
 高齢者の夫婦のみの世帯の介護 ・40
 高齢多死社会 ・55
 向老期 ・28
 誤嚥 ・6, 7, 55
 誤嚥性肺炎 ・41
 呼吸 ・11, 51
 呼吸運動 ・11
 呼吸運動障害 ・31
 呼吸音聴取 ・6
 呼吸管理 ・8
 呼吸器系 ・4
 呼吸機能 ・16
 呼吸機能検査 ・32
 呼吸機能障害 ・31
 呼吸筋 ・11
 呼吸困難 ・5, 46
 呼吸調節 ・11
 呼吸のアセスメント ・27
 呼吸不全 ・16
 国際協力活動 ・59
 国際生活機能分類 ・30, 53
 国勢調査 ・21
 国民医療費 ・2, 19
 国民皆保険 ・2
 国民皆保険・皆年金 ・19
 国民健康保険 ・19
 こころのケア ・8
 こころの健康 ・22
 鼓室形成術 ・36
 個人情報保護 ・2
 個人精神療法 ・52
 個人の尊厳 ・2, 24
 子育て支援 ・44

子育て支援施策 ・48
骨・筋系 ・4
骨格 ・9
骨格筋 ・9
骨髄穿刺 ・35, 47
骨折 ・17, 29, 42
骨粗鬆症 ・17, 42
骨の腫瘍 ・17
骨盤臓器脱 ・49
骨盤底筋 ・9
子ども・子育て応援プラン ・20
個別指導・集団指導の特性と適用 ・
25
個別性 ・3
コミュニケーション ・6, 25, 40
コミュニケーション能力 ・44
誤薬 ・7, 25
雇用形態 ・1
雇用保険法 ・19
雇用労働者化の進行 ・18
婚姻・家族形態 ・1
根拠に基づいた看護 ・24
根拠に基づいた実践 ・24
混乱 ・43

さ

サーカディアンリズム ・9, 52
災害 ・48, 50, 53, 59
災害看護 ・8
災害時地域精神保健医療活動 ・50
再吸収 ・12
採血 ・8, 47
再生 ・14
在宅・施設につなげる看護 ・40
在宅医療 ・23
在宅医療・介護 ・55
在宅看護 ・55
在宅サービス機関 ・20
在宅における看護活動 ・27
在宅リハビリテーション ・57
在宅療養中の子ども ・48
サイトカイン ・11
採尿 ・47
細胞 ・9
細胞外液 ・9
細胞骨格 ・9
細胞質 ・9
細胞性免疫 ・11

細胞内小器官 ・9
細胞膜 ・9
作業機能障害 ・37
作業療法 ・52
作業療法士 ・54
左心不全 ・16
差別 ・50
サリドマイド ・15
酸塩基平衡 ・11, 17
酸塩基平衡調節機能障害 ・34
産科出血 ・50
産業廃棄物 ・22
産後うつ ・50
産褥 ・5, 13, 49, 50
産褥熱 ・50
酸素化障害 ・31
酸素吸入 ・8, 27
酸素ボンベ ・8
酸素マスク ・8
酸素流量計 ・8
酸素療法 ・32, 46, 58
産痛 ・49
産婦 ・49

し

死 ・5
死因 ・1
シェーグレン症候群 ・16
ジェンダー ・49
自我 ・52
歯科医師法 ・23
視覚 ・10, 15
視覚障害 ・36, 42
自我の発達 ・45
色覚 ・10
子宮 ・13
糸球体濾過量 ・34
子宮復古不全 ・50
刺激 ・10
刺激伝導系 ・10
刺激伝導障害 ・32
止血 ・8
止血機構 ・11
止血法 ・27
嗜好性 ・40
自己管理 ・30
自己管理支援 ・30
自己管理状況 ・30
自己決定 ・48, 54
自己決定権 ・2
事故防止 ・44, 45
自己免疫疾患 ・14, 36
自殺・自殺企図 ・53
自殺対策 ・22
自殺対策基本法 ・54
死産 ・21, 50
四肢切断 ・38
支持組織 ・9
脂質異常症 ・16
支持的面接 ・52
四肢の筋 ・9
歯周病 ・17
思春期 ・3, 45, 49
視床 ・9
視床下部 ・9, 13
自傷行為 ・53
視診 ・25
姿勢機能障害 ・37
施設間における継続 ・27
施設内における継続 ・27
事前指示 ・43
自然な排便・排尿 ・26
市町村 ・4, 53
市町村および都道府県の老人福祉計
画 ・20
市町村保健センター ・22
膝関節液検査 ・37
膝関節鏡検査 ・37
失禁のケア ・7
湿疹 ・15
失調 ・5
室内空気汚染 ・22
疾病認識 ・30
児童委員 ・20
児童虐待の防止等に関する法律 ・20
児童虐待防止 ・22
児童相談所 ・20
自動体外式除細動器 ・8
児童の権利に関する条約 ・44
児童福祉法 ・20
死に対する子どもの反応 ・47
刺入部位 ・7
死の三徴候 ・5
死の受容 ・5
死の受容過程 ・31
死の兆候とケア ・25
死亡 ・1
死亡・死因 ・21

死亡後のケア ・25
 脂肪の代謝 ・12
 死亡判定 ・5
 視野 ・10
 社会・文化的存在 ・24
 社会化 ・45
 社会活動 ・39
 社会環境 ・1
 社会参加 ・30, 41, 53, 55
 社会資源 ・48, 53, 56, 57
 社会性 ・3, 44
 社会的環境 ・21
 社会的責任 ・3
 社会的背景 ・55
 社会的欲求 ・3
 社会福祉協議会 ・20
 社会福祉施設 ・20
 社会福祉士法及び介護福祉士法 ・23
 社会福祉の理念と変遷 ・20
 社会復帰 ・53
 社会保険 ・19
 社会保障給付費 ・19
 社会保障制度改革 ・19
 社会保障費 ・55
 縦隔 ・11
 習慣 ・1
 住環境 ・1
 就業構造 ・18
 就業状況 ・2
 周産期 ・49, 50
 周産期死亡 ・21
 周手術期における子ども ・46
 周術期 ・29
 重症筋無力症 ・17, 38
 住宅環境 ・39
 集団 ・19
 集団精神療法 ・52
 集団力動 ・52
 重度訪問介護 ・53
 十二指腸 ・12
 十二指腸潰瘍 ・33
 収入・生計 ・39
 修復 ・14
 終末期 ・31, 43, 57
 終末期支援 ・43
 終末期にある子ども ・47
 終末期における生き方や死の迎え方の意向 ・43
 就労・雇用 ・39
 就労移行支援 ・53
 就労継続支援A型・B型 ・53
 手術 ・31
 手術体位 ・29
 手術方法 ・29
 手術療法 ・14, 29, 31, 43
 受精 ・13
 受胎 ・49
 手段的日常生活動作 ・40, 57
 出血傾向 ・16
 術後合併症 ・29
 術後合併症の予防 ・29
 術後の機能障害と生活制限 ・30
 術後の疼痛管理 ・29
 出産・育児の準備 ・49
 出生 ・1, 21
 出生前診断 ・50
 術前指導 ・29
 術前準備 ・46
 術中の安全管理 ・29
 授乳 ・44
 守秘義務 ・2, 23
 腫瘍 ・14, 15
 受容 ・24
 主要疾患 ・5
 受療行動 ・1
 受療状況 ・1
 受療率 ・1
 循環器系 ・4
 循環器疾患の予防 ・22
 循環機能 ・16
 循環機能障害 ・32
 循環障害 ・14
 循環のアセスメント ・27
 昇圧薬 ・6
 常位胎盤早期剥離 ・50
 消炎鎮痛薬 ・6
 消化 ・12
 消化・吸収機能検査 ・33
 生涯学習 ・18
 障害者基本計画と障害者プラン ・20
 障害者基本法 ・20
 障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律〈障害者虐待防止法〉 ・20
 障害者自立支援法 ・20, 56
 障害者総合支援法 ・20, 56
 障害に対する受容と適応 ・30
 障害の受容 ・48
 障害をもつ新生児 ・50
 消化管運動 ・12
 消化管機能障害 ・33
 消化管手術後ドレーン挿入 ・33
 消化管の炎症と潰瘍 ・17
 消化管の疾患 ・17
 消化管の腫瘍 ・17
 消化管ホルモン ・13
 消化器系 ・4
 小規模多機能型居宅介護 ・43
 少子化 ・18
 少子化対策 ・20
 少子高齢化 ・18
 床上運動・活動の援助 ・26
 床上での排泄の援助 ・26
 床上排泄 ・7
 症状マネジメント ・31, 52, 57
 情緒 ・44
 情緒的变化 ・45
 情緒の障害 ・51
 消毒 ・7, 25
 小児医療 ・44
 小児看護 ・44
 小児疾患 ・5
 小児の安全・安楽への看護 ・46
 小児の一次救命処置 ・46
 小児の権利 ・44, 46
 小児の事故・外傷 ・46
 小児の死の概念 ・47
 小児の手術 ・46
 小児の死を看取る家族 ・47
 小児の人権 ・44
 小児の性〈セクシュアリティ〉意識の変化と逸脱行動 ・45
 小児の熱傷 ・46
 小児の発達段階 ・47, 48
 小児の発達とセルフケアの獲得への援助 ・47
 小児の福祉 ・44
 小児の問題行動と対応 ・45
 小児慢性特定疾患治療研究事業 ・47
 小児をとりまく社会環境 ・45
 小脳 ・9
 小脳疾患 ・37
 上皮小体 ・13
 上皮小体の疾患 ・17
 上皮組織 ・9
 上部消化管造影 ・33
 上部消化管内視鏡検査 ・33
 情報公開 ・19, 23
 情報収集 ・6
 漿膜 ・10

静脈・10
静脈血栓症・16
静脈性尿路造影・34
静脈瘤・16
将来推計人口・1
ショートステイ・53
食育・45
職業性疾患の発生状況と予防・28
職業としての看護・24
食細胞・11
食事・1, 6, 13, 26, 57
食事・栄養状態のアセスメント・26
食事摂取基準・26
食事摂取能力・57
食事療法・35
触診・25
食生活・40, 45
食生活の援助・40
褥瘡・8
褥瘡管理・58
食中毒への対処・29
食道・12, 17
食道静脈瘤硬化療法・34
食道切除術・33
職場調整・30
食品安全確保対策・22
食品衛生・1
食品衛生管理制度・22
褥婦・49
食物・51
助産所・4, 23
女性生殖器・38
女性生殖器切除術・39
女性生殖器の疾患・18, 49
女性の就労の関係法規・48
女性労働の変化・18
触覚障害・36
ショック・5
所得・18
自立・自律支援・55
自立支援・40
自立支援医療・53
自律神経系・10, 17
自律神経失調・17
自立歩行・57
視力・10
腎・尿路の腫瘍・17
寝衣交換・7
腎移植術・35
腎炎・慢性腎臓病・17

人格・39
新型インフルエンザ・21
心機能・10
腎機能検査・34
心筋症・16
神経学的所見・29
神経系・4
神経叢・10
神経膠細胞・9
神経細胞・9
神経症性障害・51
神経組織・9
神経伝達物質・52
神経変性・15
心血管造影検査・32
人権・19
人工関節置換術・38
人工眼内レンズ挿入術・36
人工肛門造設術・33
人工呼吸・8
人工呼吸器・58
人工呼吸療法・58
人口集中・18
人口静態・1, 21
進行性変化・49
人工臓器・14
人口動向・18
人口動態・1
侵襲的陽圧換気・32
心身障害・48
心身相関・52
腎生検・34
新生児・44, 50
新生児期・3
新生児の異常・50
新生児の健康逸脱・50
人生と経験の多様性・39
人生の統合をはかる看護・40
心臓・10, 16
腎臓・12
心臓カテーテル検査・32
腎臓のホルモン・13
親族、近隣、交際のネットワーク・19
身体計測・47
身体拘束・40, 54
身体障害者福祉法・20, 30
身体徴候のアセスメント・43
身体的影響・47
身体発育の評価・44
身体表現性障害・51

身体防御機能障害・35
心タンポナーデ・16
心電図・心エコー検査・32
浸透圧調節・11
心内膜炎・16
心肺停止状態への対応・29
深部感覚・10
心不全・16, 32
腎不全・17
蕁麻疹・16
心マッサージ・8
信頼関係の基礎作り・51
信頼関係の構築・24
心理・情緒機能・40
心理教育・52
心理社会的影響・47
心理社会的発達・44
心理社会的変化・3
心理専門職・54
心理的発達の障害・51
診療記録・23
診療所・4
診療放射線技師法・23
診療報酬制度・19

す

髄液検査・37
腭液分泌障害・33
水質汚染・21
膵臓・12
膵臓の炎症・17
膵臓の疾患・17
膵臓の腫瘍・17
膵島・13
水分・51
髄膜・9
睡眠・1, 7, 9
睡眠障害・5, 41, 52
睡眠薬・52
頭蓋内圧亢進・15
スキントテスト・35
スタンダードプリコーション・7
頭痛・5, 15
スティグマ・50
ステロイド療法・36
ストーマ造設・29
ストーマケア・57
ストレス・1, 50

ストレス関連疾患 ・28
ストレス関連障害 ・51
ストレス脆弱性仮説 ・52
ストレス対処方法 ・28
ストレッチャーへの移動、ストレッチャーでの移送 ・26
ストレンクス ・51
スピリチュアリティ ・39
スモン ・15

せ

性 ・49
性・生殖機能障害 ・38
性・生殖器の疾患 ・18
性意識 ・49
生活介護 ・53
生活環境 ・1, 40
生活技能訓練 ・52
生活機能向上 ・43
生活機能障害 ・30
生活訓練 ・53
生活行動 ・1
生活史 ・39
生活者としての存在 ・24
生活習慣 ・13, 18, 24, 39
生活習慣に関連する健康問題 ・28
生活習慣病 ・5, 18
生活習慣病の発症因子と予防 ・28
生活習慣病の予防 ・22, 45
生活ストレス ・28
生活の場 ・39, 55
生活の満足感 ・39
生活のリズム ・39
生活廃水処理 ・22
生活様式 ・39, 55
生活リズム ・41
性感染症 ・38, 49
性感染症治療 ・39
性機能障害 ・18, 39
清潔 ・7, 41, 51, 57
清潔・衣生活の援助 ・26
生検 ・35
性交障害 ・38
性交障害治療 ・39
性行動 ・1, 49
生産・労働 ・18
清拭 ・7
精子の形成 ・13
性周期 ・13, 49
生殖 ・18, 49
生殖機能 ・3
精神・運動機能の評価 ・44
精神医療 ・54
精神医療審査会 ・54
精神科チーム医療 ・54
精神科デイケア ・53
精神科ナイトケア ・53
精神科訪問看護 ・53
精神看護 ・51
成人期 ・3
精神機能 ・52
精神作用物質 ・51
精神疾患 ・5
精神障害者（児） ・22
精神障害者保健福祉手帳 ・53
精神情緒 ・52
精神遅滞 ・51
精神的苦痛 ・43
精神的支援 ・29
精神の健康 ・50
成人の人格および行動の障害 ・51
精神保健 ・22
精神保健医療福祉 ・54
精神保健医療福祉の改革ビジョン ・50
精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 ・20
精神保健指定医 ・54
精神保健初期対応 ・50
精神保健対策の制度 ・22
精神保健福祉士 ・54
精神保健福祉センター ・53
精神保健福祉相談員 ・54
精神保健福祉士法 ・23
精神力動 ・52
性腺ホルモン ・13
精巣 ・13
精巣腫瘍 ・18, 38
精巣上体 ・13
生態学的環境 ・21
生体機能のモニタリング ・27
生体検査 ・27
生体リズム ・9
成長 ・13, 44
成長発達する存在 ・24
性的分化 ・49
性と生殖器系 ・4
青年期 ・28
成年後見制度 ・56
性反応 ・49
性暴力 ・49
生命維持活動調節機能障害 ・37
生命徴候が危険な状況にある子ども ・46
生命の危機的状況のアセスメント ・27
整容 ・7
性欲の減退 ・38
生理的障害 ・51
セーフティマネジメント ・4, 23, 25, 28, 40, 53
世界人権宣言 ・24
世界保健機関 ・21
咳嗽 ・5
脊髄 ・9
脊髄神経 ・10
脊髄造影 ・37
脊髄損傷 ・15, 37
脊髄反射 ・9
脊柱 ・9
脊椎の外傷 ・15
セクシュアリティ ・41, 49
世帯 ・18
世帯数 ・1
舌癌 ・36
セックス ・49
摂食・嚥下障害 ・41
摂食・嚥下能力 ・57
接触皮膚炎 ・16
切創 ・7
セルフケア ・24, 45, 51, 55
セルフケア・自己管理支援 ・30
セルフケア行動形成 ・30
セルフケアの確立 ・18
セルフヘルプグループ ・54
セルフマネジメント力 ・57
線維素溶解 ・11
前期破水 ・50
穿刺部位 ・8
染色体 ・9
全身性エリテマトーデス ・16
全人的苦痛 ・31
全人的ケア ・31
全体としての人間 ・24
前置胎盤 ・50
先天異常 ・3, 14, 48, 50
先天性心疾患 ・16
先天的疾患のある子ども ・48

先天免疫 ・3
穿頭術 ・37
洗髪 ・7
潜伏期間 ・14
せん妄 ・42
専門看護師 ・27, 54
専門職間の連携促進 ・52
前立腺腫瘍 ・18
前立腺切除術 ・38

そ

臓器移植 ・14
造血 ・11
造血因子 ・11
造血幹細胞移植 ・31
造血器 ・16
造血器の腫瘍 ・16
総合機能評価 ・40
早産 ・50
早産児 ・50
喪失体験 ・39
創傷 ・8
創傷管理 ・27
創傷のアセスメント ・27
創傷の治癒過程 ・27
総人口 ・1
総人口の減少 ・18
壮年期 ・28
掻痒症 ・41
ソーシャルサポート ・53
ソーシャルサポートネットワーク ・
19
組織 ・9
咀嚼 ・12
咀嚼・嚥下機能障害 ・17,33
尊厳 ・39

た

体位 ・7
第一次予防 ・50
体位ドレナージ ・8
体位変換 ・7, 26
退院 ・43
退院支援 ・53, 56
退院調整 ・27, 30, 56

退院に向けての看護 ・46
体液 ・11
体流量調節機能障害 ・34
体温 ・4, 8, 12
体温調整のアセスメント ・27
体温調節機能障害 ・34
体温調節中枢 ・12
体温の調節 ・12
大気汚染 ・21
退行性変化 ・49
第三次予防 ・50
胎児 ・49
胎児期 ・3
胎児機能不全 ・50
胎児の血液循環 ・10
胎児の発生 ・13
代謝・内分泌系 ・4
代謝機能 ・13
代謝機能障害 ・34
代謝障害 ・1, 9, 14
体循環 ・10
代償機能の獲得 ・30
帯状疱疹 ・15
対人関係 ・51
体性感覚 ・10
体性神経系 ・10
大腸切除術 ・33
大腸内視鏡検査 ・33
大動脈解離 ・16
大動脈内バルーンパンピング ・32
大動脈瘤 ・16
体内時計 ・9
第二次性徴 ・3, 45, 49
第二次予防 ・50
大脳 ・9
代理意思決定支援 ・29
他職種との協働 ・24
他職種との連携 ・24, 28
打診 ・25
脱臼 ・17
脱水 ・5, 46
脱水症 ・41
脱髄性疾患 ・15
タッチテスト ・36
多発性硬化症 ・15
多発性骨髄腫 ・16
多発性内分泌腫瘍 ・17
多様性 ・3
多様な文化 ・59
短期入所 ・53

胆汁代謝の障害 ・17
胆汁分泌障害 ・33
炭水化物の代謝 ・12
男性生殖器 ・38
男性生殖器切除術 ・39
男性生殖器の疾患 ・18
胆道 ・12
胆道・胆のうドレーン挿入 ・34
胆嚢 ・12
胆嚢の炎症 ・17
胆嚢の疾患 ・17
胆嚢の腫瘍 ・17
タンパク合成 ・9
蛋白質の代謝 ・12

ち

チアノーゼ ・5
地域活動への参加 ・18
地域生活支援事業 ・53
地域包括ケア ・56
地域包括支援センター ・4
地域保健 ・22
地域保健法 ・22
地域連携 ・43
地域連携パス ・56
地域連携部門 ・40
チームアプローチ ・24, 40, 58
チーム医療 ・4, 54
チームカンファレンス ・24
チームケア ・56
チーム連携 ・30
力 ・51
地球温暖化 ・21
地球環境 ・21
蓄尿・排尿機能障害 ・38
蓄尿反射 ・12
膣 ・13
窒息 ・7, 55
知的障害者福祉法 ・20
乳房切除 ・29
地方分権 ・19
注射 ・27, 47
中心静脈栄養法 ・33, 58
虫垂 ・12
中枢神経系 ・9, 15
中枢神経作用薬 ・6
中途視覚障害者 ・36
中皮腫 ・16

チューブ・ライントラブル・25
超音波・14
聴覚・10, 15
聴覚障害・36, 42
長期合併症・31
聴診・25
調節ホルモン・13
腸蠕動音聴取・6
聴力・10
直腸・12
直腸診・33
直腸内・27
直流除細動器・8
治療食・26

つ

椎間板造影・37
椎間板ヘルニア・17, 38
通所施設・55
痛風・16
強さ・51
強み・51

て

手洗い・7, 25
低栄養状態・41
帝王切開術・50
低出生体重児・48, 50
低体温・5
低体温症・35
低体温療法・37
適応・14, 39
適応する存在・24
適応理論・50
溺水・46
摘便・7, 26
転移感情・52
電解質・4, 17
電解質調節機能障害・34
てんかん・15
点眼・27
点滴静脈内注射・7
転倒・40
転倒・転落・7, 25, 55
点鼻・27

殿部の筋・9

と

トイレ歩行・ポータブルトイレでの
排泄の援助方法・26
同化作用・12
同行援護・53
統合失調症・51
統合失調症型障害・51
凍傷・29, 55
透析療法・14
疼痛・37
疼痛アセスメント・31
導尿・7, 26
糖尿病・16
糖尿病性神経障害・15
糖尿病治療内服薬・35
糖尿病治療薬・6
糖尿病の予防・22
頭部外傷・37
糖負荷試験・34
頭部の筋・9
動脈・10
動脈血液ガス分析・32
動脈血酸素飽和度・29
動脈硬化症・16
トータル・ヘルスプロモーション・
22
特異的生体防御反応・11
特定医師・54
特定健康診査・22
特定疾患治療研究事業・22
特定非営利活動促進法・20
特定保健指導・22
吐血・5
閉じこもり・55
徒手筋力テスト・6
土壌・1
土壌汚染・21
独居高齢者・55
突発性難聴・36
ドナー・31
ドメスティック・バイオレンス・49
トリアージ・8, 46, 47
ドレッシング・包帯法・27

な

内視鏡・14
内視鏡的逆行性胆管膵管造影・33
内視鏡的逆行性胆管膵管造影法・34
内臓感覚・10
内的・外的要因・13
内部環境調節機能障害・34
内部環境調節機能の障害・17
内部環境の恒常性・4, 9
内分泌機能障害・35
内分泌系の疾患・17
軟骨・9
難病・57
難病対策・22

に

ニーズをもつ存在・24
日常生活活動・30
日常生活動作・6, 57
日常生活能力・40
日本国憲法第25条・19
入院期間・1
乳がん術後慢性リンパ浮腫・39
乳がん内分泌療法・39
乳児・44
乳児期・3
乳児死亡・21
入所施設・55
乳腺・子宮・卵巣腫瘍・38
乳腺炎・50
乳腺の疾患・18
乳房・13
乳房腫瘍穿刺吸引細胞診・38
乳房切除術・39
乳房超音波検査・38
乳幼児の意識レベル・46
入浴・7, 41
尿・12
尿管・12
尿管ストーマ造設・38
尿失禁・26, 41, 57
尿道・12
尿流動態検査・38
尿路の炎症・17
尿路の通過障害・17
人間と健康・24

妊娠・5, 13, 49
妊娠高血圧症候群・50
妊娠糖尿病・50
妊娠の異常・50
認知・44
認知行動療法・52
認知症・15, 42
認知症高齢者グループホーム・43
認知症高齢者の家族への支援とサポートシステム・42
認知症対応型共同生活介護・43
認知能力・3
認定看護師・27, 54
妊婦・49

ね

熱産生・12
熱傷・29, 55
熱中症・55
熱中症への対処・29
熱放散・12
ネブライザー・8
ネフローゼ症候群・35
年金制度・19
捻挫・17
粘膜・10, 11
年齢別人口・1

の

脳・52
脳・神経機能障害・37
脳幹・9
脳血管系・15
脳血管障害・37
脳血管造影・37
脳梗塞・37
脳死・5
脳死状態・37
脳室・9
脳室ドレナージ術・37
脳室-腹腔(V-P)シャント術・37
脳腫瘍・37
脳循環・10
脳神経・10
脳脊髄液検査・52

脳の画像検査・52
脳の部位・52
脳波検査・37, 52
ノーマライゼーション・2, 19, 40

は

パーキンソニズム・42
パーキンソン症候群・42
パーキンソン病・15
肺・11, 16
肺炎・32
肺癌・32
配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律・20
肺梗塞・16
肺腫瘍・16
肺循環・10
肺循環障害・16
肺生検・32
排泄・3, 7, 26, 41, 51, 57
排泄機能障害・38
肺切除術・32
排泄のアセスメント・26
排泄の障害・17
肺塞栓・50
肺塞栓症・16
バイタルサイン・6, 29
バイタルサインの測定・47
排痰法・27
排尿・12
排尿機能障害・38
排尿障害・17
排尿反射・12
排便の障害・17
廃用症候群・7, 17, 30, 40, 41
ハイリスク新生児・48
発育の評価・44
白血球減少症・16
白血病・16
発生・13
発達・44
発達課題・24, 44
発達課題別生活習慣・18
発達障害・22, 48
発達障害者支援法・20
発達の評価・44
発熱・46
バリアフリー・22

針刺し・7
針刺し事故・25
晩期合併症・31
犯罪被害者等基本法・54
搬送・移送・8

ひ

ピアサポーター・54
日帰り手術・46
鼻腔カニューラ・8
鼻腔内視鏡検査・36
鼻腔内手術・36
非言語的コミュニケーション・6
非侵襲的換気療法・58
非侵襲的陽圧換気・32
微生物・14
脾臓・11
ビタミン・ミネラルの代謝・12
ビタミン欠乏症・16
必須栄養素・16
非特異的生体防御機構・11
ヒトの発生・49
ヒト免疫不全ウイルス・21
ヒト免疫不全ウイルス感染症・16
泌尿器系・4
泌尿器の疾患・17
被曝防御・31
皮膚・8, 10, 11
皮膚感覚・10
皮膚粘膜障害・35
被保険者・2
肥満・16, 34
秘密の保持・2
病院・4
病室環境・7
標準看護計画・24
標準予防策・25
病床の整備・26
病棟環境の整備・53
貧血・5, 16
頻尿・5

ふ

不安・29
フィードバック機構・13

不育症・49
フィジカルアセスメント・6, 25, 44
復学支援・47
腹腔鏡視下手術・33
副甲状腺・13
副作用・6, 7, 15
福祉事務所・20
副腎機能障害・35
副腎髄質・13
副腎の疾患・17
副腎皮質・13
副腎皮質ステロイド・6, 32
腹痛・5
副鼻腔炎・36
腹部超音波検査・38
腹部の筋・9
腹壁・17
腹部膨満・5
腹膜・17
腹膜透析・35
服薬自己管理・52
服薬状況・58
浮腫・5
不整脈・5, 16, 32
付属生殖腺・13
物理化学的環境・21
不定愁訴・17
不妊・38
不妊症・49
不妊治療・39
部分浴・7
プライバシーの保護・48
プライマリヘルスケア・21
プレパレーション・46, 47
プロセスレコード・51
分泌・12
分娩・5, 13, 49
分娩の異常・50
分離不安・44

へ

平均寿命・21
平均余命・1, 21
閉経・49
平衡覚・10, 15
平衡感覚・10
平衡器官・10
閉塞性動脈硬化症・16

ペースメーカー装着・29, 32
ヘルスアセスメント・55
ヘルスプロモーション・21
変形性関節症・17
偏見・50
便失禁・26, 57
変性・14
弁置換術・32
便秘・5, 17, 41, 57
弁膜疾患・16

ほ

防衛機制・52
防御機構・11
膀胱・12
膀胱鏡検査・38
膀胱切除術・38
膀胱留置カテーテル・26, 58
放射性物質・21
放射線・14
放射線治療・58
放射線による治療・14
放射線療法・31
包帯法・8
乏尿・5
訪問看護・53, 55
訪問看護サービス・56
訪問看護サービスの管理・経営・56
訪問看護サービスの質保証・56
訪問看護ステーション・4, 23
訪問看護ステーションの開設基準・56

訪問看護制度・56
暴力・53
暴力予防プログラム・53
ホームヘルプ・53
保温・体温管理・27
保健・福祉・18
保健医療福祉活動・19
保険給付・19
保健教育・45
保健師・54
保健師助産師看護師法・2, 23
保険者・2
保健所・4, 22, 53
保険診療・19
保健福祉計画・20
保健福祉施設における看護活動・27

歩行・移動動作・40
歩行時の援助・26
保護者・54
母子及び寡婦福祉法・20
母子健康手帳・22
ポジショニング・38
母子保健・22, 44
母子保健サービス・44, 45
母子保健法・22, 48
母性看護・48
母性保護・1
母性保護の関係法規・48
母体保護法・22
補聴器・36
勃起障害・38
勃起障害治療・39
ボディイメージの変容・29
ボディメカニクス・7
ボディメカニクスの原理・25
母乳育児・49
ホメオスタシス・4, 9
ボランティア活動・20
ホリスティックケア・52
ホルモン・13, 49
ホルモン血中・尿中濃度測定検査・35
ホルモン欠落症状・39
ホルモンの化学的性質・13
ホルモンの受容体・13
ホルモン負荷試験・35
ホルモン療法・38
ポンプ機能障害・32

ま

麻酔・14
麻酔方法・29
末梢循環・10
末梢神経系・10
末梢神経障害・36
マネジメント・58
麻痺・5
麻薬・6
麻薬投与・58
慢性期にある子ども・47
慢性疾患・30
慢性疾患看護・30
慢性腎臓病・35
慢性腎不全・35

慢性的な経過をたどる疾患・47
慢性閉塞性肺疾患・16, 32
マンモグラフィー・38

み

味覚・10, 15
味覚受容器・10
味覚障害・36
水・1, 4, 17
看取り・57
耳・10
民生委員・20

む

無菌操作・7, 25
無尿・5

め

メタボリックシンドローム・16
滅菌・7
滅菌法・25
メニエール病・36
免疫異常・14
免疫機能・52
免疫機能障害・35
免疫系・11
免疫反応・4
免疫不全・16
免疫抑制薬・15, 36
免許・23
面接技法・6
メンタルヘルス・1

も

毛細血管・10
妄想性障害・51
網膜はく離治療・36
目標設定・25
問診・25
問題解決過程・24
門脈系・10

や

薬害・15
薬害エイズ・15
薬剤師・54
薬剤師法・23
薬剤耐性菌・14
薬物の体内動態・15
薬物療法・7, 27, 52, 58
薬理効果・6
薬理作用・15

ゆ

有害事象・7, 15, 31
有糸分裂・9
優先順位決定・25
有訴者・1
有病率・1
有病率・21
輸液管理・7
輸液ポンプ・7
輸液療法・14, 47
輸血・14, 27
輸送還流障害・32

よ

養育・18
養育環境のアセスメント・44
要介護高齢者・40, 43
要介護認定・2
幼児・45
幼児期・3
養成制度・2
腰椎穿刺・47
腰痛症・17
腰部脊柱管狭窄症・17
余暇活動・39
余暇時間・18
予期的悲嘆・31
予防接種・14, 21, 44, 45
与薬・15, 27, 47
与薬方法・7, 27

ら

ライフサイクル・18, 24, 40
ライフスタイル・1
卵管・13
卵管疎通性検査・38
卵巢・13

り

リエゾン精神看護・52
理学療法士及び作業療法士法・23
リカバリ・51
罹患率・1, 21
リスクマネジメント・43
離乳・44
利尿薬・6
リハビリテーション・14, 30, 43, 53
リハビリテーション看護・30
リハビリテーション療法・52
リビングウィル・43
リプロダクティブ・ヘルス・48
リプロダクティブ・ヘルス/ライツ・48
流産・50
療養環境・7
療養食・26
療養の場の多様化・55
両立支援・1
リラクセーション・52
臨死期・43
臨床疫学・21
臨床検査・52
臨床検査技師等に関する法律・23
リンパ・10
リンパ管・10
リンパ系・10
リンパ組織・11
倫理・2, 19, 46, 48
倫理的葛藤と対応・24

れ

冷電法・8, 27
レクリエーション・26
レスパイトケア・55
レニン-アンジオテンシン-アルドス

テロン系 ・12
レビー小体型認知症 ・15

ろ

老化 ・13, 39
老人性癱炎 ・49
老人福祉法 ・20

労働 ・1
労働安全衛生法 ・22
労働環境 ・1
労働基準法 ・23
労働時間 ・18
労働者災害補償保険法 ・19
労働人口 ・1
老年期 ・3, 39
老年期における発達と成熟 ・39

老年期の発達課題 ・39
老年症候群 ・14
濾過 ・12
ろ紙ディスク法 ・36

わ

ワーク・ライフ・バランス ・22